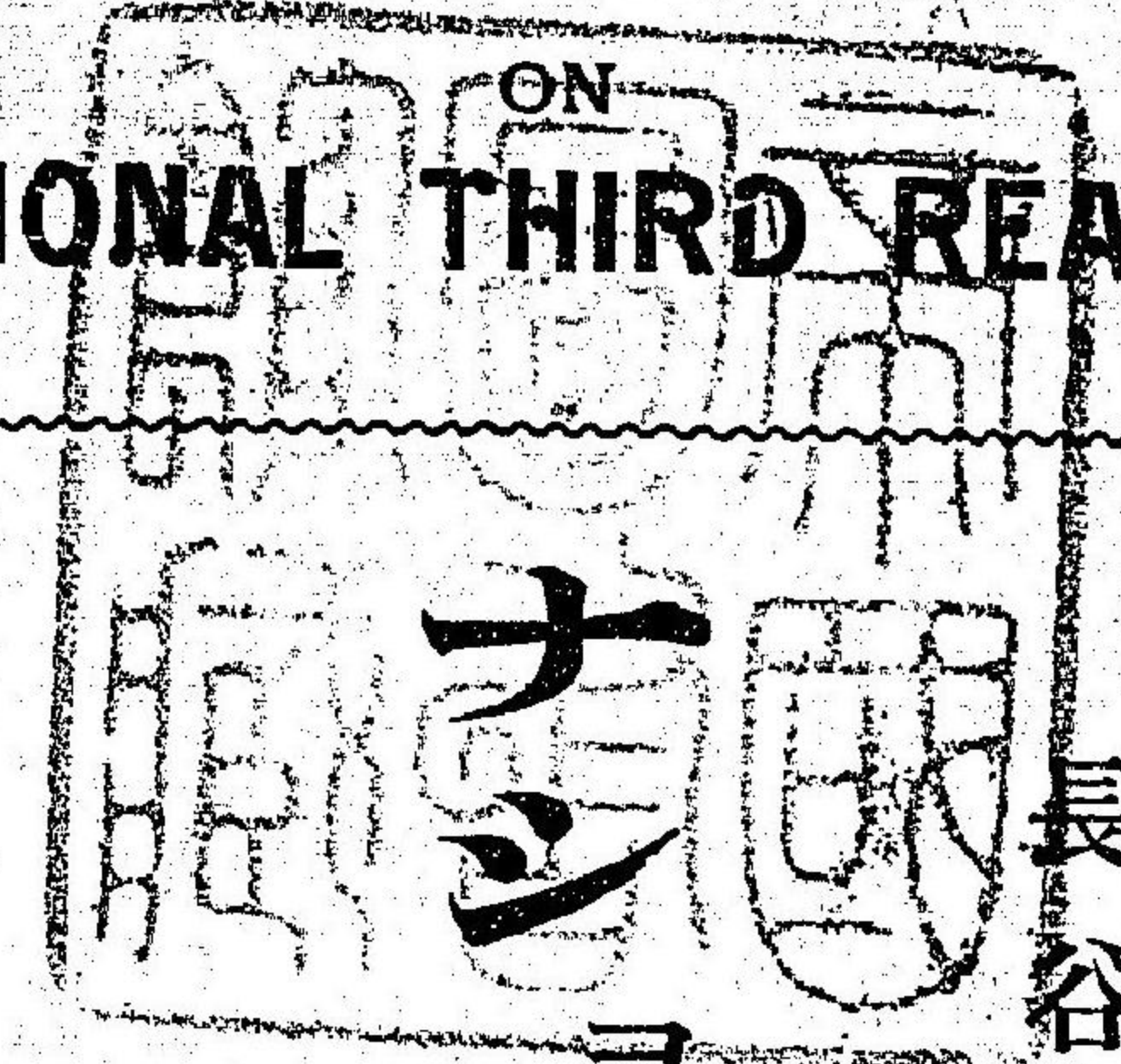


181-180

NOTES AND EXPLANATIONS

ON
NATIONAL THIRD READER



英語の日本記者
長谷川 康講述

第三十
ナル第參讀本講義

下
卷

東京 建文館藏版

明治
45.4.26

緒 言

本講義の上巻が我が英學界に與へた影響は講者の豫期以上であつた。殊に英語を獨習する諸君に『無二の師友』となつたのは講者の素志に合したこと、最も喜ぶところである。而て寧ろ意外に感じたのは元來講義録の類を參考する事を嚴禁して居る東京高等師範附屬中學校で本講義を生徒に持たしめて其自修を助け、『讀本講義を生徒に持たすの教授法』を實驗された事である。其結果は雜誌『英語教授』で神保格氏が逐號發表されて居る。

其他一般の中學生にして本講義に依て英語の力を補修した者が極めて多く、其教員諸氏にして之を參考書にせられた向もあるようである。

如上英語界の全般に涉れる讀者からの謝辭と下巻發行の督促との多かつた中には本講義に對する註文もあつた。その重なるものを舉げると、

(一) 詩の各章も獨學者の便を圖り、他の章同様原語と譯語とを對比すること。

(二) 難解の箇所に對して、例文を以つて理解せしめんとせるは較、進歩せる學生には効あらむも獨習者、初學者には寧ろ説明を詳密にする方を望む。

(三) 譯語を一層直譯風にして巧妙を欲するよりは説明を旨とすること。

(四) 講義注入的にして開發的ならず、一工夫あらまほし。

上の註文に對し、此卷に於いて出來得る限り之に應じた等、即ち、

(一) は平凡となる迄も原語を挿入對比し、(二)も亦、説明を詳にし、更に圖解(289頁の如き)をも加へ、(三)は殆ど直譯を試みた。

(四)の註文は多く教師諸君より寄せられたるものにして之に對して、本卷にては、**練習**を設けて讀者の自發的努力を促した。而して此練習問題に對する答解は別冊として讀者の請に應じて送附することにした、その理由は讀者に自分でやつて見て、同志の者なども研究をし合ひて後其解案を求めさせる目的である。答解をデカに

附けて置くと自分で骨を折るのをツイ面倒がりて直ぐ其答解を見てしまふ虞があるから。

答解を所望の諸君は本卷に添附せる方換券を送附あれば送呈すべし。

發音其他に就いて更に本卷で説述したところもあるから、講義に臨む前に先づそれを讀んで貰ひたい。

發音假名にも改良した處がある、表を参照されよ此卷に於いては第廿八章より卷末迄一章も残さず講述した。

此卷の講義には、友人小島亘君に多大の助力を仰いだ事を感謝する。挿畫は速水不染氏、下欄の單語は宮野英次郎氏を煩はした。

明治四十五年

四月十五日

講逆者誌

英語の發音に就て

(一) 『サシスセソ』の「シ」が混れ込んだ音で、本來は『サ *si* スセソ』でなければならんことは明かである。 *si* を表はすべき邦字がないので止むなく本講義では *ス_i*、*す_i* としてある。 *see* は(シ-)ではない、(ス_i-)である。(シ-)と發音する時には舌の尖端が下齒の裏の根元へ附着する。然るに(ス_i-)は舌端を少し上へ上げ齒の中央以上に着ける。

(二) 『タテツテト』の「チ」と「ツ」も混入音で、本來は『タ *ti* テト』であるべきだ。 *ti* を表はすのに本講義では *テ_i*、*て_i* を用ゐ、*tu* を示すのに *ト*、*ど* を用ゐた。 *tin* は(テン)ではない、(ティン)である。(ティン)は舌を上齒の後ろへ當て置きて強く引き離して(チン)に近く、されど(チ)にあらぬ音を出すべし。 *to* は(ツ-)にあらず(ド-)である。即ち上齒の後の付け根の處へ舌を強く當て、急に引き離して(ウ)の音を加へたるもの。

(三) *dim* は上の(ティン)を濁し、*do* は(ド-)を濁し(ド^o-)としたるものなり。

(四) 『ハヒフヘホ』の音は英語の“h”の音とは違ふ。“h”は吾々が燈火を吹き消す時の音である。

(五) 『バビブベボ』は『ハ』行の濁音ではなく、『バビブベボ』の濁つたものである。唇を合せて強く之を離す點が同一である。

(六) 英語の“v”は“f”の濁音である。“f”は上齒で下唇を軽く噛みたるまゝ息を洩す音にして、之を濁せば“v”なり。

(七) 『ヤイエエヨ』の「イ」と「エ」は邦人が大抵その特質を輕んじて居る音で「エ」は全く『アイウエオ』の「エ」と同一だと思つて居るらしい。そこで英語の *yes* と云ふ字を發音させると大抵の兒童は *es* 即ちア行のエを用ゐて(エス)と云ふ。本講義で(え)を用ゐ示してあるが『ヤ』行のエで(え)を用ゐたのが『ア』行の「エ」である。尤も強音でない部分は「エ」を用ゐたから分り難いかもしれぬが、原語に *ye* の如く *y* が伴つた場合を『ヤ』行とし、伴はぬ時を『ア』行と見て貰ひたい。

要するに講者は我邦の五十音教授に際し

- (1) 『サ』行には「シ」を除きて si を示すべき文字を入れ
- (2) 『タ』行には「チ」「ツ」を除き ti, tu を示す文字を入れ
- (3) 別に『シャシ シュ シェ ショ』及、『チャチ チュ チェ チョ』『ツァツィ ツュ ツェ ツョ』の三行を補ひ
- (4) 『ヤ』行及、『ワ』行の發音を明確に教へ
- (5) 東京語の『シ』と『ヒ』の混同を嚴に訂正する

等は實に我が邦語の上に重要なる改良にして、兼て又、英語教授に際して如何ばかり其進歩に裨益あるか測り知るべからざるとを信ずる。盲蛇の譏を蒙るかも知れぬが此事を國語の教師諸君に囑望するのである。

英語の syllable (音節)の事は上巻にも述べて置いた、又、其音節が二ツ以上ある文字には必ず accent があり、その強音を示す爲めに本講義では平假名を用ゐる事も云つたが、さて、一音節の文字でも邦

語に書き表はす場合には文字數を多く用ゐるからその中で中心となる字を示す爲めにそれを平假名にした。例へば—milk の如き一音節ではあるもの、之を假名で表はさうとすれば(ミルク)とする他はない。たゞさうして置くとミもルもクも皆同じ重さで發音されるといけないから(み^ルク)とした、即ち、下の一線は此字の一音節なる事を示し、(み^ルク)の(み)は之を強く發音し、ルクを軽く之に附屬せしめる意である。

然るに二音節以上の語で accent の無い syllable であつても矢張り上の如く強く發音すべき假名はある、例へば—sac'ri-fice と云ふ字を(さ^クリ^フアイズ)としてあるが勿論(さ^ク)の syllable に accent があるから之を平假名にしたのは宜しい。が^リは片假名ではあるが(さ^ク)のクとは違つて一音節を成して居るし、又フ^{アイ}ズではフ^アが強くイズは輕いのである。之を明細に假名で區別することは到底不可能だから試みないが讀者は

- (い) 發音される母音一ツを含む語を一音節と云ふ。(母音は單獨にても一音節を形くるを得)

(ろ) 母韻の前の子韻をその母音と合して強く發すべし。その他の子音は軽く短く發せよ。
と云ふ規則を心得て發音すべし。

本講義譯文中〔 〕の中に入れたる原文になきも、意味を明に表はす爲め補へるものなり。

譯文中英字が斜體になり居るは名語の語法上同一文字を再度譯したる場合なり。

單語の末尾の〔名〕は名詞、〔動〕は動詞、〔形〕は形容詞、〔副〕は副詞、〔前〕は前置詞、〔接〕は接續詞、〔間〕は間投詞を示す。

下卷に於ける發音假名中、căt; găther の如き că, gă の音を(きゃツト)(ぎザ)の如くして表はしたるは發音の容易なるを採りしなり。尙 duty の dū を(ぢー)としたるは表し方なき故なり、(ぢー)と混同せざるやう大に警戒せられたし。

本書發音假名説明

[本書の發音假名中、平假名の部分は強く發音すべし]

WEBSTER. 符號	本書の假名	説明	例語
A	ā	エイ {エーに非ず、音の末尾がイにつゞまる}	bā'by (ベイビ)
	ă	ア {止むなくアにて表はせども、アと發してエと響くやう、口を横にひろげて發す}	măn (マン)
	ā	アー {アを長く曳きたる音、大きく口を明けてよし}	fār (ファー)
	â	アー {ă と區別する人あれど、實際の音は殆んど同じ}	fâst (ファスト)
	a	オ {オに似たれど、唇を丸く突き出して發す}	wąs (ワーズ)
	â	エア {エと云ひてスガ續いてアの音を出す}	câre (ケア)
	a	オー {オを長く曳きたる音、口を筒の如く丸くすべし}	ăll (オール)
E	ă	イ イとエの間位の音	vil'lăge (ヴィリヂ)
	ē	イー イをその儘曳きたる音	hē (ヒー)
	ĕ	エ 日本のエと大差なし	ĕgg (エッグ)
	ê	エア â と同じ	thêre (ゼア)
	ĕ	ア {鉛筆一本を齒の間に挿し、口をそのまゝにしてアと發音す}	hĕr (ハー)
	ê	イ イよりも輕き音	dĕlay (デイレイ)
I	ī	アイ {二重音にして、(アイ)と云ふ、返辭の如し}	ice (アイス)
	î	イ イと同斷	is (イズ)
	î	イー ē と同じ音	police' (ポリース)

O	ō	オ	{オーに非ず、音の末がウにつゞまるなり}	bōwl	(ぼウル)	
	o	オ	a オと同断	dōg	(どグ)	
	o	ウ	ウを長くしたる音	mōve	(むーヴ)	
	o	ア	{小指一本を挿む程、齒の間をあけ、アと發す}	cōme	(かム)	
	o	ウ	ウの音	wōlf	(うルフ)	
	ō	オ	a と同じき音	fōrm	(ふォーム)	
	ou	アウ	{(ア)と云ひてスグ(ウ)を附ける}	out	(あウド)	
	U	ū	ユ	{ユーとするも、ユウとするもウにて終ること同じ}	ūse	(ゆーズ)
		ū	ア	o と同じ音	ūs	(あス)
		u	ウ	o と同じ音	rude	(るード)
u		ウ		put	(ぶツト)	
û		ア	er と同じ音	bûrn	(ぼーン)	
t		ト	{上齒の附け根の處へ舌を強く當て、急に引き離して發する破裂するやうな音}	tree	(ドリー)	
d		ド	t 音を濁せて發せしもの	drive	(ド ^o ライヴ)	
dū		ヂュー	{ヂューにあらず d にユを合したる音}	duty	(ぢ ^o ューテイ)	
ds		ヅ	s はズとして區別せり	birds	(ぼーヅ)	
子韻		l	ル	{舌の尖端を上齒の後へ當てたまふ、ルと息をもらすべし}	lit'tle	(リトル)
	tŷ	テイ	{アにあらぬ、チに近き音、舌尖を上齒裏へ當て置き強く引き離して發す}	coun'tŷ	(かウンテイ)	
	th	ズ	{上下の齒を軽く合せ舌の尖を挟む心持に當て、強く氣息を洩す}	think	(ヂイ ^o ク)	
	th	ズ	th の音を濁らす	this	(ヂ ^o イス)	
	v	ヴ	{上齒を軽く下唇にあてて氣息をもらす}	voice	(ヂ ^o イス)	

CONTENTS.

	PAGE
XXVIII.—THE LITTLE DOVES	1
XXIX.—FRITZ AND THE WOLF.... <i>W. M. Cary.</i>	9
XXX.—THE WHALE.... <i>P. Frenzeney.</i>	28
XXXI.—THE ROBIN AND THE BUTTERCUP	42
XXXII.—COTTON.... <i>P. Frenzeney.</i>	50
XXXIII.—A BUFFALO HUNT.... <i>W. M. Cary.</i>	64
XXXIV.—GOOD NIGHT AND GOOD MORNING	81
XXXV.—THE BEAVER.... <i>P. Frenzeney.</i>	86
XXXVI.—NELLIE'S LETTER (Script)	102
XXXVII.—MARY'S ANSWER (Script)	107
XXXVIII.—THE CAMEL.... <i>P. Frenzeney.</i>	112
XXXIX.—NOVEMBER	129
XL.—SPONGE FISHING.... <i>P. Frenzeney.</i>	134
XLI.—TABLE MANNERS	147
XLII.—WILL AND THE BEE.... <i>C. D. Weldon.</i>	169
XLIII.—THE LITTLE MATCH GIRL	173
XLIV.—THE GORILLA	196
XLV.—THE FIFTEEN FAIRIES.....	210
XLVI.—A SONG OF THE SLEIGH	226
XLVII.—MAY'S ADVENTURE	230
XLVIII.—PICTURE LESSON	247
XLIX.—HOW TOM GOT THE PRIZE	253
L.—MORNA BY THE SEA	265

LI.—WHY DOES IT SNOW? 270
 LII.—SAVED FROM THE SEA 284
 LIII.—WORK 300
 LIV.—HOW TOM GOT INTO TROUBLE 306
 LV.—ANNA AND THE FAIRIES (Part I.) 319
 LVI.—ANNA AND THE FAIRIES (Part II.) 333
 LVII.—LITTLE BY LITTLE 349
 LVIII.—THE BOY WITHOUT A GENIUS 354
 LIX.—SUGAR.... *P. Frenzeney.* 370

ナシヨナ
 第百参讀本
 講義

LESSON

XXVIII

THE LITTLE

DOVES.



雛鳩

High on the top of an old pine-tree
 Broods a mother-dove with her young ones three.
 Warm over them is her soft, downy breast,
 And they sing so sweetly in their nest.

單語の發音及意義

LESSON XXVIII.

pine-tree (ばいन्दロイ) 『松樹』。
 [名 pine-tree と一字にすれば pine'
 を強く發音すべし]

doves (だヴズ) 『鳩』 [名複]

broods (ブロードス) 『抱く』『覆ふ(羽にて)』。 [動]

breast (ブレスト) 『胸』。 [名]

sweetly (スワイードリ) 『好い音色に』。 [副]

“Coo,” say the little ones, “Coo,” says she,
All in their nest on the old pine-tree.

【譯】 ^{おいまつ}老松 (an old pine-tree) の梢に (on the top of) 高
く (High)

^{おやばと}母鳩 (a mother-dove) は抱く (Broods) 雛三羽 (young
ones three)

暖く雛をぞ蓋ふ (warm over them is) 母の柔き ^{わたげ}毳毛の胸
(downy breast)

かくて啼くなり (they sing) 聲愛らしく (sweetly) その
巢の中に (in their nest)。

“クー”と啼く雛、“クー”と啼く母
老松の (on the old pine-tree) 巢に籠り居て。

【註】 詩は韻律の必要より、語句の配置を轉倒し又は文字を省略し、或ひ
は冗語を加ふる場合あり、故に充分に其意を解するには之を散文に改めて見
る方よし、今試に上の一節を成るべく解し易き普通文に改むれば下の如くな
り；—

- 2.—A mother-dove broods with her three young ones,
- 1.—high on the top of an old pine-tree.
- 3.—Her soft, downy breast is warm over them,
- 4.—and they sing so sweetly in their nest.
- 5.—The little ones say, “Coo,” and the mother-dove says, “Coo,”
- 6.—all of them being in their nest on the old pine-tree.

各行に附したる番號は原詩の行の順序を示す、

原詩と對照の便を圖りて原詩一行の意を茲にも一行にて示せり。

High を冒頭へ出したのは「空高くに」と高い心持を強く表はす爲なり。

Broods=sits covering.....with wings 「翼を以て.....を覆ふて座る」

with..... 「.....を抱いたる」と前の mother-dove を形容する句。

注意 此詩は一行末の tree と二行末の three, 三行と四行の breast と nest

五行と六行の she と tree と韻を踏めり。以下皆然り

oo (くー) 『鳩の鳴聲』。〔名〕

Soundly they sleep through the moonshiny
night,

Each young one covered and tucked in tight ;
Morn wakes them up with the first blush of
light,

And they sing to each other with all their
might.

“Coo,” say the little ones, “Coo,” says she,
All in their nest on the old pine-tree.

【譯】 月照り渡る夜もすから (through the moon-shiny
night) 夢安らげく (soundly) 雛は眠る (they sleep)
一羽々に雛鳩は (Each young one) しっくりと (tight)
身を包まれて (covered and tucked in)。

ほのぼのと東白めば (the first blush of light) 雛は眼覺
むる (wake them)

かくして雛は (little ones) “クー”と啼く、母鳩も亦
“クー”と啼く

老松の巢に籠り居て。

【註】 moonshiny night 普通は moonlight night.

Each young one being covered 此 covered は「親鳩の翼に蔽はれ
て」の意。

moon/shin-y (むーンシェイニ) 『月明

き』。〔形〕

soundly (さウンドリ) 『グツスリ』

〔副〕

tucked (たツクト) 『押し詰められる』

〔動〕 tuck.ノ過去分詞にて passive

なり前に being のあるものと知

るべし。

tight (タイト) 『きちんと』。〔副〕

morn (もーン) 『曉』。〔名〕

wakes (ウエイクス) 『目を覚ます』

〔動〕

blush (ブリッシュ) 『赤らみ』。〔名〕

might (マイト) 『力』。〔名〕

tucked in tight=*being* pressed into the nest tightly 「しっかりと、巢の中へ包みこまれて」*tuck in* と續き、*tight* 丈け離れる。

Morn wakes them up with the first blush of light=As morning dawns, they wake up with the first streak of light=「夜が明けるに際して、雛鳩は東天一條の紅を呈するや目を覺ます」朝(morn)を活ける者の如く見做してかく云ふ、英語にては詩にあらずともかゝる云ひ方は自由なり。
to each other 「お互ひに」

with all their might 「力一杯」

When in the nest they are all left alone,
While their mother far for their dinner has
flown,
Quiet and gentle they all remain,
Till their mother they see come home again.
Then "Coo," say the little ones, "Coo," says
she,
All in their nest on the old pine-tree.

【譯】 母鳩が雛の餌を求めて (for their dinner) 遠くあなたへ (far) 飛び去れる間 (while.....has flown) 雛鳩ばかり (all.....alone) 取り残さるゝ時 (when they are left)

静かにあとなしく (quiet and gentle) も留守をぞする (they remain)

left (レフト) 『残される』。〔動〕leave の過去分詞、前の are に連結して passive の形をなす。

à-lone' (アローン) 『丈け』。〔副〕

flown (フローン) 〔動〕『飛ぶ』。fly

の過去分詞。has と合して tense を成す。

gentle (ジェンドル) 『オトナシク』。〔形〕

re-main' (リメイン) 『残る』。〔動〕

やがて母鳩の戻りくる迄 (till.....come home again) かくて、“クー”と雛鳩云へば“クー”と亦、母鳩も云ふ
老松の巢に籠り居て

【註】 alone と云ふ字は「一人」のみに用ふるにあらず、—Now we are alone. (サア、僕等だけだ) の如く複數の名詞にも伴ふ。

While=during

此一行を順序正しく描寫すれば

During their mother's absence, who has flown far searching for the food of the young doves,—

Quiet and gentle they all remain=they remain quiet and gentle 此一行は一行目の when からつゞく。

練習:--I. 此節を散文に改めよ。

When they are fed by their tender mother,
One never pushes nor crowds another;
Each opens wide his own little bill,
And he patiently waits, and gets his fill.
Then "Coo," say the little ones, "Coo," says
she,
All in their nest on the old pine-tree.

【譯】 雛鳩が (they) 優しい母に (by their tender

tender (テンダ) 『優しい』。〔形〕

fed (フェド) 『食べさせて貰ふ』。〔動〕

feed の過去分詞にて前の are と

合して passive を形成す。

push'es (プッシュ) 『押す』。〔動〕

crowds (クラウズ) 『押合ふ』。〔動〕

ō-pen's (オプンズ) 『開ける』。〔動〕

bill (ビル) 『嘴』。〔名〕

pā'tient-ly (パシエント

リ) 『辛棒よく』。〔副〕

fill (フィル) 『十分の量』『腹いっぱい』

〔名〕

mother) ^{ほぐぐま}哺育るゝ時 (When.....are fed)

我れを先きにと ^{ひと}他を突き退け (pushes another) 又は
人と押し合ひ (crowds another) などはせじ
(never.....nor)

それ々々小さき嘴を (his own little bills) 精一杯に開き
つゝ (opens wide)

静かに待ちて (patiently waits) 己がじし腹ふくるゝ迄
食ふなり (gets his fill)。

かくて “クー” と雛鳩啼けば、母鳩も亦 “クー” と
啼く

老松の巢に籠り居て

【註】 One never pushes [another] nor crowds another=they never
push or crowd one another 「互ひに押し合ひへし合ふことなし」

gets his fill 「自分丈の分量を十分に貰ふ」

例 {モウ充分頂戴しました
=I have had my fill.

Wisely the mother begins by and by,
To make her young ones learn to fly;
Just for a little way over the brink,
Then back to the nest as quick as a wink.
And “Coo,” say the little ones, “Coo,” says
she,

brink (ブリンク) 『縁(へり)』。〔名〕

wise-ly (わいずり) 『利口にも』
〔副〕

just (ジャスト) 『ほんの』。〔副〕

o'vēr (おウヴァ) 『越えて』。〔前〕

wāy (ウエイ) 『距離』。〔名〕

wink (ラインク) 『目ばたき』。〔名〕

All in their nest on the old pine-tree.

【譯】 ^{まか}賢しきかな (wisely) 母鳩が程もなく (by and by)
とりかゝるなる (begin)

雛共に飛行を教ふる様や (To make.....learn to fly)

巢の縁 ^{ふち}(the brink) を越して (over) 少し前方迄 ^{まき}(a little
way)

行きてまた巢にぞ戻る、瞬く間に (as quick as a wink)。
かくて “クー” と雛の啼けば、“クー” とこそ母鳩
も云ふ。

老松の巢に籠り居て。

【註】 wisely は飛行を教ふる様子の賢き意。「賢くも.....し始む」と
譯す時は「.....し始めることが賢い」と解せられて誤となる。

by and by = presently 「やがて」

make her.....learn = teach her.....how to fly 「飛び方を學ばしむ = 飛び
方を教ふ」

the brink (of the nest.)

. as quick as a wink 「瞬き」はホンの束の間の行動なれば、(電光の如
く)と云ふ處を此の如く云ふなり。

練習:—2. 此節を散文に改めよ。

Fast grow the young ones, day and night,
Till their wings are plumed for a longer flight;
Till unto them at last draws nigh

plumed (プルーム) 『毛が生へた
る』。〔動〕 plume の過去分詞、前
の are に合して passive を形成
す。

flight (フライト) 『飛行』。〔名〕

ūn'to (あんどー) 『to の古文體』
〔前〕

draws (ドロズ) 『寄り来る』。〔動〕

nigh (ナイ) 『近く』。〔形〕

The time when they all must say "Good-by."
Then "Coo," say the little ones, "Coo," says
she,
And away they fly from the old pine-tree.

【譯】日に夜を重ねて (day and night) 雛は見る々々
(fast) 生ひ立ちて (grow)

やがて翼は遠く迄飛び得るように (for) 羽毛生へ揃ひ
(are plumed)

遂に彼等の程もなく

巢に暇をば告げぬべき (say "Good-by") 時節もやいに
近きぬ (draws nigh the time.)

かくて "クー" とこそ雛云へば "クー" とぞ母の答
ふなる

今は雛等も打揃ひ、老松を後に飛びぞ去る。

【註】 are plumed = are covered with plume 「羽毛が生へ揃ふ」
a longer flight (than flying only a little way over the brink) 「巢の縁か
ら少し距離を飛ぶと云ふよりもつと長き間の飛行」

unto them at last draws nigh ;

The time when they all must say "Good-by"

= The time when they all must leave their nest, draws near 「彼等が
巢を離れなければならぬ時節が近づく」

練習:-3. 此節を散文に改めよ。

Good-bye (グッドバイ) 『左様なら』 | a-way (アウェイ) 『あちへ』 (副)
『御機嫌宜う』 (間)

LESSON XXIX.

FRITZ AND THE WOLF.

フリツと狼

Fritz was the son of a farmer who lived in a
lonely part of Russia. The rude cabin which was
his home stood in a dark forest, several miles from
the nearest village.

【譯】フリツは露西亞の淋しい地方に (in a lonely part)
住んで居たお百姓 (a farmer who lived) の息子であつた
(was the son of)。フリツの住居であつた粗末な丸太小屋
は (The rude cabin which was his home) 暗い森の中に
(in a dark forest) あつた (stood)、[して] 一番近い村から
[ても] (from the nearest village) 數哩も [離れて] あつた。

【註】 Fritz was the son of a farmer who lived in a lonely part of Russia.
此文は Fritze が如何なる人物なるかを説明するものにして、Fritze was

LESSON XXIX.

Fritz (フリツ) 人名。〔固、名〕

wolf (ウルフ) 『狼』。〔名〕

farm'er (ファーマ) 『農夫』。〔名〕

lonely (ロンリー) 『寂しき』。〔形〕

part (パート) 『地方』。〔名〕

rude (ルーデ) 『粗末な』。〔形〕

cab'in (カビン) 『小屋』。〔名〕

sev'er-al (セヴァラル) 『數』ニツ以上

にて多からざる數〔形〕

sent (セント) 『遣られた』。〔動〕

send の過去分詞前の was に合して

passive を形成す

vil'lage (ヴァレッジ) 『村』。〔名〕

の was に續く the son of a farmer は其説明句なり、而して who lived 以下 Russia 迄の句は farmer の居住地を説明する句なり、故に今、此の文を二つに切りて、

Fritz was the son of a farmer. The farmer lived in a lonely part of Russia.

ともなし得べし。此の如く二ツに離れる文を結び付くる働をば關係代名詞を以てすること多し。

練習-4. 下に掲ぐる二ツの文をば一文にせよ。
I know Master Togo. He is the son of Admiral Togo.

part と云ふ字は「部分」の意なるを、「地方」と譯するは、邦の「一部分」は即ち「地方」なればなり。故に、

お郷里は何方ですか = Where do you come from?

なば — What part of the country do you come from? と云ひ得るなり、即ち、「此邦(日本)のどの部分 (=地方) から来たのか」との意味なり。

練習-5. 下の和文を英文に譯せ。
東京のどの邊にお住ひですか。

The rude cabin 原書にて見る如き丸太を横に積み重ねて、其隙間を粘土にて塗り塞いだ小屋を a log cabin と云ふ。rude (粗末な) と云ふ形容詞なくとも a cabin は粗造の小屋なり。

home 此字は普通「家庭」と譯して居れども茲にては「住家」の方よし。此字をば此の如き意味に用ふる時は奉公人などが主人の家を指して、— My home is with Mr. Sato. (私は佐藤様のお宅に居ます) の如く云ふを得。

stood = was 家や町などの存在することを示すに stand を用ふること普通なり、— The city of Tokyo stands on the plain of Musashi. の如し。

dark forest 大樹生ひ茂つて晝も尙暗き森と云ふ意。

forest は木曾森林と云ふ如き「大森林」。

wood は田舎の人のよく「山へ柴刈に行く」てふ「山」。

grove は鎮守様の「森」とか、街道の「並木」など。

several miles..... の前に at a distance of と補ひて見よ。此句は前の stood へかゝり、cabin の位置を示す。

from the nearest village 「一番近い村からでも、どの村へも」最上級には往々 even の意が含むことによく注意すべし。

例:—

The wisest man can't know everything.

どんな利口な人でも何でも知ることは出来ぬ = 知らないことはある。

One day Fritz was sent to the village with a letter. It was the middle of winter and snow lay on the ground. After doing his errand, he spent the evening in visiting his friends.

【譯】 或日 (One day) フリツは手紙を持って (with a letter) 村へ (to the village) 使にやられた (was sent to)。頃は冬の最中であつて (It was the middle of winter) 雪が地面に積つて居ました (lay on the ground)。使の用向 (errand) を済ましてから (after doing) フリツは宵の間を (the evening) 友達を訪ね廻つて (in visiting his friends) 過ごしました (spent)。

【註】 was sent to..... 本文の如く「手紙を持って」と云ふ詞添はずとも、「使にやられた」と譯して可なり、

I sent the maid to the Post Office.

= The maid was sent to the P. O.

= 下女を郵便局へ使にやつた。

注意 sent for..... は「.....を迎にやる」。

練習:—6. 下文を英譯せよ。

(a) 弟を隣村へ使にやつた。 (b) 妹を醫者を迎にやつた。

It was..... 時候、時日、を云ふ時 It を用ふることも前にも述べたり。 It is still very cold, though the "kan" season is over. (寒は過ぎたが時候

er'rand (エラント) 『使の用向』。[名]

ること』。[動] vi:it の gerund.

vis'it-ing (ヴィズィテイング) 『訪問す』

は寒い。 It was towards the end of December. (頃は十二月の末つ方)。

練習:—7. 下文を英譯せよ。
今日は五月廿一日だ。

Snow lay..... 「雪が.....に積つて居た」日本語の「積つてる」を英譯するに困む勿れ此句を應用せよ。

{ 雪が三尺積つて居る。
Snow lies three feet deep.

注意 lie (現)—lay (過去)—lain (過分)。
after doing his errand = when he did his errand.

練習:—8. 下の文を After doing の形に改めよ。
When I finished my supper, I went out for a walk.

the evening 「宵の間」 大抵八九時迄。
spent.....in— 「—をして.....を費す」。

比較:—

{ I spent ten years in studying English.
= I devoted ten years to the study of English.
= 僕は十年間を英語研究に費した。

It was late, and the moon was up before he set out for home. When he was a short distance from his father's house, Fritz saw a dark object before him in the path.

【譯】 刻限は遅くなり (It was late) 月が上つて居た (was up) 頃に漸く (before) フリツは家路に就いた (set out for home)。フリツが自分の家 (his father's house) から僅かの距離 (a short distance) へ来た (was) 時にフリツは前程に (before him) 黒い物象 (dark object) が道を

därk (だーク) 『黒き』。【形】
öb'jekt (おブジェクト) 『物體』。【名】

päth (ぱース) 『通路』。【名】

塞いて居る (in the path) のを見ました。

【註】 It was..... 此 It は時刻を表はす、譯語を上如くす。
the moon was up 「月が上つて居た」。

比較:—

{ The moon is down now = The moon has set.
= もうお月さんは入つた。

before を「漸く」と譯したるは此類の構文に於いて適用すべし、

{ The winter had set in before we reached the North Pole.
= After the winter had set in, we reached the North Pole.
= 冬になつてから漸く北極へ達した。

{ It was a long time before I got a chance to bite her.
= After a long time, I got a chance to bite her.
= 暫くたつてから漸く喰ひ付く機会があつた。

set out for..... = started for..... 「.....へ向けて出立す」。

father's house 直譯すれば「父の家」なれど、それにては日本人には限解を生じ易し。「父の家」と云ふからは自分は何處か他の家に居るのか、など云ふ質問を屢々受く、

英米にて子供は自分の家を my house と云ふよりも寧ろ多くは my father's house 又は my mother's door と云ふなり。これ子供は自分の家と云ふ權利なしとの思想より出てたるなり。

object 「物體」。生物か無生物か判然せぬ故、此文字を用ゐたるなり。
in the path 「途に當つて」と云ふ如き邪魔の心持あり。path は「道路」其物を指すよりは寧ろ、歩いて行く「道筋」の意。

At first he thought it was a dog. As he came nearer he found that it was a fierce wolf that stood in his way.

【譯】 初めの間は (At first) フリツはそれを犬だと思ひました。近づいて (came nearer) 見ると その物象は (it) 猛々しい狼 (a fierce wolf) が自分の前程に立ち塞が

つて居る (stood in his way) のだと分りました (he found that—)。

【註】 At first 「始めは」と云ひて後に「併しやがて」の意を表はす。 he found..... 「.....と分つた」。

練習:—9. 下の文を英譯せよ。
始めは好い人だと思つたが程なく悪い人と分つた。

stood in his way 「.....行先を塞ぐ」。

實物の例 { A giant stood in my way.
大入道が前に立塞がった。

抽象の例 { I should be sorry to stand in your way.
貴君の御邪魔をして濟まん。

Fritz knew that it would be useless to⁽¹⁾ try to⁽²⁾ run away. He must think of some other means of escape. He had heard that hunters sometimes escaped from bears, by lying flat on the ground as if they were dead, and he thought he would try this plan with the wolf.

【譯】 フリツは逃げ (run away) やうとし (try to⁽²⁾) ても (to⁽¹⁾) 無効だらう (it would be useless) と覺つた (knew)。フリツは何か他の逃げ方 (other means of escape) を考へ出さ (think of) なければならん。彼れは獵師が (hunters) 時々死んだやうな具合に (as if they were dead) 地面にベツタリ寝轉んで (by lying flat) 熊の手を免れる (escape from bears) と云ふことを前に聞いたことがある

use'less (ユースレス) 『無効』 [名]	fi'erce (フイアス) 『恐ろしき』 [形]
ēs-cāpe' (エスケイプ) 『逃避』 [名]	flāt (フラット) 『平たき』 [形]
mēans (ミーンズ) 『手段』 [名]	plān (プラン) 『計畫』 [名]
hūnt'ērs (ハンターズ) 『獵夫』 [名]	

ので (had heard) 彼れは自分も此の狼を相手に (with the wolf) 此方法を試して見やうと思ひました (he thought he would try this plan)。

【註】 it would be useless to try to run away = it would be useless if he tried to run away 之れを現在に改むれば "I think it will be useless if I try to run away."

練習:—10. 下の文を if の形に改めよ。
You would do wrong to disobey your parents.

think of..... 「思ひ付く」「案出する」。

means 「方法」「手段」常に s を有す。されど單數に取扱ふ。

had heard と大過去を用ゐたるは「兼々聞いて居た」と前からの意を示す。

lying flat 「ベツタリ平伏する」 flat は lying の補助詞なり。

練習:—11. 下の文を Direct narration に改めよ。
He thought he would try a new plan.

with the wolf 「相手にする」意を with にて表はすこと多し。

{ You can't play the trick with me.
乃公にはその策はきかぬぞ。

Without a moment's delay, he threw himself down on the snow. The wolf came slowly toward him. It stood beside him for a minute, quite still, and then began to sniff about him. Fritz did not dare to move.

【譯】 寸時も猶豫せずに (without a moment's delay) フリツは雪の上へバツタリと寝ころんだ (threw himself

dē-lāy' (テイレイ) 『猶豫』 [名]	slōwly (スロウリ) 『そろりと』 [副]
threw (スルー) 『投げた』 [動]	sniff (スニッフ) 『嗅ぐ』 [動]
throw の過去	

down)。狼はソロ々々とフリツの方へ (slowly toward him) 寄つて来た。狼はフリツの側に一寸の間 (for a minute) 極デツとして (quite still) 起つて居ました (stood) がやがて (and then) フリツの身體を (about him) 嗅ぎ始めました (began to sniff)。フリツは身動きもし得なかつた (did not dare to move)。

【註】 Without a moment's delay = at once = instantaneously 「即座に」

練習:—12. 下の文を英譯せよ。
片時も猶豫せず、警官は現場へ駆け着けた。

threw himself down = prostrated himself = lay 但し、lay と云ふよりも勢激しく急なり。
sniff 「鼻にてフン々々と嗅ぐ」
about him = about his person 「身體のまわりを」
not dare to..... 「.....し得ない」 上方言葉の「.....ようしない」

By and by the wolf reached his neck, and resting one foot on his body, looked at him closely. Fritz felt the water from the jaws of the wolf dropping on his face.

【譯】 やがて (By and by) 狼はフリツの頸のところへ達いた (reached) そしてフリツの身體へ^{かた} 隻脚を載せて (resting) 熟々と (closely) 彼の面を眺めた (looked at him)。フリツは、狼の顎から (from the jaws) 涎が (water) 自分の顔へポタ々と垂れるの (dropping) を感じた (felt)。

reached (リーチト) 『達した』 [動]	[動 rest の現在分詞]
reach の過去	jaws (ジャーズ) 『顎』 [名、複]
rest'ing (レスティング) 『載せる』	dröp'ing (ドロピング) 『滴たる』

【註】 By and by = presently = 「やがて」、「その内に」。但し、Bible などに用ゐられたる By and by は immediately (即刻) の意なり。

reach..... 「.....へ達する」 此字は「とどく」意の時は他働詞に用ひ、「廿五日に上海へ着いた」を譯して

I reached to Shanghai on the 25th. は誤
I reached Shanghai on the 25th. を正

とす、to を附するは場合を異にす、即ち「.....迄も續く」意なり、

例 { 此松原は海迄續いて居る。
This pine grove reaches to the seashore.

resting.....on — 「.....を——へ載せながら」 rest は「休ませる」意から、「凭れる、載せる」と移る。

looked at..... 『.....を眺める (注意して見る)』 意の時に用ふ。see との區別を忘るゝな。

比較 { Look at that tree. (あの樹を御覽)
You will see a little bird on it.
(小鳥が居るのが見えるでせう)。

closely 「つくづく」と見方の念の入りたるを示す。發音は(クローズリ)にして s 清音なり。但し、動詞 close (鎖す、終へる) は close と濁る。

練習:—13. 下文を英譯せよ。
彼は僕の肩に手を掛けてシゲ々々僕の顔を見た。

felt (feel の過去) 「感じた (身に觸れて)」 feel に普通ニツの用法あり、
(a) I feel very sorry for you. (お氣の毒に思ふ)。
(b) I feel very cold. (寒く身に感じる)。

water 「水」と云はず、「涎」とすべし、water は種々の意に用ふ、

- The idea of sour plums brought water to their mouths. (酸い梅のことを考へると口中に唾が出て来た)。
- The water stood in his eye. (涎が眼に浮んだ)。
- My mouth watered at the sight of dainties. (旨いものを見て涎が出た) 但し、3. の場合は動詞なり。

dropping 前の water に附く。ing を附するに際し p を重ねることに注意。

"Death or life now!" said Fritz to himself. Quick as thought, he seized the paws which were resting on either side of his neck, drew them tightly over his shoulders, sprung up and walked off with the wolf hanging on his back.

【譯】「サア (now)、死ぬか生きるかの境目 (Death or life)」とフリツは一人言を云つた (said to himself)。咄嗟の間に (Quick as thought) 彼れは自分の頸筋の兩方に (on either side) かけてあつた前脚 (paws) をぎゅと握つた (seized)、して其脚を肩越しに (over his shoulders) ショカリと引張つて (drew tightly) 跳ね起き (sprung up) て歩き出した (walked off) 狼を背中にブラ提げながら (with the wolf hanging on his back)。

【註】 Death or life=It is either death or life to me=「死ぬか生きるかニツに一ツだ」

Quick as thought=as quickly as a thought flashes in the mind=「思想が咄嗟の間に去來する如く迅速に」此句は往々誤りて、「考へるより迅く……=no sooner had he thought than……」と解する人あり、警むべし。尙、前へ as を加へて見るべし。

seized 「握つた」發音(サイズ)にして(セイズ)に非ず。

either side of…… 「……の孰ちら側にも」=「……の兩側に」

門の兩側に仁王が居る。

There is a Niwo on either side of the gateway.

即ち、either は二ツの物を一ツ宛見て「孰れにも」 both は二ツを合せて

seized (サイズド) 『攫んだ』 [動 seize の過去]

paws (ポーズ) 『足』 獸類の [名、複]

shōul/dērs (ショウダズ) 『肩』 [名、複]

sprung (スブラング) 『跳ねた』 [動 spring の過去]

「ニツとも」の意、故に今、上の例を There is a Niwo on both sides of the gate. とすれば「兩側を合せて一ツ丈仁王が居る」意となる。

over his shoulder 「肩を越して」

Sprung up の sprung は sprang の方普通、今は多く、spring, sprang, sprung と變化す。

walked off off は其場を「離れる」意にて附す。

with a wolf hanging on……



練習:—14. 下文を英譯せよ。
背囊を背負って三里歩いた。

So tightly did he draw the wolf's neck against his shoulders, that the animal could scarcely breathe and tried in vain to use its teeth. With its hind paws, however, it scratched furiously at Fritz's legs, and made it difficult for him to walk.

【譯】餘まりしかりと (So tightly) 狼の首を自分の肩へと引張り附けた (drew against) のて (that) 狼は殆ど呼吸が吐けない (could scarcely breathe) て、其齒をはふとした (tried to use) が無効たつた (in vain)。

breathe (ブリーズ) 『息する』 [動]
vain (ヴェイン) 『無益』 [名]
teeth (ティーズ) 『齒』 [名 tooth の複]
scratched (スクラチド) 『引掻いた』

[動 scratch の過去]
fū'ri-ōs-ly (フューリアスリ) 『烈しく』 [副]
diffi-cult (ディフィカルト) 『困難なる』 [形]

しかし、其足で狼はフリツの足を激しく (furiously) 引搔かうとした (scratched at) そして、その爲めにフリツは歩くのに骨が折れた (made it difficult for him to walk)。

【註】 So tightly を冒頭へ出したのは意味を強むる爲めなり、又、副詞句を先きへ出したる故、次に助動詞を措きて did he draw としたり、若し、之を普通の文體に改むれば

He drew the wolf's neck against his shoulders so tightly that.....となる。

against..... 「.....へ寄せかけて」、曳き、又は、押し付けて。

例 He stood on deck against the mast.
=甲板で檣へ寄り掛けて起って居た。

練習:-15. 下の文を英譯せよ。
此洋傘をその壁へ立て懸ける。

breathe 働詞、「呼吸する」發音、(ブリーズ) 注意、名詞は breath (ブレス)。

tried in vain to.....=tried to..... but in vain=tried to.....but could not =「.....しやうとしたが出来なかつた」斯の如く結果を示す詞語が英にては前へ措かるゝこと多し。

paws は前足とのみ譯する勿れ、犬や猫の如き獸の足は皆 paw なり、尤も猿は hand と云ふ。A monkey has four hands.

however=but but ならば文の冒頭へ出すだけのこと。發音 ハウエヴァ)。

scratched.....at..... 「.....を引搔かうとした」 at を入れると、(引搔けなかつたが) の意あり。

I caught at the ball=I tried to catch the ball but could not.

made it difficult for him to walk 此 it は後の to walk の infinitive を受くる it ならば、made の主格は前の however の次の it 即ち狼なり。

練習:-16. 下の文を上の方の範例によりて英譯せよ。
英語を知つたことが獨乙語の學修を容易ならしめた。

At length with his strange load he reached his father's door. "Father! father!" he cried, but there was no reply. Fritz was nearly tired out. He could not knock with his hands and he did not dare to lift his foot for fear of falling.

【譯】 やうやくのことして (at length) その奇妙なお荷物を持つて (with his strange load) フリツは自分の家 (his father's door) へ來ました (reached)。「お父さん、お父さん」と怒鳴つたが、何とも返辭がない (there was no reply)。フリツはもう殆んど疲れ切つた (was tried out)。フリツは手で戸を叩く (knock) ことが出来なかつたし、又、轉ぶといけないからと思ふので (for fear of falling) 足を擧げる (lift his foot) ことも思ひ切つて出来なかつた (did not dare to)。

【註】 At length 時間が長くかゝつたが、「やつとのことして」 his father's door=his father's house 13 頁に説明せり。 there was no reply=no one replied. for fear of falling=lest he should fall 「倒れるといけないから」

例 I study hard for fear of falling.
落第するといけないから勉強する。

練習:-17. 上の例文を lest.....should の形に更めて見よ。

All that he could do was to turn round and dash the wolf against the door with all his might. The noise awoke every one in the cabin. "Father!" he

load (ロード) 『荷物』。〔名〕

tired (タイアド) 『疲れた』。〔動 tire の過去分詞〕

knock (ノック) 『叩く強く』。〔動〕

dash (ダッシュ) 『打つ付ける』。〔動〕

awoke (アウオック) 『目を醒ました』。〔動 awake の過去〕

cried again, " help, father! I have a live wolf."

【譯】 フリツに出来ること、云つたらこれ丈けてあつた (All that he could do was) [即ち] クルリト振り向いて (turn round) 狼を力一杯 (with all his might) 戸へ叩き着け (dash against) ることだ (前の to.....の infinitive は名詞の用をなすものにして、.....することゝ當る)。その物音が (The noise) が小屋の中の誰れ彼れを皆 眼をさまさせた (awoke)。「父さん」と彼は叫んで、「助けて、(help) お父さん、私は 生きた狼 (a live wolf) を負つて居るよ。」

【註】 All that he could do = The only thing he could do. 「彼に出来る事は總體で..... = 彼には.....しか出来ない」

This is all the money I have = 「私の金はコレ丈けだ」

dash.....against..... 「.....を.....へ叩き付ける」

練習: -18. 何故 against を用ひしか。

live 此處にて形容詞にして、live (ライヴ) と發音す。

The farmer lost no time in opening the door and stood, gun in hand, ready to shoot. "Do not shoot," said the boy, "the wolf is on my back. The dogs! the dogs!" he said.

【譯】 お百姓は時を移さず戸を披けて (lost no time in opening the door)、鐵砲提げて (gun in hand) 起つて居た、今にも撃たんとばかりに (ready to shoot)。「撃つちやいけません (Do not shoot)」と子供が、「狼は私の背中に居ます、犬だ、犬だ」と申しました。

lost (ロスト) 『徒費した』。[動 lose の過去] shoot (シュート) 『發射す』。[動] live (ライヴ) 『生きた』。[形]

【註】 lost no time in opening..... = without a moment's delay opened.....

類例 (There is no time to be lost.

片時も猶豫すべきにあらず。

gun in hand = with a gun in his hand 語勢を強める爲、かく省略せる形を用ふ。

(Sword in hand, he sprang on board the enemy's ship.

(劍を提げて敵艦へ飛び込んだ)。

ready to..... 「すぐにも.....しやうと」 ready は「用意が整つた」意なり。

At this moment Fritz's mother let loose two great dogs that were tied in the cabin, and that had been barking furiously.

【譯】 此途端に (At this moment) フリツのお母さんは、小屋の中に繋いてあつた (that were tied) そしてこれ迄激しく吠え立てゝ居た (that had been barking furiously) 大きな二頭の犬を釋き放しました (let loose)。

【註】 let loose 縛つてあるか、閉ち込めてあつたものを「放し出す」(let) は過去、現在同形。

比較: -The tiger broke loose and hurt many persons. (虎が暴れ出して多くの人を傷けた)。

and that 此 that は前の dogs を受けたる關係代名詞。

had been barking 此 had been は were barking が繰り上りたるに非ずして、have been barking が過去形になりしものなり。即ち、「その時迄ずっと續けて吠えて居た」意を示す。

let loose (レット、ルース) 『網を解く』『放つ』。二語連りて意味をなす。

tied (タイド) 『繋がれたる』『括られたる』。[動 tie の過去分詞、前の were と合して passive な形成す。

練習:—19. 下の文を英譯せよ。
東京へ来る迄ブーツと漢學を習って居た。

Suddenly Fritz threw the wolf from the shoulders, and the dogs seeing the danger of their young master, flew at the wolf, and soon had it in their power.

【譯】 ^{たしぬけ}突如に (suddenly) フリッツは肩から狼を投げ出した (threw the wolf from the shoulders) すると犬共は自分達の若旦那 (young master) の危いの (danger of) を見て (seeing) 其狼に飛びかゝつた (flew at.....) そして程もなく (soon) 其狼を取つて押へた (had it in their power)。

【註】 flew at..... 「.....目がけて飛びかゝつた」 猛烈な勢を示す、例へば蝮蛇の「飛び付く」が如き。

had it in their power=get the wolf under their control 「其狼を勝手にするだけの權を握つた」。

練習:—20. 下の文を英譯せよ。
今ちや滿州は我が手の内のものだ。

Fritz did not wish the wolf to be killed by the dogs, for then he could not say that he had caught a live wolf.

【譯】 フリッツは狼が犬に殺されるのを (to be killed by the dogs) 望まなかつた (did not wish)、と云ふ譯は (for) 殺された日には (then) 自分が生きた狼 (a live wolf) を捕まへたとは公言が出来ない (could not say) からであつた。

pōw'ēr (ぱウア) 『權カ』。〔名 此場合に之は前の in と合して熟語となる〕

dān'gēr (ダンジヤ) 『危險』。〔名〕

māst'ēr (ますタ) 『主人』。〔名〕

caugt (コト) 『捕へた』。〔名 catch の過去分詞〕

【註】 then=in that case=「その場合には」=if the wolf was killed=「若し狼が殺された日には」。

live 形容詞にして「生きたる」 發音 live なり。live は動詞の場合。

As quick as thought he took a rope and tied it round the wolf's neck, at the same time telling his father to pull the dogs away.

【譯】 ^{あに}矢庭に (as quick as thought) フリッツは一筋の細引を取つて (took a rope) それを狼の頭へ捲き着けた (tied it round the wolf's neck) お父さんに犬を曳き離し (pull.....away) て呉れと云ひ (telling.....to) ながら (at the same time)。

【註】 as quick as thought=as quickly as a thought passes in the mind =「物事がハツと心に浮ぶ其迅さと全じ位迅く」=without a moment's delay=「寸時も猶豫せず」。

at the same time=on the other hand=「さうして居ながら」=「一方では」。

telling.....to——「.....にせよと云ふ」 當人の詞を其儘示せば下の如し。

——saying to his father, "Father, pull the dogs away."

例:—

(a) { Tell him to come in.
=Say to him, "Come in."

ソンザイの云ひ方にして、輕き命令。

(b) { Ask him to come in.
=Say to him, "Please come in."

丁寧の云ひ方にして、頼む心持。

When this was done, Fritz put the badly wounded

pul (ぶル) 『引く』。〔動〕

bād'ly (ばドツ) 『ひどく』。〔副〕

wound'-ed (wōond'ēd ラーンデッド) 『負傷した』。〔動〕

and much frightened animal into a box. There he kept it until, a short time afterward, a man came along and bought it to send to a menagerie.

【譯】これが済むと (When this was done) フリットは酷く怪我をした (badly wounded) として大層怖えて居る (much frightened) 狼を (animal) 函の中へ入れた put..... into)。その函の中で (There) フリットは其狼を飼つて置いた (kept it) がやがて (until) 少時経つと (a short time afterward) さる人がやつて来て (came along) 其狼を買つた (bought it) 観せ物 (menagerie) へやらうとて (to send to)。

【註】 kept it until.....=kept it and then.....此の如く繼續の意の詞の次の until は「.....する迄」と逆に譯せず、上より「飼つて置いたするとトウ々々.....した」とすべし。

練習:—21. 下の文を英譯せよ。
僕は何度も其本を読んでトウ々々意味が分つた。

came along 「やつて来る」
menag'erie 公衆の觀覽に供する爲めに集めたる野獸の群、即ち動物園の觀世物的なるもの。Zoological gardens と云へば單に動物を集めたるのみに非ずして、遊園地的の設備あるを常とす。

I suppose the wolf is still looking out through the bars of its cage, and showing its white teeth to the crowds of boys and girls who go to look at the wild animals.

fright'ened (フライドンド) 『怖がらされた』。〔形〕
men-ag'er-ie (メナジャリ) 『動物園』。〔名〕
bars (ばーズ) 『横木』。〔名、複〕
cage (けいじ) 『檻』。〔名〕
crowds (クラウツ) 『群衆』。〔名、複〕
wild (わイルド) 『野生の』。〔形〕

【譯】多分 (I suppose) 其狼は今でも矢張 (still) 其檻 (the cage) の格子 (bars) の間から外を眺めて (looking out through) として野獸を見物に行く娘や子供の連中 (crowds) に白い齒を剃き出して居る (is showing) てせうよ。

【註】 I suppose=perhaps, still「相變らず」
bars 茲にては猛獸の檻舎の鐵の格子、俗に「ボート」と云ふもの。
the cage「檻舎」鳥ならば「籠」
showing 一行目の is へ繋がる。此字を show.....teeth と用ふれば邦語の「齒を剃き出す」に當る。
the wild animals「野獸」鹿、狼、熊、虎など。(家畜=domestic animals) にあらぬもの。

格言集

A bold attempt is half success.
大膽事に當れば半ば成就したるなり。

Consideration gets as many victories as rashness loses.
深慮ある人は毎に勝を制し、輕卒なる輩は毎に敗を取る。

The better part of valour is discretion.
勇氣の大部分は分別に存す。

LESSON XXX.

THE WHALE.

鯨

“Have you ever seen a whale, Uncle George?” inquired Frank.

“Yes, very often,” replied his uncle. “You know that they are found in nearly all parts of the ocean.”

【譯】「デヨージ叔父さん、叔父さんは鯨を見たことがありますか (Have you ever seen)」とフランクが尋ねました。

「ア、度々見たよ」と叔父さんは答へました。「お前も知つてる通り (You know) 鯨は大海ならそこそ何處にても (nearly all parts) 棲んで居るよ (are found)

【註】 You know..... 「.....と云ふことはお前も知つて居る」、「お前も知てるね—「アノ、そら」と念を押す口調
they are found = they live 此形は動植物の存在を示すに用ふ。

練習:—22. 下の文を英譯せよ。

(い) 熊は北海道に澤山居ます。

(ろ) 竹は米國にはない。

LESSON XXX.

Whale (ワイル) 『鯨』。〔名〕
in-quired' (インクワイアド) 『尋ね

た』。〔動 inquire の過去〕
O'cean (オシアン) 『大洋』。〔名〕

“When they are lying quietly on the surface of the water, you can not see very much of their bodies—only the tops of their heads and their broad backs; but sometimes in their play they will jump out of the water. Then you see dark objects, sixty to seventy feet long. The crash of their bodies falling upon the water is like the thunder.”

【譯】鯨が静に (quietly) 水面に (on the surface of the water) 泛んで居る (lying) 場合にはその身體は碌に見えない (You can not see much of.....)—たゞ (only) 頭や、
廣い背中の頂邊だけ見える。しかし時々 (sometimes) 嬉戯て (in their play) 鯨共は水から跳ね出すことがある (will jump out of.....)。其場合には (Then) 六十呎乃至七十呎 (sixty to seventy feet) の長さの (long) 黒い物體 (dark objects) が見えるよ。その身體が水面へ落ちる 物音は (crash) 雷のやうですよ。 (is like thunder).

練習:—23. lying は何と云ふ動詞の變化なるや、之に似たる變化をする動詞三ツを挙げよ。

【註】 You can not see 此 You は「お前」と云ふ狭き意味に非ず、「誰人も」と云ふやうな廣き意。

There is no such teacher as he = You can not find such a teacher as he. not see very much of..... 「.....は澤山は見えない」と直譯すると「可成り見える」やうに思ひ誤る虞れあり。「大して見えない = 碌に見えない」 = 「僅かしか見えない」心持なるを忘るゝな。

sûr'fâç (サーフェイス) 『表面』。〔名〕

bôd'îēs (ボディーズ) 『體軀』。〔名〕

body の複

tôps (トプス) 『頂き』。名、複

broad (ブロード) 『廣き』。〔形〕

erâsh (クラッシュ) 物の落ちて碎ける

「カラタタ」などの如し。〔名〕

thûn'dêr (ゼンダ) 『雷』。〔名〕

練習:—24. 下の英文を和訳せよ。
 I can not very well dispense with the money.

sometimes.....will—「時々.....が—する」此 will は習慣の意を示す時用ふ。

例:—

{ Some carp will weigh one kwan.
 =一貫目もかゝる鯉もある。

dark objects object なる詞を用ゐたるは、餘り巨大にして一寸見たとる魚とも獣とも云ひやうなき故眞黒な代物しろものと云ひしなり。

sixty to seventy = from sixty to seventy 「六十から七十迄」 例:—

{ 學生の年齢は十五から三十迄位です。

{ The age of the students is { from 15 to 30.
 { between 15 and 30.

crash 大きな物の衝突した音、碎ける音。

“What a large fish it must be!” said Frank.

“It is not a fish, Frank; although many people call it so, yet they are wrong. It has limbs that look like the fins of a fish, and a tail like the tail of a fish; but a whale can not live under water as a fish does—it has to come up to the surface to breathe.”

【譯】「何てまア大きな魚さかなでせう」とフランクが云ひました。「鯨は魚ぢやないよ、フランクや。ナル程多くの人達が魚だと云ふ (call it so) けれども (although, yet) 其人達 [の云ふこと] は間違つて居る (they are wrong)。鯨には丁度魚の鱗 (fins) のやうに見える (look like) 手足 (limbs) があるし、又、魚の尾のやうな尾がある (It has の has へかゝる) しかし、鯨は魚が棲すまむやうに (as

al-though! (オールぞウ) 『假今.....』と云へども』。 [接] wrong (ろんク) 『間違へる』。 [形] limbs (リムズ) 『肢(手足)』。 [名、複]

a fish does) 水の中に潜ひそつて (under water) 棲すまむことは出來ない—鯨は呼吸こそをする爲めに (to breathe) 水面へ浮うんで來る (come up to) 。

【註】 what.....it must be! 「さぞ.....だらう」。

注意 まだ見た事のない物や、食べたことのないものを、「さぞ.....でせう」と云ふ時は must be を用ふる要あり。

例へば人が吉野山の櫻の景色を賞めた場合に「ナル程さぞ美事でせうれ—」

と云ふは “How beautiful it must be!” て

“How beautiful it is!” とすれば賞見した人も云ふ詞なり。

練習:—25. 下の文を英譯せよ。
 觀艦式は囁壯觀でせうれ。

call it so = call it a fish.

they are wrong = what they say is wrong.

{ You are wrong 君の云ふ事が間違つてる。

{ He is right. 彼男の云ふ事が本統だ。

as a fish does = as a fish lives under water.

breathe 「呼吸する」動詞の時は語尾に “e” ありて發音は brēz となるに注意すべし。

“Tell me about its breathing, uncle,” said Frank.

“When a whale comes up to breathe, it throws a stream of water about twenty feet into the air, from two “blow-holes in the top of its head.”

【譯】「鯨が呼吸こそをする様子を聞かして下さいナ、(Tell me about.....) 叔父さんとトフランクが申しました。

「鯨は呼吸をしようとして (to breathe) 浮んで來る

throw (スロウ) 『投げる』 [動]

fins (フィンズ) 『鯨』 [名、複]

stream (ストリーム) 。

air (エア) 『空』 [名]

blow-holes (ブローホールズ) 『噴水

孔』 [名]

(come up) と「鯨は (it)」その頭の頂邊^{てつべん}にあいて居る (in the top of.....) ニツの【所謂】潮吹孔^{しほふきあな} (blow-holes) から、空中へ (into the air) 二丈程の高さに一條の水 (a stream of water) を吐き出します (throws)。」

練習:—26. about を用ゐて下の文を英譯せよ。
兄さん、日露戦争のお話をして下さいな。

【註】 its breathing 「鯨の呼吸すること」 breath と云へば「呼吸=氣息」の名詞、breathing は「呼吸の働=呼吸の模様」意にて相異あり。throws 「投げる」とばかり譯すべからず、本文の如きは「吐くなり」

例:—

I threw up all I ate. (食つたものを悉皆吐いた)。

‘blow holes’ 「所謂吹き孔」 ‘ ’ に入れたるは特別の語なればなり、故に「所謂.....」としたる方よし。

in..... 孔穴の場合には in を用ふ、

例:—

There is a hole in the wall. (壁に穴がある)

“O I have heard about that before!” said Frank.
“That is the way sailors can tell that a whale is near. The man who keeps watch at the masthead calls out, ‘There she blows!’”

【譯】「ア、僕は曩日^{いつか} (before) その事は聞きましたよ」とフランクが申しました。「それが手引で (that is the way) 船員は (sailors) 鯨が近くに居るとを覺る (can tell) んですね。檣の頂邊^{てつべん} (the masthead) で見張をして居る

sailors (セイゾウズ) 『水夫』。〔名、複〕
watch (ウォッチ) 『見張り』『注視』。〔名〕

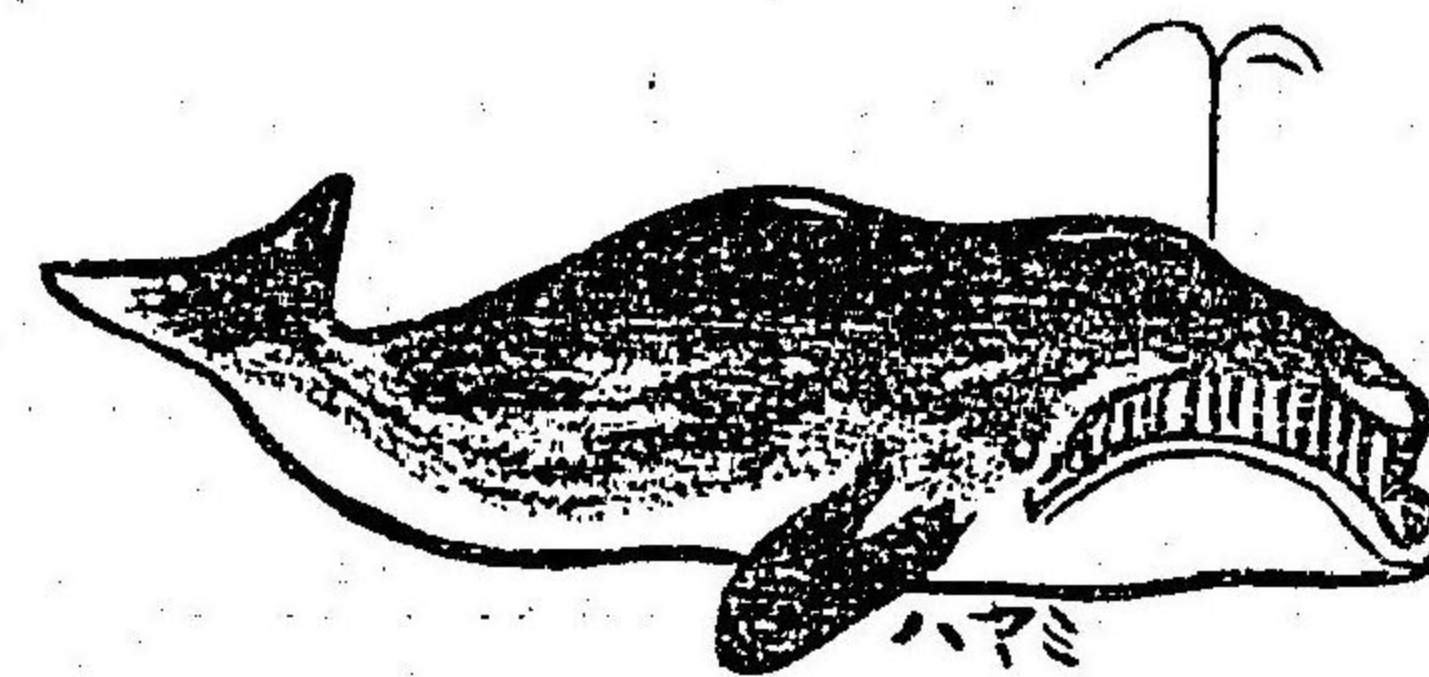
mast-head (マストヘッド) 『檣頭』。〔名〕
blows (ブローズ) 『吹く』。〔動〕

(keeps watch) 人は叫びます、「そーら鯨が吹いてるぞ!」と」。

【註】 That is the way (in which) sailors... = That is how sailors... 「船員が.....するのはさう云ふ筋途だ」

練習:—27. 下の文を英譯せよ。
さう云ふ風にして鷹が鳥を捕へるんです。

can tell = know.



Polar right whale.

keep watch 「見張る」 watch は名詞にして keep の complement と云ひて、keep の意を補ひ、二字合して「見張る」と云ふ働詞の働をなす。

練習:—28. complement と object との相異を例を以て説明せよ。

“Do you know how whales are killed?”
“Yes, uncle,” replied Frank. “The sailors go out in small boats, so as to get near the whale, and then kill it with harpoons.”

【譯】「お前は知つてるかね、鯨を殺す方法 (how whales are killed) を」。

「エイ、叔父さん、船の人達は小船で乗り出して行きます (go out in.....) 鯨に近寄らうとて (so as to get near),

kill (キル) 『殺す』。〔動〕

harpoons (ハーポーンズ) 『魚叔』

〔名、複〕

〔それで〕近くなりますと (and then) 銃 (harpoons) で鯨を殺します」。

【註】 how whales are killed = how they kill whales 原文の構造の儘に譯せば「殺される方法」となりて邦語にて普通ならぬ故、上の如く paraphrase して後「殺す方法」と譯して差支なし。凡て譯文は原文の意味を出來得る丈け明瞭に表はすを目的とし、直譯して譯語が變ならば適當なる paraphrase を施して、その paraphrase の分を譯出すべし。

so as to..... = in order to..... 「.....せんが爲め」

then = when they get near the whale.

harp-ōōns' 「魚杖」(ハーブーンズ) と second syllable に accent のあるに注意すべし。

練習:-29. 下の文を passive voice を以て英譯せよ。
アイノ人は銃で熊を殺す。

“That is one way,” said Uncle George; “but the new plan is to shoot the whale with a harpoon fired from a gun. This sometimes kills the whale at once, but it is very difficult to capture a whale in any way.”

【譯】「ナル程それは一種の方法だよ (one way)」、併し、新式の方法 (the new plan) は魚杖を大砲から發射して (with a harpoon fired from a gun) 鯨を撃つのだ (is to shoot)。此方法は時によると即座に鯨を殺すことがある、が、併し、どんな方法でも (in any way) 鯨を牛擒にする (capture) 事は大層六ヶしいよ」とヂョーヂ叔父さんは申しました。

【註】 is to shoot..... = is that they shoot..... = consists in shooting..... 「.....を射ることである」即ち、此 to shoot の infinitive は shooting 「射ること」と云ふ gerund と同意なり。

capture (キャプチャー) 『捕獲』。shoot (シュート) 『射る』。

練習:-30. 上の文の is の complement は何なりや。

with.....a gun 直譯は「鐵砲から發射された魚杖で」なり。shoot..... with——「——で.....を射る」なり。尙 harpoon (which is) fired.....と補足して見よ。

“I have heard,” said Frank, “that a wounded whale is feared by the sailors, and can break a boat all to pieces with its tail, and will sometimes swallow a boat with the men in it.”

【譯】「僕は聞きましたよ、船の人達は手負の鯨を恐がる (a wounded whale is feared by sailors) そして手負の鯨はその尻尾で (with its tail) 小船を微塵に (all to pieces) 砕くことが出来る (can break) し、時によると小船をばその乗組の人達もろ共 (with the men in it) 丸呑みにする (swallow) って」。

【註】 wounded 「傷けられたる = 手負の」。原と wound の過去分詞なれど形容詞の働をなす。發音は(ウーンテッド)。

a.....whale is feared by sailors = sailors fear a.....whale.

break.....to all pieces 「木ッ葉みぢんに砕く」。

尙、all は「スツカリ」の意で to pieces の意を強む。

練習:-26. 下の文を英譯せよ

(い) 僕が石の上へコップを墮したので粉微塵になつた。

(ろ) お三が其高價の皿を微塵にこはした。

will sometimes. 「往々.....する」此 will は sometimes や often に伴ふものにして未來の意に非ず、「.....し勝ちだ」、「よく.....する」の意を示す。

break (ブレイク) 『破る』。[動]

tail (テイル) 『尾』。[名]

pieces (ピース) 『片』。[名、複]

swallow (スワロウ) 『呑む』。[動]

Uncle George laughed heartily and replied: "A wounded whale is, as you say, feared by the sailors, and can, no doubt, break a boat in two. Its mouth is large enough to hold a boat, but its throat is only six inches round, and it can not swallow anything larger than a small fish."

【譯】 ジョージ 叔父さんは アハハ と笑つて (laughed heartily) 答へて云ふには、「手負の鯨は、お前の云ふ通り (as you say) 船の人達に恐がられ (is feared by sailors), 又、無論のこと (no doubt) 小船を真二ツに (in two) 折ることが出来る。その口は小船を容れる (hold) 位に大きい (is large enough) が併し、その咽喉は (its throat) 僅か六吋圍り (round) であるから、小魚より大きなものは何にも飲めない。

【註】 laughed heartily 「カラ々と笑つた」 heartily は「心ゆく迄」、「思入れ」の意。

例:—I enjoyed myself heartily this evening.

hold=contain 「容れる」 家や室の「……人を容る」と云ふ場合に此 hold を用ふ。

練習:—32. 下文を英譯せよ。
國技館は二萬人を容る。

six inches round 「六吋まはり」

比較:—

The pond is { three miles round. (池は周囲三哩)。
one mile across. (池は直径一哩)。

laughed (läft だーフト) 『笑ふた』 〔動〕	enough' (e-nūf' イなッフ) 『足る程』 『十分に』。〔副〕
heartily (はーティリ) 『心から』 〔副〕	hold (ほッルフ) 『容れる』。〔動〕
	throat (ズロット) 『喉』。〔名〕

"Then why does it have such a large mouth?" said Frank.

"Because it needs a large mouth to gather its food. It catches many thousands of small fish; but if its mouth were small, and it had to take a few at a time, it would starve. Do you know what we find in the mouths of some whales?"

【譯】 「ぢや (Then) 何故鯨はそんな大きな口を持つてゐるんでせうか」とフランクが申しました。

「それは (Because) 鯨はその食物を蒐めるのに大きな口が要る (needs) からだ。鯨は幾千尾の小魚を捕まへる、ところで、その口が若し小さくつて一時に (at a time) 少しづつ (a few) 捕へなければならんと假定すれば (if..... were.....had.....の構造に此意あり) 鯨は乾干になつてしまふだらう (would starve)。お前は知つて居るかね、鯨の口の中には何があるか (what we find)。

【註】 food 集合名詞にして、常に單數の形に用ふ。

練習:—33. 何故 fish は fishes とならざるか。

if its mouth were..... 「その口が小さいと假定すれば」と事實(大きい)の反對の假定なり。

練習:—34. 下の文を英譯せよ。
若し妻が男であつたら軍人になるんだに。

and it had..... if it had と but の次の if を補足して、假定文なることを見るべし。

had to take..... 「……を食べるより他に詮方がない」

a few at a time 「一時に少しづつ」

gather (ぎッザ) 『集める』。〔動〕	starve (スターヴ) 『飢える』。〔動〕
needs (にーヅ) 『要る』。〔動〕	

keep.....warm 「.....を温にして置く」

練習:—38. 下文を英譯せよ。
何故我々は衣服を要するか。
身を温かにする爲めなり。

name that is given to this skin=name that this skin has. 「此の皮に與へられたる名稱=此皮の持つて居る名稱」

Blubber 鯨科の動物の全身を包む「脂皮」。俗に「脂肉」と云ふ。

is good to eat=suitable for food 「食料に適す」

例:—(此水飲むてよし=This water is good to drink).

“So it is, Frank—that is for people in very cold parts of the world. I do not think that you would like it.”

【譯】「さうさ食べられるよ (So it is) フランクや—イヤナ= (that is) 非常に寒い國々 (parts of the world) の人々[の食用]に良いのさ (for)。」

【註】 So it is=yes, it is good to eat.

that is 「(食料にする—イヤ、その適するとは)かう云ふ意味だ」。此句は前の詞を更に説明する時に用ひ、邦語にて—「と云ふのは」「イヤ、それは」。など制限的の説明をする場合に當る。

例:—He writes Japanese well—that is, he writes well for a foreigner. (彼は邦文を善く書く、—と云ふのは、外国人たる割合によく書く〔と云ふんだ〕)。

for people..... 「.....の人々にとって」

parts of the world 「世界の部分=邦土」

I do not think that you would like it=I think that you would not like it. (お前は嫌だらうと思ふ)。

注意 英語にては概して打消を前へ出して云ふ傾向あり。

{ 誰れも知らない=No one knows. (Any one does not know と云はざるを常とす)。
僕には出来ないでせう=I don't believe I can do it. (I believe I can not do it. と云ふ事稀なり)。

練習:—39. 下文を英譯せよ。
あの人は成功しないだらう。

“I wish I could see a whale,” said Frank.

“Perhaps you may some time,” said Uncle George.

【譯】「ア—鯨が見られるといふんだにナア (I wish I could see)」とフランクは申しました。

「多分お前は其内に (some time) 見られませう (may) よ」とジョージ叔父さんが申しました。

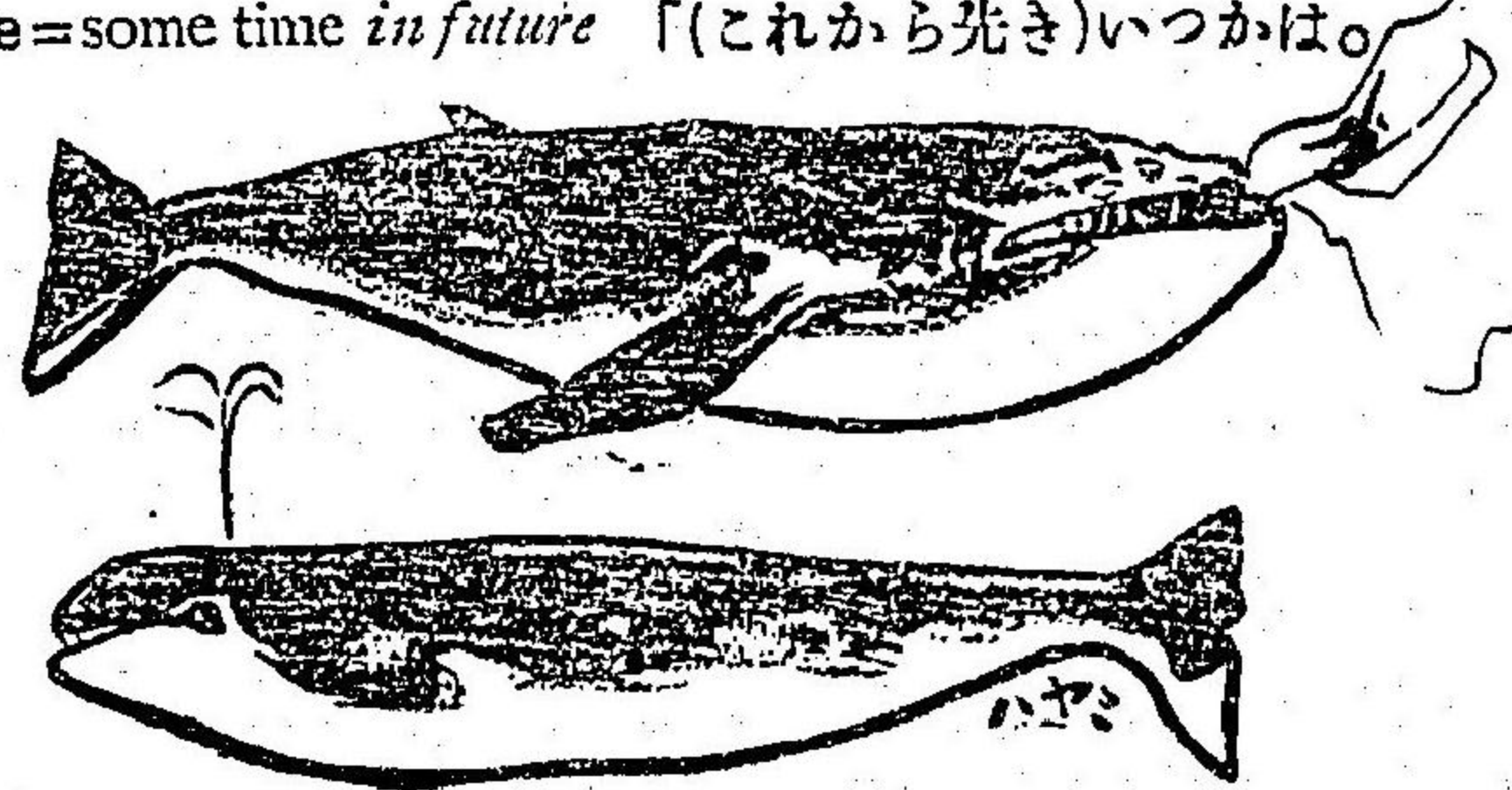
【註】 I wish I could see a whale=I am sorry I can not see a whale. 「鯨を見ることが出来るといふんだがア=見られないので遺憾だ」

練習:—40. 下文を英譯せよ。

ア—、獨乙語が出来るといふんだがナ—。

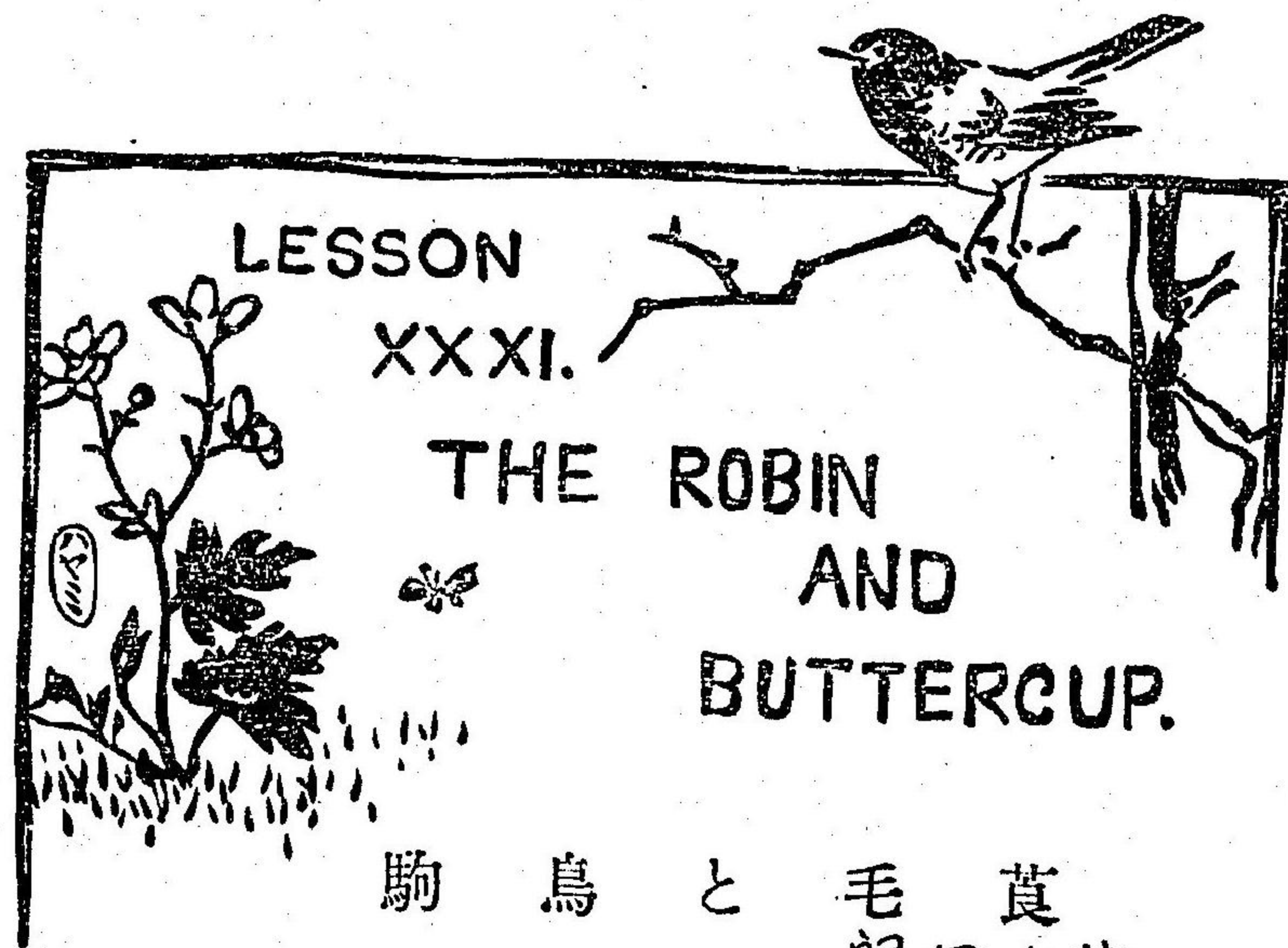
you may (see a whale).

some time=some time in future 「(これから先き)いつかは」



上は Humpbacked whale.

下は California grey whale.



Down in a field, one day in June,
 The flowers all bloomed together,
 Save one, who tried to hide herself,
 And drooped—that pleasant weather.

【譯】 水無月の一日 (one day in June) 野に出て見れば (Down in a field)

LESSON XXXI.

rōb'in (ろピン) 『駒鳥』
 bū'tēr-eūp (ぶたかふ) 『キンポウゲ
 (草花)』 [名]
 fiēld (ふいーるど) 『野』『田圃』 [名]
 blōomed (ブロームド) 『開花す』

【動】 bloom の過去
 to-gēth'er (どげぢ) 『共に』 [副]
 drōoped (どるーぷど) 『頭ヲ垂レタ』
 【動】
 sāve (さいざ) 『を除きて』 [前]
 plēas'ānt (うれざんと) 『快キ』 [形]
 wēath'ēr (うゑざ) 『天氣』 [名]

千草百草花咲き亂る (The flowers all bloomed together)

中に一、本の花のみは (save one) 姿を見せじと (tried to hide herself)

首垂る (drooped) とは怪しや此の楽しき頃に (—that pleasant weather)。

【註】 Down in the field 此 down は Out と云ふ字を用ふることもあり、村里を「離れてあなた」の意。一體、英語にて、側へ寄る時 up を用ゐて、Come up to me.

と云ひ、向へ行く時 down を用ゐて
 I'll come down to see you.

と云ふ

Save one=except one flower.

— that pleasant weather=「時もあらうにこの心地よい天氣だのに」=and in such pleasant weather as that 「そんないゝ時候だのに」の意

練習：—41. 下文を英譯せよ。

日もあらうに正月元日に喧嘩をするとは。

上文を散文に改むれば下の如し。

One day in June, the flowers all bloomed together down in the field except one flower, which tried to hide itself and drooped in such pleasant weather.

A robin, who had flown too high
 And felt a little lazy,
 Was resting near the buttercup,
 Who wished she were a daisy.

lāz'y (れいずい) 『懶キ』『怠惰の』 [形] | dāz'sy (たいずい) 『雛菊』 [名]

【譯】 駒鳥一羽、空高く、餘りに高く翔りつゝ (had flown too high)

少しく疲れを覚えしまゝ (felt a little lazy)
そのキンボゲの傍に羽を休めて居たりける (were resting)

そのキンボゲは己が身の雛菊ならぬを啣つなり (wished she was a daisy)。

【註】 who had flown 之より前にの意 had..... の大過去形にて示さる。

lazy=languid=dull 「ケッタルイ」。

wished she were a daisy 出来ない相談の希望を示す形。當人自身の詞を其儘表はせば

I wish I were a daisy.

となる。

練習:-42. 下の文を英譯せよ。

アー、鳥だと宜いんだにナ。

練習:-43. 上の一節を散文に改めよ。

For daisies grow so trim and tall;

She always had a passion

For wearing frills around her neck,

In just the daisies' fashion.

【譯】 雛菊嬢は姿凛々しく (trim) 丈も高し、

我身も切に望ましし (had a passion)

頸の周りに房の飾を着けんこと (wearing frills around her neck)

trim (ドリム) 『キチントしたる』
〔形〕

grow (グロウ) 『成長する』。〔動〕

passion (パッション) 『熱望』。〔名〕

frill (フリルズ) 『襷べり』。〔名〕複

fashion (ファッション) 『風』『様』。〔名〕

雛菊さん。をそのまゝに (In just the.....fashion)。

【註】 She always.....の She は buttercup なり。

had a passion for.....=had a strong desire for.....「.....を求むる熱望を抱いた」。

{ He has a passion for the study of English.

{ 彼は英語の研究に熱中して居る。

frills 「ヒダ」、茲にては「飾り」の意。

練習:-44. 上の一節を散文に譯すべし。

And buttercups must always be

The same old, tiresome color,

While daisies dress in gold and white,

Although their gold is duller.

【譯】 いつも變らぬキンボゲは

相も變らぬ古びたる、見も古したる (tiresome)

色うたて。

雛菊嬢は金銀の衣を身にぞまとへるに (dress in.....)

よし、その黄金の色ざしは冴えたる色にあらず

(is duller) とも。

【註】 While=on the other hand 「然るに一方では」。

dress in gold and white 「白地に金の刺繍した衣を身にまとふ」。

is duller=is comparatively dull. 「どちらかと云へば沈むだ色」。

練習:-45. 上の一節を散文に譯せよ。

tiresome (タイサム) 『厭き々々する』。〔形〕

color (カラー) 『色』。〔名〕

dress (ドレス) 『装ふ』。〔動〕

duller (ダラー) 『くすんだ方の色』。

〔形〕 dull の比較級

“Dear robin,” said this sad young flower,
 “Perhaps you'd not mind trying
 To find a nice white frill for me
 Some day, when you are flying.”

【譯】「まうし々々駒鳥さん」と打萎れたる (sad) キンボークは
 「まさか」(perhaps) 厭とは仰るまい (you'd not mind)

立派な飾りを見付けて、
 いつか、貴君が飛んでる折に」。

【註】 Perhaps 「多分」
 you'd not mind trying = you would not refuse to try..... 「.....は気に
 しまい =はいやとは仰るまい」

注意 此語は日本人の多く應用を誤るところなり、例へば、西洋人が、窓
 を締めて呉れと頼むに際し、

Would you *mind* shutting the window?

と云ひたらば、承諾の意を示すには
 No; not at all.

と云はざるべからず; 然るに、承諾の意は他の詞にて問はれし場合は
 いつも、Yes——故矢張
 Yes, sir.

など云ふ。然るに *mind* は「氣にする = 面倒がる」意なれば
 Yes, (I *mind* shutting it) にては面倒臭い意となるなり。

練習;-46. 上の一節を散文に改めよ。

“You silly thing,” the robin said,
 “I think you must be crazy;

mind (マインド) 『面倒がる』。〔動〕 | *erā'zī* (クレイズィ) 『狂氣したる』
sil'ly (サイリ) 『愚かなる』。〔形〕 | 〔形〕

I'd rather be my honest self
 Than any made-up daisy.

【譯】「さても愚なお人ぢやね (You silly thing)」と
 駒鳥は
 「お前は氣でもふれたかね (must be crazy)
 乃公は飾らず偽はらぬ自然のまゝで居たいのに
こしらえ物の (made-up) 雛菊よりは。

【註】 You silly thing = You foolish fellow 「=、ナ馬鹿者奴が」
 I'd rather be.....than——=I would rather be.....than——「——よ
 りか寧ろ... ..たるべし」
 my honest self 「自分丈け」即ち、「天眞のまゝ」

練習:-47. 上文を散文に改めよ。

“You're nicer in your own bright gown;
 The little children love you;
 Be the best buttercup you can,
 And think no flower above you.

【譯】「お前の綺麗な衣服で居る方が優だ
 子供はお前を可愛がる
 精一杯立派なキンボークになり賜へ。
 他に増す花がないと思ふて。

hōn'ēst (ホネスト) 『忠實なる』『真
 の』〔形〕
āth'ēr (アザ) 『寧ろ』。〔副〕
nāde'-up (メイドアップ) 『拵へ物の』

〔形〕
nic'ēr (ナイサ) 〔形〕 nice の比較級
gōwn (ガウン) 寛かな『外衣』。〔名〕

【註】 You're nicer=You are nicer 此比較は、*Than in borrowed frills* と後へ加へて見るべし。

you can=*as much as you can.*

練習：-48. 上文を散文に改めよ。

“Though swallows leave out of sight,
We'd better keep our places.
Perhaps the world would all go wrong,
With one too many daisies.

【譯】 「よしや (Though) 燕は眼もかすむ遠方へ (out of sight) 飛び去らうと
吾等は茲に居るがよい (we'd better keep our places)

世の中 (the world) 障りが起りませう (would go wrong)
餘計な雛菊が (one too many daisies) 出来たらば。

【註】 out of sight=so far as we can not see.

would all go wrong 「混乱してしまうだらう」

with one too many daisies=*if they have too many daisies only by one*

「タッタ一でも餘計な雛菊があるならば」

I have a wife—and that's *one too many*.

乃公には女房が一人ある—その一人が厄介なんだ(一人ても、その一人だけあり過ぎるんだ=無い方がいいよ)。

練習：-49. 上文を散文に改めよ。

“Look bravely up into the sky,
And be content with knowing
That God wished for a buttercup

content' (コンテント) 『満足せる』 | 【形】 be の補助詞

Just here, where you are growing.”

【譯】 「さア元氣よく大空を仰ぎ
分に安んじ賜へ、よく辨へて
神の意はキンポウゲに此土地に
此地に、お身のあらんことぞと」。

【註】 Look bravely up 前の *droop* の反対で、「(萎れ返って居ずに) 雄々しく首を挙げ玉へ」と勵ますなり。

God wished for a buttercup *to be just here* として見よ。

練習：-50. 上文を改め散文にせよ。

MAXIM FOR MEMORIZING.

“He that is good at making excuses, is seldom good for anythings else.”

【申譯をするのが (making excuses) 上手な (is good at.....) 人は、他の事には (for anything else) 滅多に役に立たない (is seldom good for.....)』

格言集

Aspiring beggary is wretchedness itself.

貧にして徒らに高きを望むは不幸の極みなり。

He is well constituted who grieves not for what he has not, and rejoices for what he has.

己の有せざる所を啣たず、己の有する所を楽しむ人や其心榮めてたし。

Discontents arise from our desires oftener than from our wants.

不満の念は吾人實際の欠乏に因するよりも、望蜀の念に起ること多し。

LESSON XXXII.

COTTON.

綿

“Father, I would like to know all about cotton and how they make cloth,” said John.

“Very well, John,” replied Mr. Wood, “I will try to answer any questions you may ask.”

【譯】「お父さん、僕は綿のお話をスツカリと (all about) それから、人々が布帛をえしらへるやり方 (how they make cloth) を聞き度いもんですね (would like to know)」とジョンが申ました。

「よろしい (very well) ジョンや、私は何でもお前の好きな質問に (any question you may ask) 答へて見ませう (try to.....)」とウッドさんが申しました。

【註】 I would like to..... 「.....したいもんだ」単に “I like to.....” とするよりも丁寧な云ひまじなり。尚、本来の理屈から云へば “I should like to.....” となるべきなれど、米國にては would を用ふること普通なり。 know=learn 「聞く」

they=the people concerned 「當業者」即ち、茲にては織物業者を指す。
(い) They (= The teachers) teach German in that school.
(ろ) They (= The people) celebrate the 4th of July as “Independence Day” in America. (米國では「人々が」七月四日を獨立祭として祝する)。

LESSON XXXII.

cōt'ŋ (コドン) 『綿』。〔名〕

elōth (クゾス) 『布帛(きれ)』。〔名〕

Jō'n (ジョン) 『人名』。〔固、名〕

上の例にて They が漠然と其事に關係ある人々を表すことを學ぶべし。

Very well=all right 「よし」

any questions you may ask=whatever questions you may ask 「君の尋ねるどんな質問でも」

練習:—51. 下文を英譯せよ。
此本の中でどれでも好きなのお探り。

“Well, then, what is cotton?” inquired John.

“A soft down that grows in the boll of a plant.”

“Tell me about the plant, please.”

【譯】「さうですか (Well) そんなら (then)、綿ってものは何ですか」とジョンが尋ねました (inquired)。

「ある植物の圓蒴 (boll) の中に生へる (grows) 柔かな毳毛 (soft down) だよ」。

「その植物の話を聞かして下さい (tell me) 何卒 (please)」。

【註】 Well は受流す應答にして、此場合の如きは「ア、さうですか」に當る。

down 鳥類の胸や頸の下のあたりの「ムク毛」。發音は「下」と云ふ意味の副詞と同じ。

boll 綿の鞘の如き「圓形のサヤ」。

“It is raised in our own Southern States, in India, and in some other countries.”

soft (ソフト) 『柔かき』。〔形〕

down (ダウン) 『綿毛』。〔名〕

bol (ボール) 『圓蒴』。〔名〕

plant (プラント) 『植物』。〔名〕

Sōth'ern (さザン) 『南方の』。〔形〕

States (ステイツ) 『洲 (合衆國の)』。〔名〕複

eoūn'trīz (カンドリス) 『國』。〔名〕

country の複

【譯】「綿の樹 (It) は我「合衆國の」南部諸州 (Southern States) や、印度や、その他の國々に栽培される (is raised)」。

【註】 is raised = is cultivated 「栽ゑ育てられる」
our own..... 米國人の著作故、our own と云へば北米合衆國の意。
Southern States Louisiana, Arkansas, Texas 等の諸州を指す。

“How does it look?”

“Like a small tree—the cotton plants are often called trees. They grow from four to seven feet high and are planted in rows like corn. The bolls in which cotton grows, open when ripe and show their white down.”

【譯】「その植物はどんな風ですか (How does..... look?)。

「小さな樹のやうだ—綿の植物は往々樹と云はれる。その樹は四呎乃至七呎 (from four to seven feet) の高さに成長し、そして玉蜀黍 (corn) のやうに列をなして (in rows) 植ゑ付けられる (are planted)。綿が生ゑるところの圓蒔は熟すと (when ripe) 口を披きまして (open) その中の白いムク毛を出して見せます (shows)」。

【註】 How does it look? = What does it look like? 「どんな風に見えるか=何に似てゐるか」

Like..... = It looks like.....

grow from four to seven feet high 「四呎から七呎迄の高さに生育する」

rows (ローズ) 『列』。〔名〕

ripe (ライプ) 『熟した』。〔形〕

corn (コーン) 『玉蜀黍』。〔名〕



in rows 「列をなして」

corn = Indian corn 「玉蜀黍」此語は：—

(い) 英國にては.....小麥、大麥、燕麥、黑麥

(ろ) 米國にては.....玉蜀黍

を意味す。

open 「口をあける」=「割れる」

練習：—52. open の主格は何か、in which the cotton grows は何を形容せる句なりや。

when ripe = when they are ripe

show = display 「ひらき見せる」

“I have seen a picture of a cotton field,” said

pic'ture (ピクチャ) 『畫』。〔名〕

John. "There were some negroes picking the cotton, and carrying it away in baskets."

【譯】「私は綿の畠 (cotton field) の繪を見たことがあります (have seen)、黒奴が (negroes) 幾人か綿を摘んで居る (picking) し、それから、それを籃へ入れて (in baskets) 搬んで居る (carrying) ところがありました (there were)。」

【註】 field を「畠」の意に用ふること極めて多し、「野原」とばかり思ひ込むべからず。

There were some negroes.....(painted in the picture) 「数人の黒奴が.....して居るところが [描かれて] あつた。」

negro は始め亞弗利加の土人を勞役者として南米に輸入したるなり。「聖書に、基督の十字架を刑場に荷ひ行きしは negro の一人 Simon と云ふ者なりしとて、negro は未來永劫、重荷を負はされる運命を負ひ居るものなれば奴隷とすることは罪に非ず」と主張する基督信徒今も尙、米國あたりにありとは驚くべし。

"They were taking it to a gin," said his father.

"What is a gin?"

"A machine to take out the seeds."

【譯】「彼等黒奴はその綿を gin へ持つて行くところなんだよ」と父が申ました。

「gin てのは何ですか。」

「種を取り去る (take out) 器械 (machine) さ。」

【註】 gin (ちん) cotton-gin とも云ふ。「綿の種を抜く器械」。我邦のも ne'grōes (にーグロズ) 『黒人』。[名] negro の複 bas'kēts (ばスケツ) 『籠』。[名] 複 gin (じん) 『繰綿機械』。[名] pick'ing (びキング) 『摘む』。[動] seeds (スイーツ) 『種』。[名] 複 pick の現在分詞

のとは異なる。頁末のカットを見よ

What is a gin? gin と云ふ詞を、John は知らざりし故「gin てのは何の事ですか」と問ひ反せしなり。

"Are there many seeds?" inquired John.

"So many, that before they had the gin, it was very hard work to make the cotton fit to use."

【譯】「種は澤山ありますか」とジンヨが尋ねました。

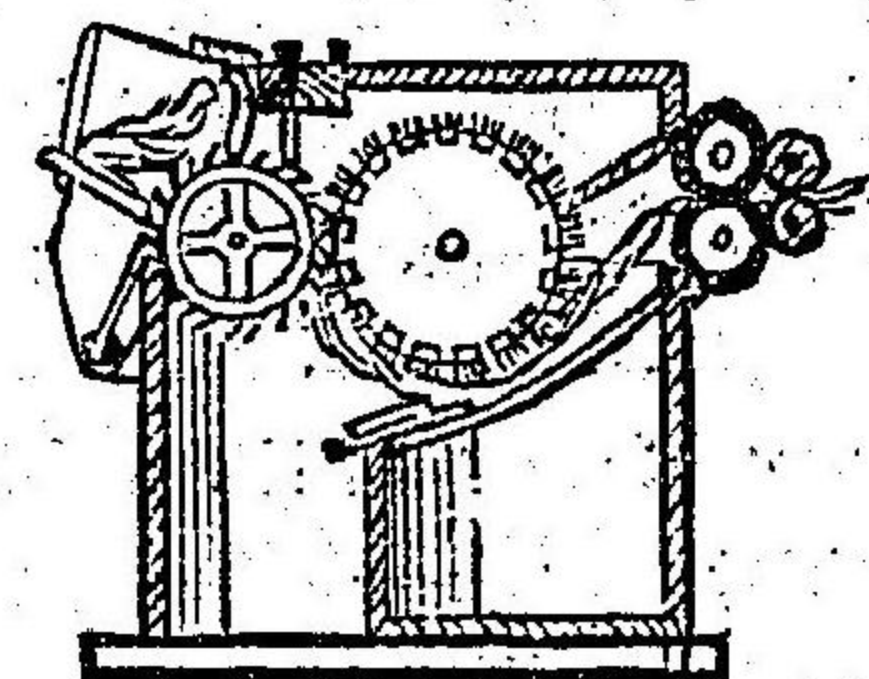
「大層澤山あります (so many) から (so.....that の構造に此意あり) 綿繰器械 (gin) が出来る迄は (before they had.....) 綿を使はれる (fit to use) やうにする (make) のは中々骨の折れた仕事でした (it was very hard work to.....)。」

【註】 so many that..... = There are so many seeds that..... 「.....種澤山ある = 澤山あるから.....」

They had..... = People had..... 「人々が.....を持つた」即ち、云ひ換へれば「.....が出来た =was invented」の意となる。

it was.....to——「——するのは.....であつた」此場合の it は to..... の formal subject (單に形式上の主格) にして、此文を書き改むれば、—before they had the gin, to make the cotton fit to use was very hard work. としても同意なり、然らば to make の "to....." の構造は "it" 無くとも済むを知るべし、而して、此 "to....." は名詞の働をなし、「.....するのは =することは」の意。

To get up early is good for health. = Getting up early is good for health. = It is good for health to get up early. 早く起きることは健康に宜しい。



Cotton-gin

fit(ふイット) 『適したる』。[形]

但し、斯の如き文には *It is.....to.....* の形を用ふる方普通なり。

練習:—53. 下の文は正しきか、又、之を解りよくするには如何に改むるか。
 I thought to do such a thing difficult.

fit to use 「使用に適す」 use は此場合名詞 (發音ゆゑ) にして「使用」to は前置詞なれば「用ひべく」と譯すべからず。

“Are the seeds that are taken out, planted?” inquired John. “Yes, a small part of the seeds is used for that purpose; but a larger quantity is used in making a very good oil. The seeds are ground and pressed, and, after the oil is out, what is left is fed to cattle to fatten them.”

【譯】「抜き取つた種 (the seeds that are taken out) は 植ゑられるんてすか (are.....planted?)」とジョンが尋ねました。

「さう、其種の 小部分 (a small part) は 其用途 (for that purpose) 使はれます (is used)、が 大部分は (a larger quantity) 大層良い油を製するの (in making) 用ゐられます。種は 碾かれて (are ground) 搾られて (are pressed) そして、油が出てしまふと (after the oil is out) [後へ残つた物=] 滓は (what is left) 滋養にとて (to fatten them) 牛に喰せる (is fed to cattle)。」

pûr'pôse (ばーパス) 『目的』。〔名〕
 quan'ti-tî (クエンティティ) 『量』。〔名〕
 ground (グラウンド) 『碾[かれた]』。〔動 grind の過去分詞 are へ連る〕
 pressed (プレス) 『壓搾[され]』。〔動〕 press の過去分詞 茲にては前の are に連りて passive をなす
 cāttle (キャトル) 『家畜』。〔名〕
 fāt'ten (ファットン) 『肥やす』。〔動〕

【註】 planted の前に comma あるは seeds 以下の形容句が長き故なり。冒頭の Are と結合するを忘るゝな。
for that purpose = for the purpose of planting.
are ground 「(白で)碾かれる」 ground は grind (碾く) の過去分詞。
what is left 「遺されたところのもの=残つた滓」。

練習:—54. 下の文を英譯せよ。
 残つた資産でどうかこうかしなければならん。

is fed to..... 「.....に食はされる」 fed は feed の過去形、及過去分詞。feed は獸などに「餌を食はす」。
cattle 廣く用ふれば「家畜」の意なれど今は牛にのみ用ふるを常とす。
fatten 「肥やす」、「滋養を與へる」。

“Then there is something made of cotton besides cloth,” said John, “but you haven't told me about the cloth yet.”

【譯】「それから」 (Then) 布帛 (cloth) の外にもまだ (besides) 綿で造らへるもの (something made of cotton) がありますね (there is) けれど、お父さんはまだ布帛の事を (about cloth) お話しなさらなかつたのね。」

【註】 Then 「その時に = at that time」にあらず、「それから」と話を轉ずるなり。

“We will come to that soon, John. After the cotton has been ginned it is put up in large bales, and then sent away by railroad or steamboat to the cotton mills.”

ginned (ジンド) 『繰[られた]』。〔動〕 gin の過去分詞前の been と聯る。
 bāles (ベイルズ) 『包』。〔名〕複
 rāil'rōad (レイルロード) 『鐵道』。〔名〕
 stēam-bōat (スチームボット) 『小蒸氣船』。〔名〕
 mīl's (ミルズ) 『工場』。〔名〕複

【譯】「おきに (soon) 其お話になるよ (we will come to that soon) ジョンや。綿の種が抜かれてしまふ (has been ginned) と大きな袋へ (in large bales) 詰められ (is put up) てそれから (and then) 汽車や (by railroad) 又は汽船で (by steamboat) 紡績所 (cotton mills) へ送られる (is sent away)。」

【註】 come to that = come to that subject 「その題目へ達する = その話にかゝる」

ginned gin と云ふ字を動詞に用ひて「綿の種を抜く」意。

練習:—55. ginned と # の二ツ重なりたる理由如何。

sent away 前の it is へ結合し is sent away 「送られる」となる。

by railroad = by train 「汽車で」

by steamboat 「小蒸氣で」

cotton mills 「紡績工場」 mill は「水車場」とのみ思ふべからず、「工場」の意に用ふることも多し。

“And there made into cloth?”

“First into thread, and then into cloth,” said his father.

【譯】「してその紡績所で (there) 布帛に製するんですね。」

「最初は糸に [製し] (First into thread) それから (and then) 布帛に [製する] (into cloth) んだ」とお父さんが申しました。

【註】 there made into cloth? = there it is made into cloth, isn't it?

First into thread = First it is made into thread.

thread (スレヅド) 『糸』。[名]

“How is it done?” said John.

“Hasn't your grandmother show you her old spinning wheel and loom that are in the attic?”

【譯】お前のお祖母さん (grandmother) が屋根裏部屋にある (that are in the attic) 御自分の古い糸取車 (spinning wheel) と織機 (loom) をお前に見せなかつたかい (hasn't shown you?)」

【註】 spinning wheel 「糸操車」片田舎にては今も、糸取車にてブー々々と糸を紡ぐを見らるべし。

attic 西洋家屋にて、家根のすぐ下はガラクタを入れる「物置部屋」とか又は奉公人の寝室などに用ゐる。

“Yes, I have seen them,” said John, “and grandmother has told me about the way they were used, and that it took a long time to make a yard of cloth when she was a girl.”

【譯】「エイ、私見ましたよ、その糸取車と織機を (them) してお祖母さんは [それが用ゐられた方法 =] その用ゐ方 (the way they were used) や、それからお祖母さんが年の若い時分には一ヤードの布帛を織るにも長い間かゝつた (it took a long time) と云ふことを話して聞かせましたよ。」

【註】 the way they were used = the way in which they were used

grānd'mōth'ēr (グランドマザ) 『祖母』。[名]

spin'ning-wheēl (スピニングホイール) 『紡車(イト)』。[名]

loom (ルーム) 『織機(カタ)』。[名]

āt'ic (アティック) 『屋根裏の物置又は部屋』。[名]

グルマ)』。[名]

āt'ic (アティック) 『屋根裏の物置又は部屋』。[名]

āt'ic (アティック) 『屋根裏の物置又は部屋』。[名]

āt'ic (アティック) 『屋根裏の物置又は部屋』。[名]

「使はれた仕方」。

it took a long time to..... 「.....するには長い時間がゝつた」。

練習: -56. 下文を英譯せよ。
僕は學校へ来るに半時間かゝる。

“Well, now, John, every mill has a large number of spindles to make thread; and as steam is used, the spindles move much faster and more steadily than in the old days.”

【譯】「さうかえ、(Well) 今ぢや、ジョンや、どこの紡績所でも、糸を製するのに (to make threads) 澤山の (a large number of) 錘 (spindles) があつて (has) そして 蒸氣 (steam) 用ゐるから (as) 錘は昔 (in the old days) よりもズッと速く (much faster) もつと規則正しく (steadily) 動きまゐる (move)。

【註】 a large number of..... = very many.....
as steam is used 動力として「蒸氣が用ゐられるから」
faster 後の than へかゝる。
more steadily than へかゝる。steadily は「着々と」にして、規則正しき運動を云ふ。

例:—
You must study *steadily*.
(お前は規則正しく勉強しなければいけません)。
than in the old days = than *the spindles moved* in the old days.

spindles (スピンドルズ) 『紡錘』。 [形] fast の比較級
[名] 複 stēa'di-lī (ステディリ) 『着々と』
fast'er (ファスタ) 『更に速く』。 [副]

“The looms now used for weaving the thread into cloth do it better than your grandmother ever thought possible.”

【譯】「當今糸を (the thread) 布帛に (into cloth) 織る のに (for weaving) 用ゐられる (used) 織機は (The looms) お前の 祖母さんが (your grandmother) [まさかこんなによく] 出来やう (possible) とは思ひもよらん程によく (better than.....ever thought) 織りますよ (do it)。

【註】 The looms (which are) now used to do it

練習: -57. 此 do. は何と云ふ語に代り、且つ何を主格とするや。

better than your grandmother ever thought possible
= so well as your grandmother thought it impossible
= お前の祖母君が出来ると思つた度合よりも旨く
= お前の母祖君が出来ないと思つた程旨く。

此邊の意は、お祖母さんが若い時分にはどんなことをしたても一日二反位織るのがセイ一杯 (ever thought possible) と思つたが今はそれよりもよく、即ち、澤山に織れる、と云ふ意味。

“Calico is made of cotton, is it not, father?”

“Certainly. The pretty calico dresses that you see are only cotton cloth printed in different colours.”

pōs'si-ble (ポズイブル) 『出来得可き』。 [形]
eāl'i-cō (キアリコ) 『きやらこ』。 [名]
cēr'tain-lī (サーティンリ) 『正に』
『如何にも』。 [副]
pret'tī (プリティ) 『綺麗な』。 [形]
drēs'seŷ (ドレセズ) 『衣服』。 [名] 複

wēav'ing (ワイヴィング) 『織ること』。 [動] weave の gerund にして前置詞 for の目的となりて名詞の働をなす。
print'ed (プリント) 『模様ヲ捺染したる』。 [動] print の過去
dif'fer-ent (ディフェレント) 『様々の』。 [形]

【譯】「キャラコ更紗 (calico) は 木綿 (cotton) で出来
るん (is made of) でせう、お父さん」。「ア、さうだよ
(certainly)。よく見かける (that you see) 綺麗な更紗の着
物 (pretty calico dresses) は 他にもない (only) 木綿の帛
布 (cotton cloth) へ様々の色で (in different colors) 形を附
けた (printed) ものだ」。

【註】 that you see 「現にお前の目撃する」。此句は無くとも意味は分る
も、「(現在お前が見かける) あの綺麗な更紗の衣服が、……に他ならぬのだ
」と pretty dress を強めしなり。

cloth (which is) printed in…… 「……で型を附けた」。色には in を用
ふる事に注意せよ。

“Is that all about cotton, father?” said John.

“Not quite. Can you tell me what we do with
old cotton clothes?”

“O yes; we sell them to the rag-man to be made
into paper.”

“Very good paper, too, John; such as we can
write on.”

【譯】「綿のお話はそれでお仕舞ですか (Is that all
about……?)お父さん」とジョンは申しました。「まだすッ
かりぢやないよ (Not quite)。お前は知つて居るかい (Can
you tell me) 私達は古い木綿の衣服 (old cotton clothes)
をどうするか (what we do with)。「エー知つてますとも
(O yes) 私共は屑屋さん (the ragman) にその古衣 (them)
を賣りますと、それが紙に製されます (to be made into
paper)。「しかも (too) 大層良い紙だよジョンや、私共が
字を書くやうな質の」。

rāg'mān (ラグマン) 『襤褸買ひ』
[名]

pā'pūr (ペイパ) 『紙』 [名]

write (ライト) 『書く』 [動]

【註】 Very good paper, too 此 too は and……too と云ふ使ひ方にして
「しかも」と譯して當る。

we can write on = on which we write.

練習;—58. 次の文を英譯せよ。

(イ) 其手紙は罫の無い紙へ書かなければいかんよ。

(ロ) 父はまだスッカリとは癒りません。

“I hope you will take me, some time, to see them
make cloth and paper, too,” said John.

“So I will,” said his father, “and then you will be
able to understand many things that I can not
describe to you without your seeing them.”

【譯】「お父さんは私を、いつか (some time) 帛布や
(cloth) それから又 (and too) 紙を製造するところを見に
(see them make) 連れて行って下さるでせうね— (I hope
you will take me)」とジョンが云ひました。

「よし連れてってやるよ (So I will) さうすれば (and then)
お前は色々なことが會得出来るだらうよ (will be able to
understand)、その色々な事は (that) お前が實見しなけれ
ば (without your seeing them) 私にもお前に説明してやれ
ないんだ (I can not describe to you)。

【註】 see them (people) make …… 「人々が……を造るところを見る」
此の Them は those who are engaged in that business で「その當業者」。

So I will = Yes, I will.

describe は「詳しく説き明かす」意。

I can not describe the terrible prospect of the great conflagration.

without your seeing them = unless you see them.

dē-seribe' (ディスクライブ) 『述べ | る』『説明する』 [動]



LESSON
XXXIII.
A BUFFALO HUNT.

野 牛 狩

Several years ago, a friend and myself set out to hunt the bison, or buffalo, as it is generally called, on the great plains of the West.

【譯】 數年前 (Several years ago) 私は一人の友人と (a friend myself) 野牛 (the bison) 普通に之を水牛と云つてゐるが (or buffalo, as it is generally called) [その野牛] を、西國 (the West) の 大原野 (the great plains) で (on) 獵をしに (to hunt) 出かけました (set out)。

【註】 Several years とは一二年の如き僅少な年月でもなければ又十年十五年といふ程多くの年月をいふものでもなく結局四五年とか五六年とかいふところ、即ち「數年」に當る。

a friend and myself 邦語にて「私と友人」といふところも英語にては常に相手を先きにし自分を後にするの慣習あり、又 a friend and I. といふよりは a friend and myself. といふ方口調好ければ後者を普通用ふ。

LESSON XXXIII.

būf'fa-lōes (ばフアロウズ) 『野牛』
[名]

hūnt (ハント) 『狩り』。[名]

bī'son (バイソン) 『野牛』。[名]

plāins (プレーンズ) 『平野』。[名] 複

West (ウエスト) 『西部』。[名]

set out 「出掛けた」。此の set は不規則動詞にして、現在、過去、過去分詞とも同一の形なり。こゝにては勿論過去なり。

例:—We set out for home.
(我等は歸途に就いた)。

the bison=the wild ox
『野牛』。章の初の挿圖参照。

the buffalo 「水牛」。右の挿圖は即ち是れ。圖の示す如く bison と buffalo とは

別種のものなるを米國人は bison を buffalo と呼ぶ慣ひなりと云ふなり。

as it is generally called=as they call it. 「世人のいふ」、大抵は「所謂」と譯して可。generally 「普通に」、「通例」など、故に此場合 as.....called は「普通に所謂」「俗に所謂」などと譯して當る。

the West 北米合衆國の「西部地方」即ち、太平洋沿岸地方(ミシシピュ河と太平洋との間の地方、殊にその北部)。合衆國を大別して The East (ニューイングランド地方); the West; the South (Chapter XXXII. 参照) (the North (オハイオ河、ミソリ河の北部地方)となす。

A short time after, we met some friendly Indians and were invited to join them in a hunt.

【譯】 暫くして (A short time after) 私達は (we) 數人の敵意のない亞米利加土人 (some friendly Indians) に出遇ひました (met) 其土人共の切なる勧めに出つて

mēt (めツド) 『會した』『逢ふた』

〔動〕 meet の過去

frīend'ly (フレンドリ) 『親切なる』

〔形〕

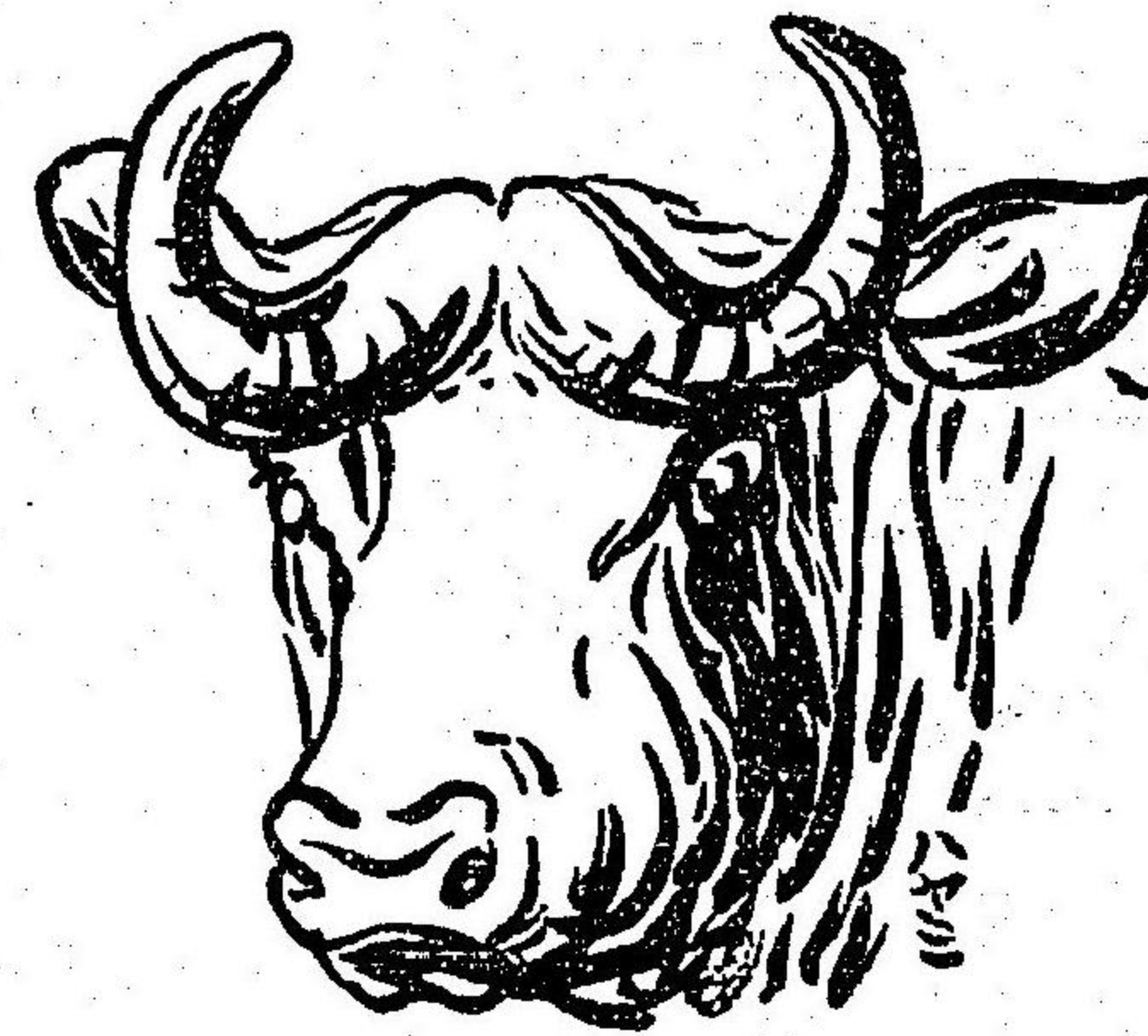
īn'diānz (インディアンズ) 『印度人』

〔名〕米國の土人なり。

in-vit'ēd (インヴァイテッド) 『招い

だ』。〔動〕 invite の過去

join (ジョイン) 『加はる』。〔動〕



Cape buffalo.

(were invited to...) 土人の獵の仲間入りをする (join them in a hunt) ことゝなりました [前の were invited to にかゝる]。

【註】 friendly は此場合には「親切なる」と云ふ程強からず、not hostile 即ち「敵意なき」の意なり。Indian は概して白人に敵意を懐く故、それと區別して好意ある連中をば friendly-と云ひしなり。

Indians は「印度人」とのみ譯すは悪し。こゝにては亞米利加土著の民をいふ。釋迦の出生地の「印度國」は“India”なれども、其人民は The Hindoos (ヒンドーズ)と稱す。

were invited の主格は we なり、「誘引さるゝ」の義、即ち土人に誘はれて仲間入りするやうになつた、と云ふなり。

join—in..... 「.....をする—の仲間に加はる」

比較:—

{ I joined them in baseball. (ベースの連中に加はつた) }

{ I joined in the dance. (舞踏に加はつた) }

注意 join の後に人來る時 in なく、事柄來る時 in あり。

Now there are a number of different ways of hunting the buffalo.

【譯】 さて (Now) 水牛を獵るの (hunting) には 異つた (different) 方法 (ways) が 幾つか (a number of) あります (there are)。

Common buffalo



【註】 Now は「さて」、「抑も」など詞を改めて説き出す時に用ふ。

a number of=some 「若干の」 數を明示せざる時。

different 「相異なる」

比較:—

There are several monkeys. (數匹の猿が居る)。

They are of different kinds. (その種類は種々だ)。

This is different from that. (これはアレとは別だ)。

way 「方法」、手段」

hunting 「狩獵すること」

The most common is called “running.” It is done upon horse-back, and consists in overtaking the buffalo and shooting it with a gun or arrow while it runs.

【譯】 一番 (The most) 普通 (common) [に行はるゝところ] のものは、『走り[獵] (“running”)』と申します (is called)、走り獵といふのは (It) 馬上 (upon horse-back) での仕事 (is done) でありまして (and) 水牛に追ひ付いて (overtaking the buffalo and) 水牛が走つて居るところを (while it runs) 小銃 (a gun) 又は (or) 矢 (arrow) で (with) 水牛を射る (shooting) のであります (consists in)。

【註】 common 「普通の」 其次に、way of hunting the buffalo と補ひて見よ。

upon horse-back 「馬背上」即ち「馬上又は乗馬」

練習:—59. 下文を英譯せよ。

二合目迄馬で行つて、それから徒歩で登りました。

consist in..... 「.....に在り」 consist in の主格は最初の It にして “running” を指す。故にこゝの意味は「.....することが即ち走り獵といふものである」なり。

比較 { True happiness consists in contentment. (眞の幸福は満足に在り)。

{ The empire consists of five large islands. (帝國は五大島より成る)。

Com'mon (Cōm'ūn. コマン) 『普通の』 [形]

horse'-bāck (ほースバック) 『馬背』 [名]

con-sists' (コンザイスツ) in..... 『...にあり』 [動]

ō'ver-tak'ing (おヴアテイキング) 『追付く』 [動]

overtake の gerund にして in の目的となりて名詞の働きをなす。

ār'ōw (あロウ) 『矢』 [名]

注意 consists of..... にても「.....である」と譯すべき事あり:—
The present consisted of a ring. (その贈物は指環であった)。即ち、其物件が
一ツなる場合なり。

White hunters use guns; but Indians prefer the bow, as they can shoot arrow after arrow without making a noise and frightening the herd.

【譯】 白人の (white) 獵手 (hunters) は鐵砲を用ひま
す (use guns) が (but) 土人は弓 (the bow) の方を好んで
用ひます (prefer) といふのは (as) 土人は (they) 音を立
てずに (without making a noise) 又 (and) 水牛の群 (the
herd) を驚かしもせずに (and frightening より without へか
ゝる) 矢繼早に (arrow after arrow) 射ることが出来る
(can shoot) からです [前の as に此意含めり]。

【註】 white 「白人の」、「白色人種の」。即ち 歐米人をいふ。
prefer..... 「.....の方を採り用ふ」。

比較 { I like shiruko. (私はお汁粉が好き)
I like shiruko better than wine.
= I prefer shiruko to wine.
(私は酒よりも汁粉の方が好きです)。

されば本文の場合 prefer the bow [to guns] の [] 内の二字が略されて
あるなり。

練習:—60. 下文を英譯せよ。
日本人は生命よりも名譽を重んず。

arrow after arrow 「矢の後に矢」とは「あとからあとから矢を=矢繼
早」の意なり。

prê-fêr' (プリフェー) 『撰ぶ』『好む』。 noise (ノイズ) 『音』『聲』。 [名]
[動] herd (ハード) 『獸群』。 [名]
bōw (ボウ) 『弓』。 [名]

類例:—Day after day 「毎日、々々」。 Mile after mile 「一哩行つては
又一哩」。

make a noise 「音を立てる」、「騒ぐ」。

frightening fright 「驚懼[名]」。 frighten 「驚かす[他動]」。 frighten-
ing 「驚かすこと[動詞的中性名詞]」。動詞の語尾に ing を附して名詞の作
用をなすものなり。前の without へ係ること making と等し。

So skillful are the Indians, that their arrows very often pierce the bodies of large buffaloes and kill them at once.

【譯】 土人 (the Indians) は、なかなか (So) 熟練した
ものであります (skillful are) から (that) 土人の[放つ]
矢が (their arrows) 大きな水牛 (large buffaloes) の身體
(the bodies) へ衝き徹り (pierce) まして (and) 即坐に
(at once) 水牛を (them) 殺してしまふ (kill) ことは[珍ら
しい事ではなく] 往々 (very often) あることです。

【註】 So skillful..... は普通の順序に書けば The Indians are so skill-
ful, that..... であるが斯く So skillful を前へ出したのは skillful (熟練) の
意味を強めんが爲めである。尙、skillful は米國の普通の綴りにして、
skilful 英國の通り綴なり。

So-that..... は「—の結果.....」と譯すべき場合あり。

練習:—61. 下文を英譯せよ。
彼は勉強の結果病氣になつた。

the bodies bodies=body の複數、身體といふ字なれども露骨なる語な
れば會話などにて相手の身登りついで話さんとする時には須く避くべきで
ある、こゝは動物の身體なり、且つ、第三者を叙する場合なれば差支なし。
参考:—Take good care of yourself. (お身體御大切になさい)。

skillful (スキルフル) 『熟練せる』。 pierce (ピアース) 『貫く』。 [動]
[形]

注意 buffalo を複数にするには *es* を加ふ。 *volcanoes, potatoes; pianos* など語尾が *o* にて終り其前に子韻ある字は多く然り。

In "stalking," as it is called, a horse is not needed. The hunter creeps carefully along until he is near enough to shoot; or, if an Indian, covers himself with a wolf-skin or a deer-skin and goes among the buffaloes without being noticed. With a spear or a bow he can then kill a number of the animals.

【譯】 又所謂 (as it is called) 『忍び獵』 ("stalking") にあつては (In) 馬は一匹も (a horse) 要りません (is not needed) 獵人が (The hunter) もう此處まで來れば鐵砲を放つて宜しいといふ所まで (until he is near enough to shoot) よく氣を付けて (carefully) 忍んで行くのであります (creeps along) 又 (or) 若し [獵人が] 土人なれば (if an Indian) 狼の皮 (a wolf-skin) とか (or) 鹿の皮 (a deer-skin) とかいふもので (with) 身を包み (covers himself) さうして (and) 水牛の群の中に (among the buffaloes) 入り込むのです (goes [前の among] と合して) [斯ういふ風にすれば水牛に] 感附かれなないので (without being noticed)。水牛の群中に入り込むだところで (then) 土人は (he)

stalking (ストーキング) 『忍び寄る』 [名]

creep (クリープ) 『ソロソロ進む』 [動]

cover (カヴァーズ) 『覆ふ』 [動]

careful-ly (ケアフルリ) 『注意深く』 『氣を配りて』 [副]

deer-skin (デアースキン) 『鹿の皮』 [名]

noticed (ノチイスト) 『氣付く』 『知こ』 [動] notice の過去分詞、前の being に合して passive を形成す。

spear (スピーア) 『槍』 [名]

槍 (a spear) とか (or) 弓 (a bow) などでもつて (with) 幾頭なり (a number of) 水牛 (the animals) を殺すことが出來ます (can kill)。

【註】 stalking 獵人の身の隠し忍び足にて獲んとするものに充分近づき斯くして射殺す獵の方法なり。尙、stalking-horse と云ひて、生きたる馬、又は馬の姿を造り、其蔭に獵人隠れて、獲物に近づく方法もあり。

along は onward の意にして進行の動詞と伴ふ、creeps along となりて go along; come along などの如く運動の動詞の附帶物ともいふべきもの、更めて邦語に譯せずともよし。

he is near [the animals] enough to shoot として見れば獸に近寄る程度を enough to.....にて表はすものなることを知る。

練習:—62. 下文を英譯せよ。
お父様は僕を洋行させる程金持でない。

If an Indian = If the hunter is an Indian 「若し獵手が土人ならば」 covers himself cover は他動詞なれば自分の事を云ふ際には目的として himself なるべからず。

covers—with..... 「.....で——を蔽ふ」

例:—The ground is covered with snow. (地面が雪で蔽はれてゐる)。

包まる、考にて in を用ふることあり。

例:—He covered his face in his hands. (彼は両手で顔を隠した)。

among は混じる 考なり。

例:—The detective went among the mob and caught the leader. (刑事巡査は暴徒の群に入り込むで首領を捕へた)。

without being noticed = and yet he is not noticed by the buffaloes 此の如く and にて聯結する代りに participle を用ふることを得。

例:—He invested a large sum of money in constructing an aeroplane, but did not succeed. without succeeding.

“Surrounding,” driving them over a cliff, and chasing them in the snow, are other ways practiced by hunters.

【譯】〔所謂〕『圍み獵』(“Surrounding”)や、絶壁から(over a cliff)野牛を(them)追ひ落すこと(driving 前の over と合して)や、又(and)雪中に(in the snow)野牛を(them)追廻して獵する(chasing)などが前述以外に(other)獵人のする(practiced by hunters)方法(ways)なのであります。

【註】 Surrounding 引用點 “ ” の附しあるは獵人間の通用語なるを示さんがためなれば譯文には特に「所謂」の文字を加へたり。

drive—over……「……から——を追ひ落す」。

類例：—He fell $\left\{ \begin{array}{l} \text{down the stairs} \\ \text{over a precipice} \\ \text{from a tree} \end{array} \right\}$ and was killed on the spot.

(彼は $\left\{ \begin{array}{l} \text{階子段から} \\ \text{崖から} \\ \text{樹から} \end{array} \right\}$ 墜ちて即死した)。

練習：—63. 下文を英譯せよ。
彼は船から落ちて溺死した。

other ways…… 譯文には他の方法とせず其他として文のはじめに置きてよし。又 other ways [that are] practiced by hunters と補足して見よ。本文を下の如き書き直して見ても全意なり。

The other ways practiced by hunters are “surrounding,” driving them over a cliff, and chasing them in the snow.

sûr-rôund'ing (サ〜ラウンディング) 『包圍すること』[名] surround の gerund.

clif/ (クラフ) 『崖』。[名]

drive (ドライヴ) 『逐フ』。[動]

châse (チェイス) 『狩リタテル』。[動]

prăe'ticed (アラクティッド) 『行フ』。[動] practice の過去分詞、前の are に合し passive を形成す。

Some three or four days after we joined the Indians, we rode one morning to the top of a hill and saw before us a large herd of buffaloes feeding.

【譯】 私達が土人の仲間に加はつて (we joined the Indians) 三四日許り (Some three or four days) 經つてから (after) 或朝 (one morning) 一同は (we) とある小山の頂上へ (to the top of a hill) 馬を乗り上げしまた (rode) すると (and) 我々の前面に (before us) 大きな群を成した (a large herd of) 野牛が (buffaloes) 草を食つて居る (feeding) のが見えました (saw)。

【註】 Some three or four days Some は「凡そ」、「……計り」など大略をいふのである。after は later にてもよし。

to the top of a hill. to は up to にて「……迄」と云ふ意従つて運動の間に伴ふ、固定せる物の位置には at を用ふべし。

例：—There is a shrine at the top of the hill. (小山の頂上に神社あり)。

feeding feed は禽獸の食餌をとるに用ふ、茲にては草を食つて居る意。

尙、此 feeding は前の saw と關聯せる用法なるを注意すべし。

例：—I saw him walking in the garden. (庭を歩いて居るところを見た)。

The Indians thought it best to try “running” them.

【譯】 土人等 (The Indians) は『走り獵』(“running”) を水牛に (them) 試みるのが (to try) 最良の策で (best) あると思ひました (thought)。

【註】 thought it best to…… の it は to try……を受けたもので全文

feed'ing (フィーディング) 『食事して居る』。[動] feed の現在分詞、前の buffaloes を形容す。

をバラフレイズすれば The Indians thought that it was the best way to try "running" with them. となる。

I think it advisable to do so. (さうした方が上分別と思ふ)。

Manage the matter as you think fit. (適宜にお計らひ下さい)。

A gentle wind was blowing toward us, and the buffaloes did not notice our coming. We started out at full speed, and a few minutes later one of the Indians shot a buffalo with an arrow.

【譯】 穏やかな風 (A gentle wind) が我々の真正面に (toward us) 吹いておりました (was blowing) ので (and) 野牛は我々が近づいて行つた (our coming) のに気が付きませんでした (did not notice) 一同 (we) は全速力で (at full speed) 出懸けました (started out) そして二三分も経ちますと (a few minutes later) 一人の土人が (one of the Indians) 矢でもつて (with an arrow) 一頭の野牛 (a buffalo) を射止めました (shot)。

【註】 toward は單に方向を示し、目的地を明かに示すには to を用ふ。

比 Come (up) to me. (僕のトコへ来い)。

較 Come toward me. (僕の方へ来い)。

our coming 「我々が行くこと」なり、かく go といふべき場合に come を用ふるは、先方の人と行先で一所になる場合なり。

例:—I will come to see you this evening. (今晚參上仕るべく候)。

at full speed 「全速力で」。

blow'ing (ブローイング) 『吹く』。

(out と合して)』。〔動〕

〔動〕 blow の現在分詞

shōt (ショット) 『射た』。〔動〕 shoot

speed (スピード) 『速力』。〔名〕

の過去

start'ed (スターテッド) 『駆出した

類例:—The horse was running at full gallop. (馬は全速力で走つて居ました)。

later 副詞 late の比較級なり。又 later on として同じく「經過」の意に用ふることあり。

例:—The bell rang, and a few minutes later he presented himself on the platform. (鈴が鳴つて二三分も経つと彼は演壇に現はれた)。

What followed would be difficult to describe.

【譯】 次いで起つた (followed) 事柄 (what) は何と申していかかりません (would be difficult to describe)。

【註】 what.....describe. を下の如く paraphrase して見よ。

To describe that scene which (=what) followed would be difficult, though I try to.

= It would be difficult to describe that which happened after that, though I try to.

= 叙述しようとしても困難だらう。

注意 此文は文法上嚴格に論ずれば what followed の次に it を脱して居るなり。

The sound of thousands of hoofs on the hard ground, the bellowing of the buffaloes, and the yells of the Indians were deafening.

【譯】 硬い大地 (the hard ground) を踏み鳴らす (on に此心持あり) 幾千といふ (thousand of) 蹄 (hoofs) の響き (the sound) 野牛の吼り聲 (the bellowing) さては (and) 土人

followed (フォロウド) 『續いた』 『次で

〔名〕

起つた』。〔動〕 follow の過去。

yēl's (エールズ) 『叫聲』。〔名〕複

sound (サウンド) 『響』。〔名〕

deaf'en-ing (デフニング) 『聾せしむ

hoofs (フーフス) 『蹄』。〔名〕複

るような』。〔動〕 deafen の現在分

bēl'ow-ing (ベロウイング) 『咆哮』。

詞にして茲にては形容詞

共の叫聲 (the yells) など耳も聾せん計りてありました (were deafening)。

【註】 thousands of=何千と云ふ程多くの=very many. 非常に夥多なる数を言ひ表はすに tens of thousands of.....(何萬と云ふ.....) on.....ground 「.....の地面へ當って」。

練習:—64. 下文を英譯せよ。
何百人と云ふ生徒が一時に萬歳を叫んだ。

were deafening の主格は sound, bellowing, yells の三つなり。
deafening=stunning=very noisy.

Clouds of dust filled our eyes and made it difficult to breathe.

【譯】 砂塵立つて雲のやう (Clouds of dust) 一同の眼 (our eyes) は砂一杯 (filled) て物も見えず、呼吸は (to breathe) 困難になりました (made it difficult)。

【註】 filled 「満たした」。
made.....to breathe. 砂塵が人の呼吸を困難にさせた、即ち「砂塵の爲に呼吸困難となりし」なり。かく無生物が働きをなす如く言ひ表はす方法英語には頗る多し。

例:—Diligence made him rich=As he was diligent, he became rich.
(勤勉が彼を富ませり=彼は勤勉だから金持になつたのだ)。

The horses enjoy the hunt very much. They are so quick in their movements that they can keep out of the way of such buffaloes as are made furious by

clouds (クラウツ) 『雲』。 [名] 複
dust (ダスト) 『塵埃』。 [名]
enjoy' (エンジョイ) 『悦ぶ』。 [動]
movements (ムーヴメンツ) 『動作』。

[名] 複
furious (フューリアス) 『狂暴の』
『荒れ廻る』。 [形]

wounds. If it had not been for this, some of us could not have escaped from the savage herd.

【譯】 馬は (The horses) 大層 (very much) 獵り (the hunt) が好きです (enjoy) 其動作は (in their movements) まことに敏捷で (so quick) ありますから、手を負ふて (by wounds) 暴れ狂つてゐる (are made furious) ところの野牛 (such buffaloes as) をうまく避けて居る (keep out of the way) ことが出来ます (can) 若し馬が斯ういふ風に敏捷に避けなかつたならば (If it had not been for this) 獵手の中には (some of us) [定めし] 暴れ狂ふ水牛 (the savage herd) [の危害] を免れられなかつた (could not.....from) ものも [前の some of us の中に此意あり] 出来たのでしたらう [could not.....from の構文中に此意あり]。

【註】 in their movements 「馬の動作が」なり。
類例:—She is graceful in her deportment (彼女は立居が上品だ)。
keep out of the way of..... 「.....を避けて居る」 keep は始終避けて居る意味あり。

such.....as——=those.....which—— 「——であるところの.....」。
注意 此處三行程の動詞が現在形 (enjoy, are; can) なるは馬が狩を好むのは常に好むので、其時に限つたわけでない故平素の習性を示す場合の例によりて現在形を用ゐしなり。

If it had not been for this=But for this. 「若し此事(=馬が野牛を避る事)なかりせば」との條件法なり。
could not have escaped from..... 「.....を免れ得なかつたでせう」が幸ひ馬が敏捷に働いたので助かつたとなり。

類例:—But for your warning, I could not have escaped the danger. (あなた
wounds (ウOUNDS. ラーンツ) 『負傷』。 [名] 複
savage (サヴァジ) 『野生の』。 [名] 複

の御警告がなつかたら私は到底其危険を免れられなかつたのでした)=As you gave me the warning, I escaped the danger = Owing to your warning I escaped the danger.

The whole hunt did not last long, but while it was going on, my feelings were like those of one in a dream.

【譯】 獵りの時間 (The whole hunt) は長くはかゝらなかつた (did not last long) が (but) 獵をして居る間は (while it was going on) 私の感覺 (my feelings) は丁度 (like) 夢心地 (those.....in a dream) てありました (were)。

【註】 The whole hunt 獵が始まつてから終了に到るまでをいふ。 last (動詞)「續く」。 going on 「最中」、「今方に盛んなり」。 those of one in a dream 「夢を見て居る人の感覺」 those = feelings. one = a man.

参考:—to {dream / have} a dream (夢を見る)。

When all was over, fifteen buffaloes lay dead upon the plain, one of which, the Indians said, was mine.

【譯】 すつかり事が済んで見ると (When all was over) 平原には (upon the plain) 十五頭の野牛 (fifteen buffaloes) が斃れて居りました (lay dead) 其の中の一頭 (one of which) はあなたのです (was mine) と土人共が私に申しました (the Indians said)。

【註】 all was over 「萬端終了」。 例:—The examination is over. (試験は済んだ)。 lay は lie (横ハル) の過去。 were に代って存在を示す。

lay dead = 斃死して居た。 dead は lay の complement なり。 one of which = one of fifteen buffaloes. 十五頭の中の一頭、土人等が云ひたる語を直接法にして言ひ表はせば、“One of them is yours” となる、されば譯文に“mine” 私のを (あなた) のです (was mine) の如く譯したるは直接法を其儘用ひしに由る。邦語に譯する時は此の如く、直接法に改める方解し易くなる。

Not until the next day did I recover from the noise and confusion of the hunt. Then I was able to think of all that had happened, and to enjoy the feeling that I had shot my first buffalo.

【譯】 翌日迄といふものは (until the next day) 私は獵の騒擾 (the noise.....hunt) のため氣も落ち着きませんでした (Not did I recover from) て翌日になり漸く落付いたところで (Then) 私は是迄のいろいろな事 (all.....happened) など思ひ浮べる (think of) ことが出来 (was able to) 又 (and) 自分が始めて野牛を (my first buffalo) 射止めたと思つて嬉しくも感 (to enjoy the feeling that) ぜられました [前の was able にかゝる]。

【註】 Not until.....recover from = I did not recover from until the next day. not—until.....は、又、「.....して始めて」、「.....になつて漸く」など譯すもよし。

例:—I did not know that my watch was wrong until I got to the station = It was only after I got to the station that I knew my watch was wrong. (私はステーションへ着いて初めて自分の時計が間違つてゐるのが分つた)。

recover from..... 「.....から回復する」、「.....がなをる」。 rē-cōv'ēr (リカヴァ) 『回復する』。 [動] hāp'pen-ed (ハプン) 『起つた』。 [動] happen の過去。 cōn-fu'zion (コンフュージョン) 『混亂』。 [名] fēeling (フィーリング) 『感情』。 [名]

例:—He has recovered from a long illness. (彼は長病らひが癒つた)。

練習:—65. 下の文は誤なりや。
Have you got well?—Yes, my illness has recovered.

think of.....「.....を思ひ出す」 think of は又(思ひ付く)意に用ひらる。

例:—I thought of a good plan. (僕はうまい趣向が浮んだ)。

that had happened 前に起つた事柄なれば had happened とせざるべからず、後の I had shot も亦同じ理なり。

例:—When I called on him, he had gone to school. (彼を訪ねた時にはもう=學校へ行つて居なかつた)。

練習:—66. 下の文に誤あらば正せ。
I broke the dish which my grandfather received from the Eleventh Shogun.

to enjoy the feeling that.....「.....と思つて愉快に感ずる」。

shot my first buffalo 「私が始めて野牛を射つた」なり

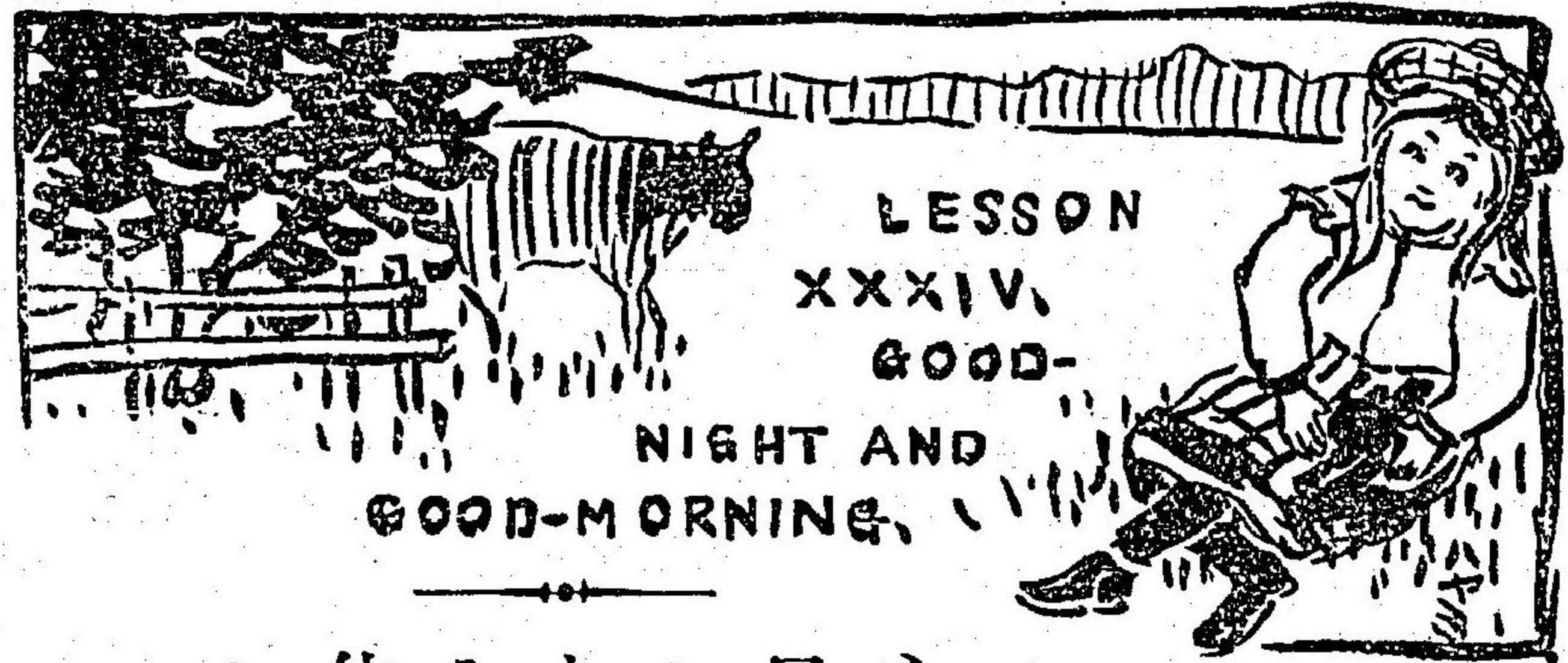
例:—This is my first visit to Nikkō=This is the first time that I visited Nikko. (余が日光に來たのはこれが初めてです)。

格 言 集

There is no catching trouts with dry breeches.

股引を濡さないで鱒は捕まらない。

(濡手で粟とはかなか々行かない)。



お休みとお早う

A fair little girl sat under a tree,
Sewing as long as her eyes could see;
Then smoothed her work and folded it right,
And said,—“ Dear work, good-night, good-night !”

【譯】 可愛い嬢さん (A fair little girl) ^{こかげ}樹蔭に坐り (sat under a tree),

お仕事してます (sewing) 日の暮れるまで (as.....see) それから (Then) 仕事の皺を伸し、^{きちん}整然と畳ん (folded it right) て言ひますに。

「あゝ好い兒だねお仕事さん (Dear work) お休みなさい (good-night) お休みよ」。

LESSON HXIV.

fāir (ふゑいア) 『美しい』。〔形〕
sew'ing (sōing. そいんク) 『縫物をする』。〔動 sew の現在分詞。sat の補助詞〕

smōothed' (スムーズド) 『熨した』『皺を延した』。〔動 smooth の過去〕
work (wūrk うアーク) 『仕事』。〔名〕
fōld'ēd (ふォルデッド) 『畳んだ』。〔動 fold の過去〕

【註】 as long as her eyes could see 「眼の見える限りは」。針の眼の通る限りとの意。 as long as..... 「.....間はいつ迄も」。

例：—You may stay with us as long as you please.

(いつ迄でも御逗留下さい)。

smooth 「平滑にする」、「皺を延ばす」。

練習：—67.
上文を散文に改めよ。

Dear work “お仕事”を生ける人の如く見倣して Dear.....など云ふなり。

Such a number of crows came over her head,
Crying “Caw, caw!” on their way to bed,
She said, as she watched their curious flight,
“Little black things, good-night, good-night!”

【譯】 群れなす鴉が (Such a.....crows) 頭の上を (over her head) 飛んで来ました、

コ—コ—コ—と啼きながら (Crying)、今しも埤にかへらうと (on their way to bed)、

珍らしそうに鴉の飛ぶのを (their curious flight) 眺めて (as she watched) 少女は申します。

「可愛い黒い鴉さん (Little black things) お休みなさい、お休みよ」。

【註】 such a number of..... = a large number of..... = many.....

Caw 邦語にて鴉の鳴聲をカアカアといふを、英語にては caw, caw コ—々々といふ。

on their way to..... 「.....に行く途中で」

例：—I met Mr. Kawashima on my way to school this morning. (今朝 学校へ行く途中川島君に會つた)。

caw (カー) 鴉の啼聲。〔名〕
watched (ワッチド)。

eū'ri-ous (キューリアス) 『人の興を惹くような』〔形〕

注意 go to bed ; go to school 等の如く一定の形をなすものは to の次に來る名詞に冠詞を附する必要なきも普通の場合に在ては一般の規則に従ふべし。

例：—I had my purse picked on my way to the Imperial Theatre. (私は帝國劇場へ行く途中で掏摸に財布を拘られた)。

bed = roost 「埤 (ネグラ)」。

curious flight 鴉の飛び方が奇妙なるに非ず、鴉の飛ぶのが娘の興味を惹起すなり。普通の文ならば

—she watched their flight with curiosity とすべきなれど、詩にありては往々斯の如き用ひ方をなし、脚韻をふむに便ず。

The horses neighed, and the oxen lowed,
The sheep's “Bleat, bleat!” came over the road ;
All seeming to say, with a quiet delight,
“Good little girl, good-night, good-night !”

【譯】 馬は嘶き (neighed) 牡牛は啼く (the oxen lowed) 羊の啼聲ビービーと、道を距てゝ聞え來る (came over the road)

なべてのものは (All) 喜んで (with a quiet delight) 云つてるやうです (seeming to say)。

「嬢ちやまや、お休みなさい、お休みよ」。

【註】 Came over the road 「道を越へて (=道路の向ふから) 來た」。

neighed (näid ねイド) 『嘶いた』〔動
neigh の過去〕

ox'en (オクセン) 『牡牛』〔名 ox
の複〕

lowed (ロウド) 『啼いた(牛の啼聲に

云ふ)』〔動 low の過去〕

bleat (ブレート) 『羊の啼聲』〔名〕

qui'et' (クワイエット) 『平穩なる』
〔形〕

dē-lig'ht' (ディライト) 『喜び』〔名〕

例:—The sweet sound of the violin came over the fence. (ヴァイオリンの床しき音が塀越しに聞えて来た)。

a quiet delight 「平和な喜び」。

練習:—68. 上文を散文に改めよ。

She did not say to the sun, " Good-night !"
Though she saw him there like a ball of light ;
For she knew he had God's time to keep
All over the world, and never could sleep.

【譯】 ^{フントウ}太陽様にはお休みと、少女は遂に申しません、
^{ヒダマ}光球 (a ball of light) のように見えても、

^ヒ世界の邊陲迄隈もなく (All over the world)

神の御時を掌りて (he had God's time to keep)

眠られぬ身ぞと知る故に (For she knew)。

【註】 there 「ソラ其處に現在」の意なり。
God's time to keep = to keep God's time.

類例:—Does this watch keep good time? (此時計はよく合ひますか)。

All over the world 「世界中に」。

The tall, pink fox-glove bowed his head ;
The violets curtsied, and went to bed ;
And good little Lucy tied up her hair,
And said, on her knees, her favorite prayer.

ball (ボール) 『球』。〔名〕

pink (ピンク) 『紅の』。〔形〕

fox'-glove (フオクsgラヴ) 『デキタリス』。〔名〕

bowed (bowd ぼウド) 『さげた』。〔動 bow の過去〕

vi'-lets (ヴァイオレット) 『葦』。〔名〕

複

curtsied (カ〜ドスイド) 『お辭義をした』。〔動 curtsy の過去〕

knees (ニーズ) 『膝』。〔名、複〕

fa'-vor-ite (ファヴァリト) 『好める』。〔形〕

【譯】 桃色の (pink) デキタリス、お辭義をすれば、すみれ草も丁寧に禮をし (curtsied) て眠ります (went to bed)

^{カンカン}頭毛結つてルッスイさん、

お膝をついて (on her knees),

申します、一番好きな御祈禱を (her favorite prayer)。

【註】 curtsied courtesy と緩るもよし、腰を少しく曲げ、膝を屈めて禮をすること。十七世紀頃婦人の間に行れたり。

tied up her hair 「毛髪を結び上げる」。

on her knees 「膝まづいて」。

said.....prayer 「祈を上げる」。「祈をする」を英語にて say を用ふ。

And, while on her pillow she softly lay,
She knew nothing more till again it was day ;
And all things said to the beautiful sun,
" Good-morning, good-morning ; our work is begun !"

【譯】 お頭を枕にしてからは、^ツ白河夜舟に寝入りませす (She knew nothing more)。

あしたの朝になる迄は (till again it was day)。

うららかに昇る日に (to the beautiful sun)

なべてのものゝ申すには (All things said) 「お早うお早うございます、

どうれ仕事にかゝりませしよ (our work is begun)」と。

【註】 while on her.....lay 「枕をして静かに寝た間は」。

She knew nothing more 「あとは何も知らぬ」、白河夜舟なり。

day = 夜明け。

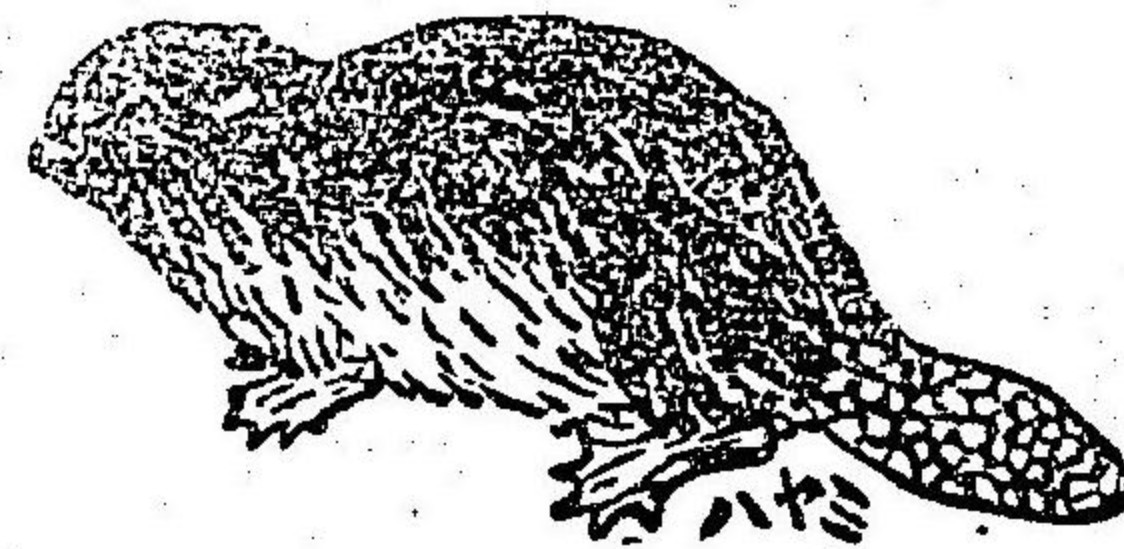
prayer (プレヤ) 『祈禱』。〔名〕

pillow (ピロウ) 『枕』。〔名〕

softly (ソフトリ) 『静かに』。〔副〕

LESSON XXXV.

THE BEAVER.



海狸

There are few animals that can teach us more useful lessons than the beaver.

【譯】海狸 (the beaver) ほど (more than) 有益な教訓 (useful lessons) を人に與へることの出来る (can teach us) 動物は少ない (There are few animals).

【註】 few animals..... 「.....する動物は少し」

- 比較 { (い) A few old country-men now dress their hair in "chommagé."
 (今でも田舎へ行けばテヨン鬻に結つた爺は少しは居る)。
 (ろ) There are few Japanese who can not write or read.
 (読み書きの出来ぬ日本人は少ない)。

more.....than the beaver. 「海狸にました有益な教訓を」少ナイといふ打消の意味の語と合するが故に畢竟「海狸ほど有益な教訓を.....するのは少ない」と譯す方優れり。

練習:—69. 下の文を Few を用ゐて表はせ。
Not many men are so ignorant as he.

They are very timid animals. If we went to

LESSON XXXV.
use'ful (ゆーすful) 『有益なる』

〔形〕
bēa'vēr (びーヴア) 『海狸』〔名〕
tim'id (ていみど) 『臆病なる』〔形〕

places where they are common, it would be very difficult to find them and see what they do.

【譯】海狸 (They) は非常に臆病な動物 (timid animals) であります、ですから假令 (If) 海狸のザラに居る (are common) 處へ参りましたところで〔前の if にかゝる〕海狸を見付け出し (find) て其の所業 (what they do) を見届ける (see) なんてことは (it-to.....) 極めて難かしいとてありませう (would be very difficult)。

【註】 If....., it would be difficult to— 「.....するとしても」と假定して「—することは六ヶしからう」と想像する構文なり。例へば、内地で食ひ詰めた懶惰漢が米國へても行って見ようか」と相談に来たのに答へて (假令亞米利加へ行ったにもせよ、働かないで金儲は六ヶしからうよ) = If you went to America, it would be difficult to make a fortune without labour.

common = found in plenty 「矢鱈に居て珍らしくない」

The beaver is between two and three feet long, and one foot high, and is covered with brown hair. Its eyes are very small and far apart. Its ears also are small, and its nose blunt.

【譯】海狸は長さ (long) 二尺乃至三尺 (between..... feet) 高さ一尺 (one foot high) あり (is) そして (and) 全身に褐色の毛が生へて居ります (is covered with brown hair)。海狸の目 (Its eyes) は非常に小さく、目と目との

bē-twēn' (びとらきん) 『間に』	〔前〕	ēars (いーアズ) 『耳』〔名、複〕
brōwn (ブラウン) 『褐色の』〔形〕		nōse (のウズ) 『鼻』〔名〕
ā-pārt' (アパート) 『離れて』〔副〕		blünt (ブジント) 『尖がらない』
		〔形〕

間が大層離れて (far apart) をります。耳も亦 (Its ears also) 小さく、鼻は獅子鼻 (blunt) であります。

【註】 between two and three feet = between two [feet] and three feet 「二尺乃至三尺」。

foot 「尺」。複数は feet.

is covered with..... 「.....で蔽はれて居る」。

far apart 「[はるか]離れて」。

blunt 「鈍き」「尖らざる」。要するに a blunt nose とは低い先きの尖つて居らぬ鼻をいふのであるから俗に云ふ「獅子鼻」もこれに属せん乎。

It has very strong, sharp teeth, and a long tail shaped somewhat like the blade of an oar. This tail has no hair or fur on it, but is covered with little scales like those of a fish.

【譯】 海狸 (It) には非常に丈夫な鋭い歯 (strong, sharp teeth) と (and) 櫂の槳身 (the blade of an oar) 見たいな (shaped somewhat like) 長い尾 (a long tail) とがあります (has)、此尾には毛がなく (but) 魚のやうな小さい鱗 (little.....fish) が一面にある (is covered with)。

【註】 teeth 齒 (複数形) tooth 全 (単数形) shaped somewhat like..... 「稍.....の形をなしたる」。前へ which is を補ひて見よ。somewhat は「稍々」「幾分」。

blade 「櫂の双 (扁平部)」。

hair or fur hair は普通毛髪などに用ひ一般に用ふるところなるも fur

shārp (シャープ) 「鋭き」。

shāped (シェーブト) 「.....の形をし

たる」。

sōme'what (サムフオット) 「稍」。

blade (ブレイド) 「双 (櫂の扁平部)」。

ōar (オア) 「櫂」。

scāl (スケイルズ) 「鱗」。

は主として「長からぬ密垂せる獸毛」に用ふ。
like those of a fish = like the scales of a fish.

The hind feet of the beaver have a thin skin between the toes. This shows that it is fitted for swimming.

【譯】 海狸の後脚 (The hind feet) には足趾の間に (between the toes) 薄皮 (a thin skin) があります、これは海狸 (it) が游泳 (swimming) に適して居る (is fitted for) といふことの證據です (shows that.....)。

【註】 The hind feet 「後脚 (複数)」。

参考:—Fore feet 「前脚 (複数)」。

toes 「足の指」。toe の複数。

This shows that..... 「これが.....なることを示す」=「これに由て見れば.....なることが分る」。

練習:—70. 下文を英譯せよ。
彼は眼が鋭い。それで探偵だと云ふことが分る。

During the summer these animals live in holes near the banks of rivers. They are very social animals. They never live alone. They usually go in parties, and build a little "beaver town."

thin (ザイン) 「薄き」。

tōes (トウズ) 「足の指」。

swim'ming (スライミング) 「游泳」。

「名」

dūring (ドゥーリング) 「間」。

bānk (バンク) 「堤」。

sō'ciāl (ソシアル) 「社交的の」。

us'u-al-ly (ウージャリ) 「常に」。

「副」

pār'ties (パーティーズ) 「組隊」。

party の複

tōwn (タウン) 「都市」。

【譯】 夏の間 (During the summer) 此動物は河岸 (the banks of rivers) に近く穴居してをります (live in holes)。海狸 (They) は頗る社交的な (social) 動物でありまして單獨で (alone) 住む (live) ことは決してありません (never) 大抵 (usually) 隊を成して (in parties) 行く [慣ひて] (go) 小さな「海狸町 (“beaver town”)」を造ります (build)。

【註】 During the summer 「夏の間」。during は普通或る事柄の続く期間をいふ。されど此場合にては *Throughout*..... 「.....中ぐーと」の意。go 單に「行く」とのみにては意を盡さず。usually 無くとも「平素」「日頃」の心持を go の中に含めり。
例:—He goes richly dressed. (彼は立派な服装をして歩く [平生])
in parties 「三々伍々組を成して」

They have some means of making known their wants to each other. They know they will be safer in water than on land, so they try to find a pond where they can build their town. If they can not do this, they will choose a running stream with some trees on the banks.

【譯】 海狸の仲間 (They) にはお互に (to each other) 必要 (wants) を知らせ (making known) 合ふ方法 (means) があります、海狸は又陸上 (on land) よりも水中 (in water) の方が安全 (safer) であるといふことを知つて居りますから (so) 海狸町を作ることの出来るやうな池を

mēans (みんず) 『手段』『方法』。 [名]
wants (うおんづ) 『要用』。 [名、複]
sāf'ēr (さいふあ) 『一層安全なる』。 [形 safe の比較級]
chōōze (ちゅうず) 『撰ぶ』。 [動]
strēam (すどリーム) 『水流』。 [名]

見付け出さうといたします、若し恰好の池が見付からないならば (If.....this) 海狸 (they) は岸に立樹のある (with some trees on the banks) 小川 (a running stream) を撰び (choose) ます (will)。

【註】 making known their wants to each other = informing each other of their wants = telling each other their wants.
wants 「不自由」「缺乏」の意から轉じて「必需品」
to each other 「お互に」

練習:—71. 下文を英譯せよ。
兄弟は互に相愛すべし。

can not do this = can not find a pond.

The first thing they do, is to make a dam, right across the stream. They have neither saws nor hatchets with which to cut the trees; but they use their sharp, strong teeth, and gnaw and gnaw away, until they bring down tree after tree.

【譯】 差當り海狸のすること (The first thing they do) は流れ (the stream) を横斷して (right across) 堰 (a dam) を作ることであります (is to make)、海狸は木を伐るのに (with which to cut the trees) 鋸もなければ (have neither saws) 斧もありません (nor have hatchets)

dām (だム) 『堰(せき)』。 [名]
ā-crōss' (アクロス) 『横切りて』。 [前]
neihēr (又は neihēr ないザ又にーザ) 『どちらも.....せぬ』。 [接]
saws (ソーズ) 『鋸』。 [名、複]
hāch'ets (はちェツ) 『手斧』。 [名、複]
gnaw (のー) 『咬む』。 [動]

て (but) 鋭い強い歯を用ひます、そして (and) 齧り齧りして行つて (gnaw and gnaw away) 遂に (until) 一本づゝ木を (tree after tree) 倒す (bring dawn) のてあります。

【註】 The first thing they do 「海狸のなす最初の事=差詰 (差當り) 海狸のなす事」。

neither—nor..... 双方を打消す時に用ふ。

例:—He neither smokes nor drinks (彼は煙草も吸はず酒も飲まず)。

注意 同じく双方を打消す時にても not を前に用ふれば or を次に描く。

例:—He does not speak English or German.

with which.....trees の which は saws と hatchets とを受ける、次の例に由り with which の用ひられし所以を學ぶべし。

I want a pencil with which to write.

(僕は鉛筆が欲しい、その鉛筆 (which で (with) 書く [鉛筆が欲しい])。

此 which は with なる前置詞の目的格なる故省くを得、之を省けば with だけ残る、その with を文の末尾へ回はすなり。

gnaw and gnaw away 「ドシタ々噛み続ける」。此 away は continuously (續けて) の意として、(ドシタ々) などに當るべし。

tree after tree 一本伐り倒しては又一本と。

They know very well how to do this; otherwise the trees might fall and kill the little wood-cutters.

【譯】 海狸 (They) は此方法 (how to do this) を熟知つて居ります (know very well)、若し熟知つて居ないならば (otherwise) 木が倒れ (fall) て来て小さな樵夫さん (the little wood-cutters) を殺し (kill) てしまふかもしれませぬ。(might)

【註】 how to do this 「如何にして此れを爲すべきか=此をなす方法」。

oh'er-wise (おが'ウァイズ) 『然からずば』 [接]

例:—I will show you how to do that. (其の方法を教へて上げませう) otherwise 「然らざれば」。改めて、—if they did not know how to do this—とするも可なり。此假定に應じて might を用ひたるに注意。

the little wood-cutters the beavers を指す。

When they have gnawed nearly through the trunk, away they run to see if the tree is beginning to bend. If it is still straight, they set to work again; but the moment they hear it crack, off they run to keep out of danger.

【譯】 海狸は、樹の幹 (the trunk) を八九分通りも (nearly) 齧つてしまふ (have gnawed) と (When) 急いで其場を立退き (away they run) 木が曲り始めやしないか と見る (see it) のてす、若しも木 (it) が未だ (still) 直立して (straight) 居るならば海狸は再び仕事にかゝります (set to work)、が (but) 木のミシミシといふ音 (it crack) が聞えるが早いか (the moment they hear) 海狸は其場を去つて (off they run) 危険を避けます (keep out of danger)。

【註】 nearly 「殆ど」、「大抵」。

away they run 後の off they run と同じく「其場を去る」意であるが其語勢を強めんため away; off が前に出てしなり。

to see if..... 「.....なるか (否や) を見届ける」。

練習:—72. 下文を英譯せよ
時々叔母さんは私が勉強して居るかどうか見届けて来る。

set to work 「仕事にかゝる」。注意 此場合の work は名詞なり。

the moment..... = as soon as.....

trunk (ドランク) 『幹』 [名]	【形】
bend (ベンド) 『傾く』 [動]	crack (クラック) ホキ、バチなどの音を爲す。 [動]
straight (ストレイト) 『眞直ぐなる』	

例:—He ran away $\left\{ \begin{array}{l} \text{as soon as} \\ \text{the moment} \\ \text{directly} \end{array} \right\}$ he saw me. (彼は私を見るや否や逃げ出した)。

した)。

hear it crack = hear *the tree* crack. 此の筆法は See the dog run! (犬の走るのを見よ)と同じ。crack は木等の折れる音などをいふ。

keep out of danger = escape from danger.

When the tree is down, they gnaw all the branches off in the same way, and then cut the trunk into short pieces, and roll them down to the water's edge. Then they go to work at another tree, and still another, until they have all they want.

【譯】木がすつかり倒れた (is down) ならば (When) 海狸 (they) は前と同じ方法で (in the same way) 木の枝を残らず (all the branches) 齧り取つて (gnaw off) しまひます それから (and then) 幹を短い片々のものに (into short pieces) 切りこなし、其木片を汀 (the water's edge) までゴロ、ゴロと轉がしてまゐります (roll them down to) 今度はまた他の樹に (at another tree) 取りかゝります (go to work) が其れがすめば又他の樹 (still another) といふ風にして終ひに (until) 入用な丈けを (all they want) 取り揃へるのです (they have)。

【註】 cut—into..... 「—を切つて.....にする」。into は原形を失ひて.....のものとなす變化を表はす。

branch'es (ブランチエズ) 『枝』。〔名、複〕

roll (ロウル) 『轉ばす』。〔動〕

edge (エッジ) 『邊(へり)』『はし』。〔名〕

例:—They grind wheat into powder. (麥を粉に挽く)。

go to work = set to work 「仕事にかゝる」。

at another tree 「他の木に」 仕事にかゝる時に at を用ふこと多し。

例:—He worked away at the task and soon finished it.

(彼はドシタタ其仕事に取りかゝって直きにやってしまった)。

These logs of wood, kept down by mud and stones, make a dam, and this dam stops the water and causes it to rise around their houses and cover the openings, which are at the bottom, and helps to keep the beavers safe from danger.

【譯】こらいふ丸太 (These logs of wood) が泥や石で (by mud and stones) 抑へ付けられて (kept down) 堰となる (make a dam) ので此の堰のために水は防ぎ止められ、海狸の住居の周圍に (around their houses) 水 (it) が溜り (to rise) ましてその住居の下方に (at the bottom) ついてゐる入口 (the openings) を蔽ふ (cover) てしまひますから海狸は無事平穩 (safer from danger) に暮すことが出来るのです。

【註】 stones ^{イシコロ} 「石塊」「小石」「礫」等普通名詞なれば複類形となる、但し物質名詞としての場合は stone にして複数形とならず。

比較 { The boys are throwing stones. (子供が石を投げて居る)。
The Nihombashi is built of stone. (日本橋は石造だ)。

mud (マド) 『泥』。〔名〕

causes (コーゼズ) 『.....せしむ』。

〔動〕

logs (ログズ) 『丸太』。〔名、複〕

open-ings (オープニングズ) 『...』。

〔...〕

bottom (ボトム) 『底』。〔名〕

this dam stops the water 「此の堰が水を止める=此の堰の爲に水は堰き止められる」

this dam causes it to rise..... 「此の堰の爲に水 (it) 量が増す」

練習:—73. 下文を英譯せよ。
長雨で隅田川が増水した。

help to keep..... の主格は this dam なり、乃はち this dam helps to keep..... 「此の堰が海狸を安全にすることを助く(=安全ならしむるに與つて力あり)」とすれば dam を主格として直譯せしもの、反對に海狸を主格として言ひ表はさんとせば即ち譯文の如し。

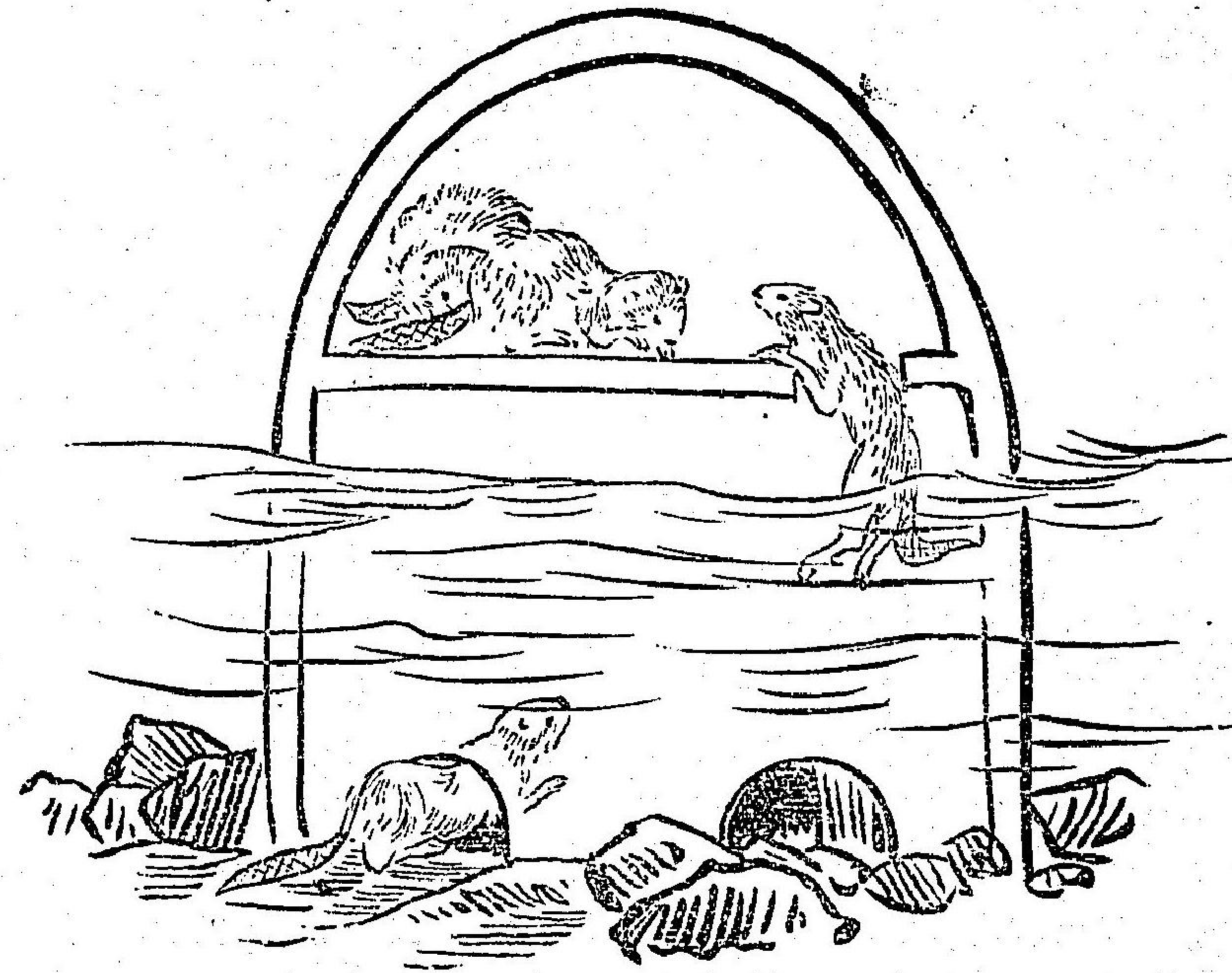
Then the houses are built of mud, stones, sticks, and small branches twined in and out to keep them fast. These houses are several feet high and are very thick.

【譯】それから (Then) 海狸の家は泥土、石塊、棒切 (sticks) とそれから、そんな材料をシツカリ纏めて置くやうにと (to keep them fast) 搦め付けた (twined in and out) 小枝などで作られます (are built of)、此家の高さは五六尺 (several feet) で周圍の厚さは大したもの (very thick) です (are)。

【註】 are built of..... 「.....て建てられる」。此 of は stones, sticks, branches などへもかゝる。

twined in and out 「内外へからみつけられる」前へ which are と補足して見よ。

sticks (スティクス) 『棒』。〔名、複〕 fast (ファースト) 『しつかり』。〔形〕
twined (ドワイインド) 『編みたる』。 thick (サイック) 『厚き』。〔形〕
【動 twine の過去分詞】



to keep them fast them=the mud, stones, sticks, fast=シツカリ。
∴ to keep them fast は「如上の材料を頭丈に抑へておくために」

There are two rooms in them : one in the bottom, under water, which they use for a store-room ; and the other, in the top above the water, for a living room. The floor of this room is covered with soft moss.

rooms (ルームズ) 『室』。〔名、複〕 living-room (リビングルーム) 『居間』。〔名〕
store-room (ストアールーム) 『物置』。 moss (モス) 『苔』。〔名〕

【譯】海狸の家には (in them) 室が二つ (two rooms) あります (There are) 一つは (one) 下方 (in the bottom) 水面下に (under water) あつて、海狸はそれを (which) 物置 (a store-room) に用ひ (use for) 他の一つは (the other) 上方 (in the top) 水面上に (above water) 現はれ、これは日常の住室 (a living-room) で、此室の床は (The floor.....room) 柔かい苔 (soft moss) で蔽はれてゐます (is covered with)。

【註】 one—and the other 二つの物があつて、「一つは……、も一つは……」と説く場合には one—, and the other の形を用ふ、尙ほ簡單なる例を示せば

例:—Here is two boys. One is tall. The other is short. (此處に二人の男兒が居る、一人は丈高く、一人は丈低し)。

in the bottom 「下方に」は後の in the top 「上方に」に對應す。此處にては家の内部にて底の部分、上の部分と云ふ故 in……なれど、外から見て、—(家の頂には風見がある) は At the top of the house, there is a weathercock.—と at を用ふ。

under water 「水面下=水中に」は後の above the water 「水面上に」に對應す。前頁の圖は成るべく分り易くと思ひし結果不合理の點もあらむ。

練習:—74. 下の文を英譯せよ。

- (a) 僕は五分間水中に潜つて居られる。
(b) 僕はヨークの事で頭を水上に出して居た。

which they use for a store-room 「海狸はそれを物置に用ふ。」即ち they use the room for a store-room となる、而して “use—for……” は「——を……に用ふ」意となる。

例:—I used a stone for a paper-weight. (私は小石を文鎮に使つた)。
for a living-room 前と同じく for……の前に which they use を補ひて讀まれれば意味明瞭となるべし。

But these wise beavers know that they must have a store of food for the winter, as well as a snug little house to live in. They gather logs of wood and branches, and put them away in the store-room. The bark of these logs and some water plants supply them with food.

【譯】ところが (But) 此の賢い海狸 (these wise beavers) は冬になつて (for the winter) 小ぢんまりとした暖かい家 (a snug little house) が必要であるがまた (as well as) 糧食の貯へ (a store of food) もなくてはならぬ (must have) といふことを知つて居ります (know that)、て海狸 (they) は丸太や木の枝を集め (gather) て (and)、物置に (in the store-room) それを藏つて置きます (put them away)、この丸太の樹皮 (The bark) や、水草 (some water plants) の類が海狸の食物となるのです (supply them with food)。

【註】 a store of food 「食物の貯へ」、

for the winter 「冬を過す爲めの」なり。

—as well as…… 「……と同様に——」、「……は勿論で尙又——も」。

練習:—75. 下の二つの文の相違を譯にて示せ。

- (a) He as well as you is an American.
(b) He and you are Americans.

a snug little house snug とは、冬、四疊半の室の障子を閉ぢ、毛布でも敷き詰め、火鉢に火を起して、室を温めし時感ずるが如き心地をいふ。

snug (スナグ) 『キツチリとして温
き』 [形]

sūp-plī' (サブライ) 『供給する』
[動]

bark (バーク) 『樹皮』 [名]

house to live in 「住むべき家」此の to live in が house に必要なる理由は前に説明したる money to buy with などの to.....with が必要なると同じ。 a snug little house in which to live として見よ。

put them away in..... 「.....の中にさういふものを藏つて置く」
 “put.....away”=「.....を藏ふ」 “take.....out”=「.....を出す」
 supply—with..... 「——に.....を供給する」 譯文には意譯したり。

例:—The river supplied the pumps with water. (この河が唧筒に水を供給した=唧筒はこの河から水を仰いだ)。

練習:—76. 下の文の英譯。
 謙信は信玄に鹽を供給した。

When they are “at home” during the winter months in their “beaver town,” they always have a sentinel to keep watch, and if any one comes near, he gives the alarm by striking his broad, flat tail on the water.

【譯】 海狸 (they) は冬季間 (during the winter months) 「海狸町」 (“beaver town”) に在宅 (“at home”) して居る時には (when) 何時でも (always) 番兵に見張をさして置きます (have a sentinel to keep watch) して、若し何者か (any one) が近づいて來 (comes near) れば、番兵 (he) は自分の幅の廣い (broad) 扁平な (flat) 尾を水面に敲きつけて (by striking) 警報を傳へます (gives the alarm)。

【註】 are “at home” 海狸が其巢に籠って居るのを人間のやうに at months (マンス) 『月(年月の)』

【名、複】

sēn'ti-nēl (センチネル) 『番兵』

【名】

ā-lārm' (アラーム) 『警報』【名】

stri:k'ing (ストライキング) 『打つこ

と』【動 strike gerund の前置詞 by

の目的となり名詞の働きをなす】

home など云ふのはおかしいので態々 “ ” をかけたなり。

the winter months 「冬の月々=冬季」 the winter season としてもよし。

have a sentinel to keep watch=keep a sentinel who keeps watch
 「見張をする番兵を置く」

比較:—

(イ) I must have somebody to interpret for me

=I must employ somebody who interpretes for me.

(ロ) Please have somebody post this letter

=Please cause somebody to post this letter.

(イ) は「通譯する人を雇ふ」意にして、(ロ) は「その人に手紙を入れさせる」意。

gives the alarm 警報を與ふとは「警報する」ことなり。

例:—The fire-men gave the alarm by ringing the fire-bells. (消防夫が半鐘を打つて非常を知らせました)。

There are no idle beavers. They not only work hard, but with great skill and care.

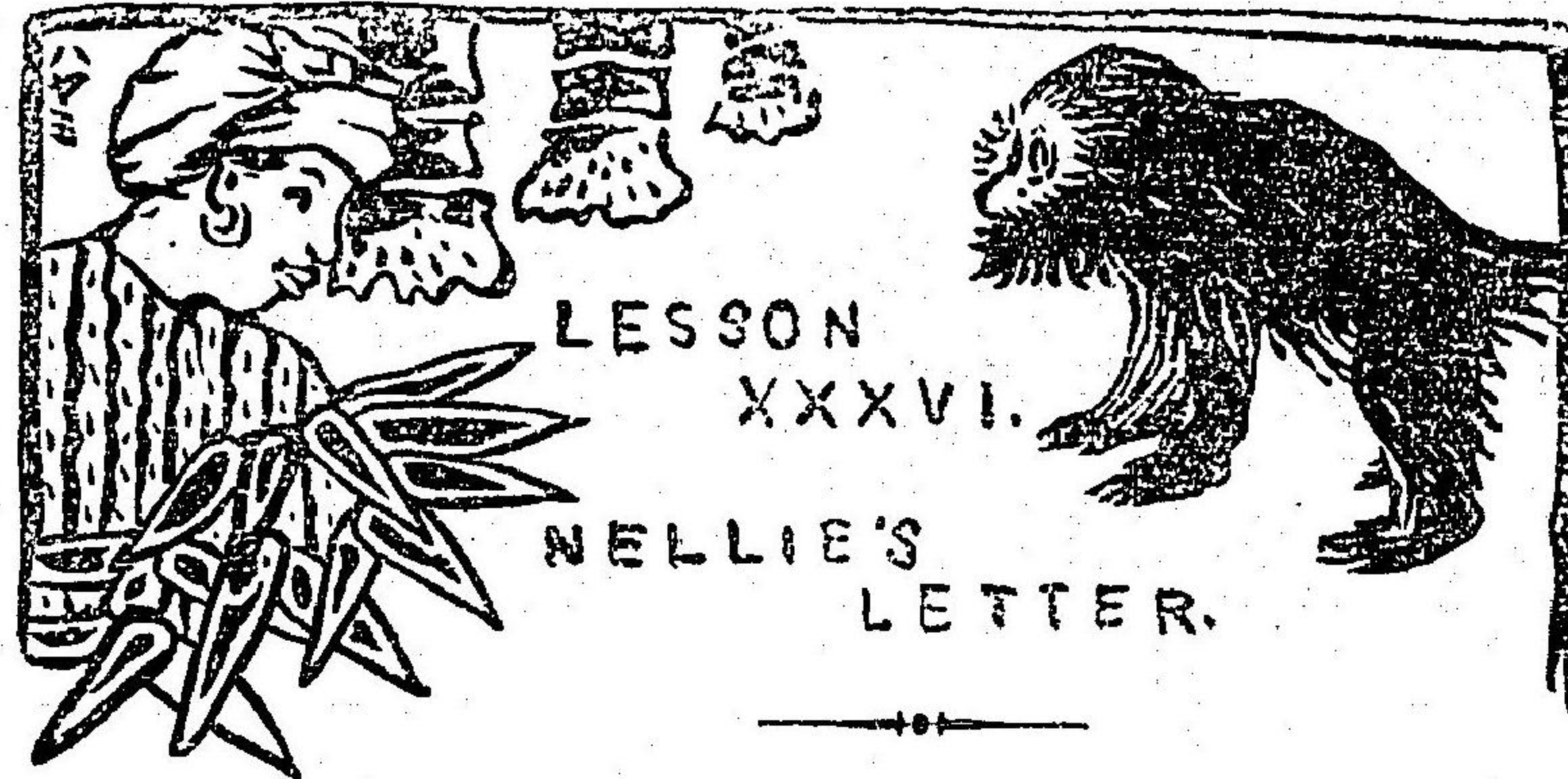
【譯】 海狸社會には怠惰漢は絶対に居りません (There are no idle beavers)、海狸 (They) は唯勉強するばかりでなく (not only work hard, but) 其技はまことに巧に (with great skill) 大なる注意を以て (前の with great と care と合して) 働きます。 (前の work にかゝる)。

【註】 There are no idle beavers 「怠惰の海狸は一疋も居らぬ」といふ。

not only—, but [also]..... 「——する許りでなく、.....」「——するのみならずして.....」など、but の次の also は有つても無くてもよろし。

with great skill and care=very skillfully and carefully.

skill (スキル) 『熟練』【名】



ネリーの手紙

New York City,

Jan. 1st, 1884.

Dear Mary,—

Mamma is not at home, and I can not find our dictionary. I have to answer this question. "What is bamboo?"

【譯】

紐育市

千八百八十四年一月一日

メリー様

お母さんは今家に居らつしやらないので (Mamma is not at home, and) 私には字引 (our dictionary) がどこに

LESSON XXXVI.

Nēllīe (ねりー) 『人名』。〔固名〕

lēt'ēr (れた) 『手紙』。〔名〕

New York Cit'y (にゅーよウクすい
たい) 『=ニューヨーク市』。〔固名〕

Jan. (January の略) 『正月』。〔固名〕

1st (first の略) 『一日』。〔年月日は
読む際には略詞とし讀まざ其表
はす詞の全部を讀むべし〕

dic'tion-ā-r'y (ていクシヤナリ) 『字
引』。〔名〕

ān'swēr (あんさ) 『答へる』。〔動〕

bām-bōō' (ばむぶー) 『竹』。〔名〕

あるか分りません (can not find)。私は「竹は何ですか ("What is bamboo?)"」といふ質問 (this question) に答へをしなければならませぬ (have to answer)。

【註】 New York City 發信者の宿所である、英語の手紙では一番最初に發信者 (手紙を出す人) の宿所を書くので此の次に、

Jan. 1st, 1884. といふ順に年月日を記すのです。

例:—Oct. 5th, 1910 (千九百十年十月五日)。

注意 紙の中央邊より書き出し、二行にて終るようすべし。

Dear Mary,— 「メリー様」邦語にて「拜啓」などといふ場合は英語にて男子に對しては Dear Sir, 婦人に對しては Dear Madam など用ふるも、心安き兄弟友人間などに在りては、Sir, Madam などの代りに相手の名をしるす、即ち Dear Mr. Ito, Dear Shidzue, 或は更に親密ならば My dear Okano My dear Taro 等の如し、本文にては米國少女ネリーが従兄弟のメリーに與ふる手紙なれば片苦しきは避けて譯文の如く「メリー様」とせり。

Our Dictionary 自分一人のものでなければ My.....とはいはず、「家の人々が使ふ辭書」の意にて our.....とする。

have to answer = must answer 「答へなければならぬ」。

answer this question 此質問に答ふるなれど answer to this question と云はず、answer の次に直ちに名詞を置くべし、初學者の陥り易き間違なれば注意すべし。

John says it is a kind of beast like an ape.

Tom says it is a kind of spear.

I say it is the name of some black men who live in India.

【譯】 ジョンさんはそれは似人猿 (an ape) のやうな一種の (a kind of) 獸 (beast) だと云つて居ます (says)。

トムサンはそれは一種の鎗 (spear) だと云つて居ます、ape (エイプ) 『短尾猿』。〔名〕

私はそれは印度 (India) に住んで居る黒人の名 (the name of some black men) だと申すのです。

【註】ape 尾短くして、巧に人真似をする猿。

練習:—77. John says, Tom says とありて
I say とある理由如何。

Now I am sure you can tell me about it, and I should like very much to show Tom and John how little they know. Was not the man who wore the turban a bamboo?

【譯】 それで (Now) 屹度 (I am sure) あなたは、その事を (about it) 御存じ (can tell me) てせう (前の I am sure にかゝる) 私は、ジョンさんとトムさんが、餘んまり物を知らない (how little they know) のを二人に思ひ知らせ (show) てやりたくてたまらないのです (I should like very much to)。 頭へ布を巻いた人 (the man who wore the turban) は bamboo ではありませんか (was not)。

【註】 I am sure=surely 「私は確かだと思ふ=屹度」

you can tell me=you know. tell は「告げる」

about it about.....は「.....に就いて」と委細の意を含む。

I should like very much to..... 「私は.....出来るものならどうかして欲しい」即ち should は「出来るものなら」「出来れば」等の意なり。

例:—I should like very much to go abroad. (私はどうかして洋行したいもんだな)。

how little they know little は、前にも説明したる如く、「少ない」意

tür'bän (た〜バン) 『回々教國人な | どの着ぐる頭巾』。【名】

であるから、how little は「實に少ない」といふ「彼等の知つてゐることは實に少ない=智識が乏しい」意味となる。

Was not 過去でありながら譯文に現在に譯したるは、斯くの如き場合英語にては、一文中の動詞が悉く過去形ならざるべからざれども、邦語にては必ずしも其必要を認めざるを以てなり。

例:—Was he the man who broke the cup? (コップを破した人は彼の人ですか)。

而して、Was not..... は「.....ではありませんか=.....でありますか」の意なり。

wore 不規則動詞 wear の過去形、「冠ぶつた」

参考:—wear, wore, worn (過去分詞)。

turban 印度人が男女を問はず頭に布帛を巻き附くるは彼の國の風習にして、此の頭巾を turban といふ。

The boys are laughing at me, but am I not right?

Your cousin,

Nellie.

【譯】 皆んな (The boys) が、私を馬鹿にして笑つて居ります (are laughing at me) が (but)、私の云ふ事は正しくありませんか (am I not right?)

あなたの從姉妹の

ネリーより

【註】 The boys ジョン、トムを指す。

are laughing at me. 「私を嘲弄して居る」 laugh 「笑ふ」といふ動詞に at がついて laugh at..... となれば、「.....を嘲弄する」意となる。

am I not right? = is what I say wrong? 「私の云ふ事は間違つてをりますか」「間違つて居ないでせう」の意、I=What I say 「私の云ふこと」なり。

cous'in (かズン) 『いとこ』。【名】

注意 我國の手紙の認め方として、其の結尾には「早々」「頓首」「敬具」

「と」等を附すれども、英國風には宛も之れに適當する文字なし、只、親疎、階級の別に由りて、種々なる語法あり、尤もこれは冒頭の敬語と照應すること肝要なり、普通の例は下の如し：—

{ Dear Sir,.....にて出したらば—*Yours truly*
 { Sir,.....にて出せば—*pours faithfully*
 { Your Excellency,.....にて—*Your faithful servant*

以上は他人行儀の手紙にして親しき人には下の形を用ふ：—

{ Dear Mr.は—*Yours very truly*
 { Dear.....は—*Yours ever*
 { Dear Mother.....は—*Yours affectionately*

尙、My Dear Mr.と my を加ふれば一層の親密を示す。

英語の手紙に就いて

『英語の手紙の文は如何書きますか』と初學者より度々質問を受くることあり、こは日本にては普通文と書簡文とに著しき相異あるに因る。然るに英語にては口語と文語との別著しからざると同じく、普通文と書簡文とも格別の差別なし。故に書簡を認むる時は一定の形式(此 Lesson に示されたる如き)に則り、普通の口語體にて平易に書くべし、達意を旨として文字を修飾すべからず。我邦の書簡文にありては先づ「寸緒拜呈仕候」と冒頭を出し、「時下春暖相催し候處.....」など寒暄を叙し、「尊堂彌々御多祥」と健康を祝し、その後に用事を述ぶるを禮に副へる如く思へど英語の手紙にては用事を眞先に述べよ。

- (1) Mr. の代に Esq. (Esquire) を用ふる時は姓名の後に附す。
- (2) 學位官職ある人には Mr. を用ひず、Dr. (博士).....; Prof. (教授).....; Capt. (大佐).....; Rev. (牧師).....; Baron (男爵).....等とす。
- (3) 外國へ發送する手紙には其經由すべき方面を記す、例へば *Via Siberia* とすれば「西比利亞經由」の意を表はす。(Via=by way of).
- (4) 郵便に依らず、人に托する手簡には封筒の左方下端に *Kindness of...* と記し、開き封にするを常とす。
- (5) 書簡紙は白色のものを用ゐ、黒インキにて明瞭に認むべし。

LESSON XXXVII.

MARY'S ANSWER.

メリーの手紙

Boston, Mass.

Jan. 4th, 1884.

Dear Nellie,—

When I read your letter, I laughed so loud that the cat jumped off my knee, and ran away in a great fright.

【譯】

ボストン、マサチューセツ。

千八百八十四年一月四日。

ネリー様

私があなたの御手紙 (your letter) を、讀んだ (read) 時 (When)、私は大笑ひをしました (laughed so loud) のて (that)、猫が私の膝から跳び出し (jumped off my knee) て、肝をつぶして (in a great fright) 逃げて行きました (ran away)。

【註】 Mass.=Massachusetts. の略。略字符號の . を脱すべからず。

loud 「大聲に」。

in a great fright 大に驚くさまにいふものなれば、「大に驚いて」「肝をつぶして」等よからん。

注意 邦語にての「御手紙」は英語にては單に *Your letter* 又は *Your favour* 又 *Yours of the 15th.* (十五日發の尊翰) の如き形にて足れりとなす。

Bamboo is a kind of grass, or reed, or cane, which grows in India or China, and is used for building houses, and for many other purposes.

【譯】竹 (Bamboo) は草 (grass) とか (or) 蘆 (reed) とか (or) 籐 (cane) とかの種類 (a kind of) てあり (is) まして、それは (which) 印度 (India) 又は支那 (China) に生ずる (grows) のてす、そして (and) 家を作る (building houses) のに用ひられます (is used for) また (and) 其他いろいろな事 (many other purposes) に用ひられます (for と前の is used と合して)。

【註】 grass, or reed, or cane 竹を何の種類に入るべきか即断し難き故三種の名詞を擧げたるなり。

grow 「生長する」、「生ず」、「有る」。

例:—Do cherry-trees grow in England? (櫻の木は英國にありますか)。

India 「印度」釋迦の降誕地にして、其國人を the Hindoos といふ。

is used for..... 「.....するのに使用せらる」、「.....するに用ふ」。

例:—A pen is used for writing. (ペンは物を書くのに用ふるものなり)。

building houses 「家を建つること」名詞の働をなす。

Did you never see a bamboo cane?

John was thinking of a baboon. That is an animal like an ape. The kind of spear was a harpoon. The

LESSON XXXVII.

grass (グラス) 『草』。〔名〕

reed (リード) 『芦』。〔名〕

cane (ケイン) 『籐』『鞭』。〔名〕

Chī'ná (ちやいな) 『支那』。〔固名〕

pū'pōs-ēs (ばーパセズ) 『目的』、『用途』。〔名、複〕

bāb-ōon' (バブーン) 『狒々』。〔名〕

hār-pōon (ハーブーン) 『モリ』。〔名〕

man with the turban was a Hindoo, and not a bamboo.

【譯】あなたは、これまでに、竹の杖 (a bamboo cane) を見たことがありますか。

ジョンは狒のことを思ひ浮べた (was thinking of a baboon) のてす、其れは (That) 似人猿 (an ape) のやうな (like) 獸てす、鎗の種類 (The kind of spear) といふのは、魚叉 (a harpoon) のこととした、また頭巾をかぶつた人 (The man.....turban) は印度人 (a Hindoo) として竹ではありません。

【註】 Did you never see = 「汝は此れ迄に見なかつたか = 見たことはな

いか = 「見たことがあらう」。

thinking of..... 「.....のことを思ひ出して居た」なり。

a baboon 「狒々 (ヒビ)」多く「アフリカ」に産し、猿猴類に屬する獸にして、其の形體人類に似たり。カッツを参照せよ。

練習:—78. That is an animal like an ape.

の文中 an を用ゐたる理由如何。

(附記) ジョン、トム、メリー等の三人が bamboo (竹) について各々意見を述べたところ、ジョンは baboon (狒々)、トムは harpoon (魚叉)、メリーは Hindoo (印度人) の事と何れも間違つた考を有つて居たが、狒々、魚叉、印度人と日本語にて云はゞ、何等興を感ぜざれども、英語にて baboon, harpoon, Hindoo と云はゞ、何れも多少 bamboo に似通ひたる音詞ありて如何にも間違ひさうにて面白く感ぜらるゝなり。要するに米國には竹なき故かゝる滑稽談あるなり。

He would have laughed very much if you had asked him what you have asked me. But never

Hin'doo (ヒンドー) 『印度教を奉ずる印度人』。〔固名〕

mind, dear, all of us must learn.

Your cousin,
Mary.

【譯】 若し (if) あなたが私に尋ねたこと (what you have asked me) を Hindoo に尋ねたならば (前の if と you had asked him) 定めし Hindoo は大笑ひをしたこと (He would have laughad very much) でもそんな事は氣にお懸けな (But never mind, dear), 人は皆んな (all of us) 物を教はらなければなりません (must learn)。

【註】 He would have laughed, if you had asked him..... 「.....を彼に尋ねたならば (事實は尋ねなかったが) 彼は笑ったであらう (事實は笑はなかつたが)」。

即ち、此形は過去の事實の反對の假定を示す。

練習:—79. 下の文を上を上の範例に倣ひて英譯せよ。
(a) 北條時宗が 臆病であつたなら、日本國は亡びたのであつたらう。
(b) あの時大風が起らなかつたならば、蒙古人も容易く打破られなかつたであらう。

never mind 「意とする勿れ」「氣にかけるな」。
dear 「坊や」「お前」など親愛を表はす 間投詞なり、夫婦、親子、兄弟姉妹、其他親密なる間柄にて、日常の會話にも屢々用ひらる。
must learn 「學問をせねばなりません」。「學ばずして賢くはなれない」。

Máry (めいり) 『人名』。〔固名〕

【参考】

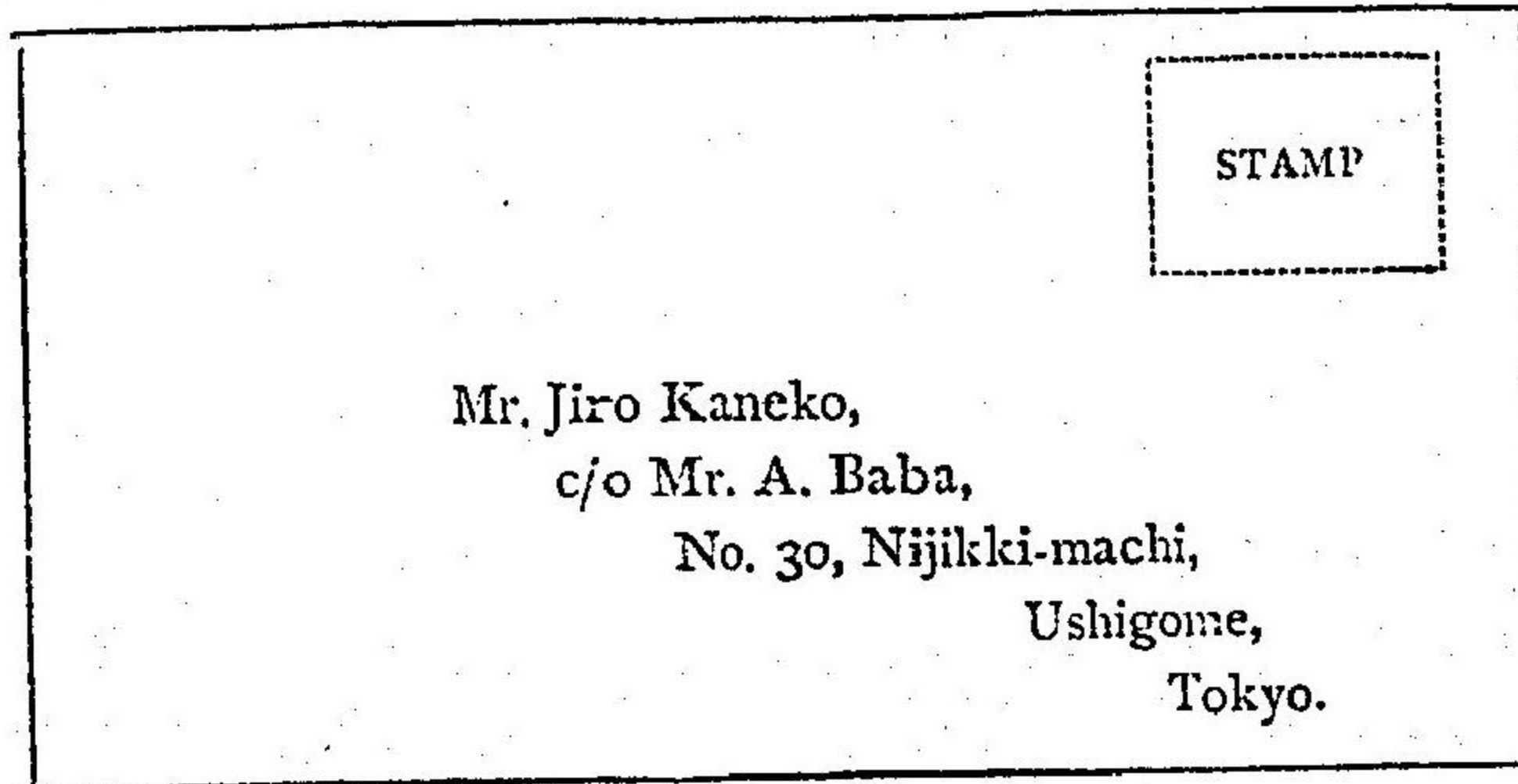
MODEL FOR ADDRESSING AN ENVELOPE.

Miss Milly Brown,
Johnstown,
New York.

【譯】

封筒の認方 (雛形)
メリー、ブラウン嬢様
ジョンズタウン
紐 育

我國の流儀にては、何府何縣何國何郡何市町村何番地と順を追ふて記せども、英語にては、總て逆(逆)に先づ番地より初め、次に何町村、何市郡、何府縣と順次 我れと全く逆(逆)に記するなり、即ち受信人(手紙を受取る人)の姓名の直ぐ下に番地、町村、其下に何市郡といふ様に記すべく、又受信人若し他人の家同居寄留する時は我國にて何某方と書く如く、受信人の下段即ち番地の上段に Care of Mr..... と記入す (又略して c/o Mr..... とす) なり。尙ほ念の爲めこゝに封筒認方の體裁を示さん。



注意 發信人の宿所姓名は封筒に記さざるが 彼地の風なり。若し受信人不在の虞ある時は状袋の左の隅か又は裏面に——Please send back to (姓名住所) in case of non-delivery. 又は單に From..... と書き置くもよし。

mōd'el (モデル) 『模形』。〔名〕 gerund
ád-drēs'sing (アドレッシング) 『宛名を書くこと』。〔名詞の働をなす〕 en'vel-ope (エンヴェロープ) 『封筒』。〔名〕



LESSON XXXVIII.

THE CAMEL.

駱 駝

In Asia and Africa there are vast plains of sand, upon which no grass grows, and through which no river runs. These plains are as smooth as the ocean unmoved by waves. As far as the eye can reach, nothing is to be seen but sand.

【譯】 亞細亞と亞弗利加には、廣大な (vast) 砂原 (plains of sand) がある (there are) 其處には (upon which)

LESSON XXXVIII.

Ā'sia (アシア) 『亞細亞』〔固名〕

Ā'fri-ā (アフリカ) 『亞弗利加』〔固名〕

cām'el (キアメル) 『駱駝』〔名〕

vāst (ヴァスト) 『廣大なる』〔形〕

smōoth (スムーズ) 『滑かなる』

〔形〕

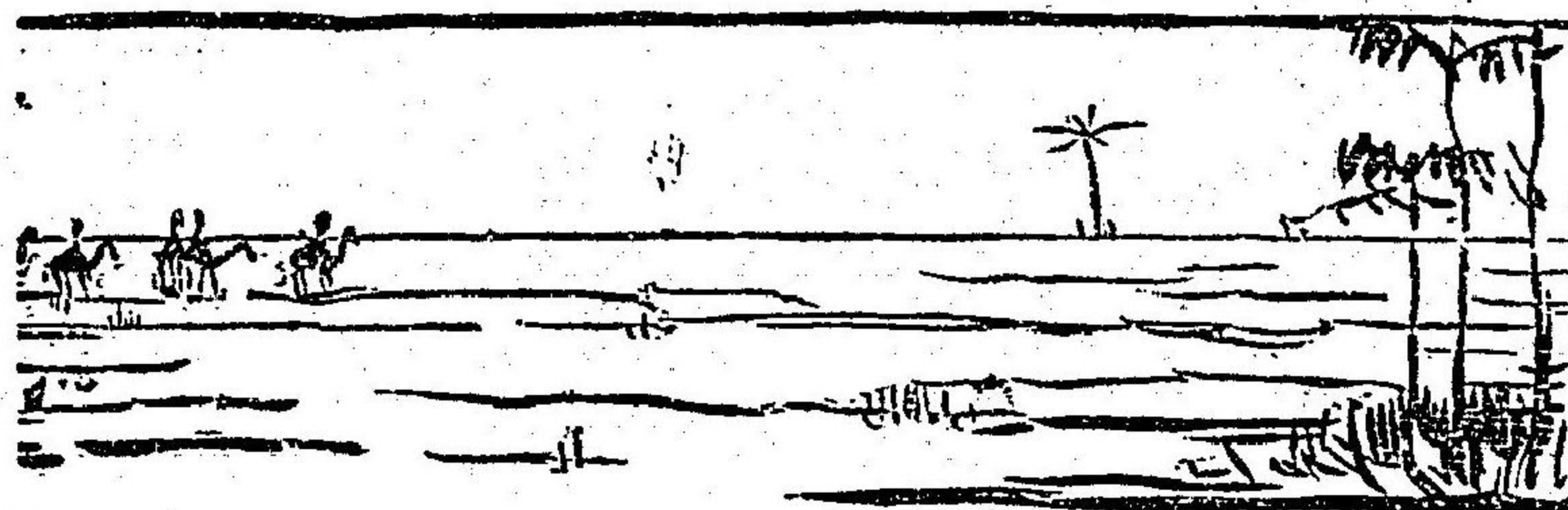
ō'cean (オシアン) 『大洋』

〔名〕

ūn-mōved' (アンムーヴド) 『動かされぬ』

〔動〕 過去分詞

wāves (ウェイヴズ) 『波』〔名〕



草一本すら生へず (no grass grows) 河一筋も流れて居らぬ (no river runs) (この砂原は平滑なること恰も (as smooth as) 波の立たない大洋 (the ocean unmoved by waves) であります。目で見える限りは (As far as the eye can reach) 唯砂ばかり、他には (but) 何も見えませぬ (nothing is to be seen)。

【註】 upon which = upon the plains of sand.

through which = through the plains of sand.

through 「通して」、「貫いて」

例：—The river Sumida runs through the city.

(隅田川は市を貫いて流る)。

as smooth as..... 「.....の如くに平滑」「平滑なること.....の如く」

the ocean unmoved by waves 「波に由て動かされざる大洋」海は概して平かなれども波の立つ丈けが凹凸する、然るに沙漠は波も立たぬ故極めて平坦なるを示す。

As far as.....reach にて the eye は「視力」をいふ。

is to be seen = can be seen = is visible.

but..... = except..... 「.....を除きては」「その他には」

練習：—79. 下の和文を英譯せよ。

(a) 海面滑なること鏡の如し。

(b) 見渡す限り櫻の花。

In the middle of the day when the sun is hottest, the sand dazzles the eyes of the traveler, as if another sun were beneath the sand as well as one above.

【譯】 太陽の一番熱い (when the sun is hottest) 日中には (In the middle of the day) 砂が[ギラギラして]旅人 (the traveler) の目を眩ませます (dazzles) 丁度 (as if) 天に輝ける太陽 (one above) に加へて又 (as well as) 砂の下にも (beneath the sand) もう一つ太陽 (another sun) がある (were) やうに [前の as if にかかる]。

【註】 In the middle of the day when the sun is hottest=「太陽の一番熱い[時の]日中には」に於て、when 時の、邦語にては必要な英語ては必要あり。

例:—Do you know the time when he will arrive?

(彼人着時間がお分りですか)。

上例に於て若し when を省きたりとすれば「あなたは時間を御存じですか、彼人は到着します」となりて其の意味不明瞭となるべし、これ、日本語にては「到着する+時間」と云ふ順序なるに、英語にては the time を先きに云ふ故、其後へスグ he will arrive を接続する能はず、間へ when と云ふ副詞を挿みて連結せしむるなり。

但し、如上の場合 the time を略し、when だけ用ふるも妨なし。

練習:—So, 下の文の空白を填めよ。

He is the man—came yesterday.

練習:—Sr. hottest は hot に est を加ふる筈なるに何故 t が二つあるや。

as if—were..... 「宛かも—が.....であるかの如く」現在の實事の反對を云ふ構文なり。

hōt/ēst (ほテスト) 『最暑き』 [形]

hot の最上級

dāz/əlz (だズルズ) 『眩ます』 [動]

eyes (īz あイズ) 『目』 [名] 複

trāv/člēr (ドラヴェラ) 『旅人』 [名]

bē-nēath (びニース) 『下に』 [前]

例:—This boy speaks as if he were a man.

(此の男兒はまるで大人のやうな口の利き方をする)。

beneath the sand 「砂の下」 beneath は砂をほじくつて見れば直ぐ其處に砂の下にあるとの意なり。 under は=單に「.....の下方」の意なり。 one above=the sun up in the sky.

Here and there, but many miles apart, are green spots consisting of bushes, trees, and grass, growing around a small pool or spring of water. These green spots are called oases. Here the tired traveler can find food and shade, and sleep awhile, sheltered from the blazing sun.

【譯】 此處にも彼處にも (Here and there) 併し (but) 其間の距離は幾哩も (many miles) 距てて (apart) 小さな水の溜りや、湧く清水 (a spring of water) の周邊に生へて居る (growing round.....) 灌木の茂り (bushes) や樹木や草などで出来て居る (consisting of.....) 緑の地點がある (are green spots)。此の緑深い地は沙漠中の沃地 (oases) と申します。此處に來れば疲れた (tired) 旅人も、食物も日蔭 (shade) も得られ (can find) 又一眠りする (sleep awhile) ことも出来る、炎熱灼くが如き太陽 (the blaging sun) を避けて (sheltered from.....)。

grēen (グリーン) 『緑の』 [形]

spōts (スポット) 『地點』 [名] 複

bush-es (ブッシュ) 『叢』『藪(灌木の)』 [名] 複

pōol (プール) 『水溜り』 [名]

spring (スプリング) 『泉』 [名]

ō'a-sēs (オアシーズ) 『沙漠中の沃地』 [名]

shāde (シャド) 『影』 [名]

tired (タイド) 『疲れたる』 [形]

shēl'tēred (シェルタド) 『蔽はれて』 [かこはれる] [動] shelter 過去

分詞

blāz'ing (ブレイズィング) 『燃え燃く』 [形]

【註】 —consisting of..... = —which consist of... .. 「より成れる」
 sleep awhile 「少時眠る」「一睡する」
 oases 「沙漠中の池水草木ある土地」此字の單數形は *oasis* なり。

How do you think the traveler crosses these burning plains? Not in carriages or on horseback, or in railway trains, but on the backs of tall, long-necked camels.

【譯】 皆さん (you) は旅人がこんな (these) 火の中
 の様な熱い (burning) 砂原 (plains) を如何して (How)
 横ぎる (crosses) と思ひますか (do—think—?)。それは
 馬車に乗つて (in carriages) てなし、馬にも乗 (on horse-
 back) らず、汽車にも乗 (in railway trains) らずに (but)
 丈の高い (tall) 頸の長い (long-necked) 偃僂の (hump-
 acked) 駱駝に乗つて (on the backs of) 横ぎるのです。

【註】 Not in carriages or..... 「馬車に乗つて (in) でなく (Not) 又
 (or)..... でもない (前の Not へかゝる)」not の次には or を用ゐて打消す。

練習:—82. 下文を英譯せよ。
 そこへは馬でも車でも行けませぬ。
 是非歩くのです。

on the backs of..... 「.....の脊の上に」, 「.....(の脊)に乗つて」
 humpbacked 「背に瘤のある」, 「偃僂の」

cross'ēs (クロスエズ) 『横切る』。【動】
 burn'ing (バーニング) 『焼けてる』
 【形】
 car'riages (キャリジズ) 『馬車』
 【名】複

trains (ドレインズ) 『列車』。【名】複
 rail-way (レイルウェイ) 『鐵道』。【名】
 hump'backed (ハンプバクト) 『背に
 瘤のある』『偃僂の』【形】

Even if you have seen camels alive, or pictures of them, you will still be glad to learn more about these very useful animals.

【譯】 皆さんは假令 (Even if) 生きてる駱駝 (camels alive) かさもなくば (or) 駱駝の畫 (pictures of them) を御覽になつたことがある (have seen) にしても (前の Even if にかゝる) それでも (still) 此の大層役に立つ動物 (these very useful animals) の事を (about) もっと (more) 聞きたくお思ひてしやう (you will be glad to learn)。

【註】 Even if..... = though..... 「假令.....であつても」單に if だけ用ゐて、尙此意を示すことあり。

camels alive 「駱駝の生きてゐるのを」see.....alive と云ふ構造に注意すべし、see live camels 「生きて駱駝を見る」と云ふよりも。現に目撃したる感深し。

比較:—(a) I caught a live wolf.—(b) I caught this wolf alive.

The camel lives on grass, and the dry short herbage, which is found on the edges of the desert.

【譯】 駱駝は生草 (grass) と水氣のない (dry) 短かい (short) 牧草 (herbage) とを常食とする (lives on) その牧草は (which) 沙漠 (the desert) の縁邊に (on the edges) ある (is found)。

【註】 live on..... 「.....を食つて生活する」, 「.....を常食とする」
 例:—What does the fox live on? (狐は何を食べて生きて居るのですか)。

à-live' (アライブ) 『生きてる』。【形】
 still (ステイル) = all the same 『矢張り』。【副】

glad (グッド) 『喜べる』。【形】
 dry (ドライ) 『乾ける』。【形】
 herb'age (ハーベジ) 『牧草』。【名】

herbage 一般の植物の意を表はすことあり、多くは牧草に限り用ふ。
 edges edge は廣きもの「縁邊」なり、end は長きもの「末端」なり、區別すべし：—*On the edge of the parade ground.* (練兵場の端れに)；*At the end of this street.* (此通りの端れ即ち、突當りに)。

is found..... 「.....に看出さる =に在り」

例：—*This plant is found only in the depth of Mt. Chichibu.*

(此の植物は秋父山の山奥に行けば在る)。

While traveling in the desert, it is fed upon dates and barley. It is able to eat a great deal of food at a time, and to drink enough water to last some days. By this means it can go for a long time without food, and travel long distances without stopping to eat or drink.

【譯】 沙漠旅行の間 (While.....desert) 駝の食物は (it is fed upon) 棗棕櫚の實と大麥 (dates and barley) とです。駝 (It) は一時に (at a time) 食物を澤山 (a great deal of food) 食べることが出来る (is able to eat) し、又 (and) 五六日間も支へることの出来る程澤山の水 (enoughdays) をも飲めます (前の is able = to drink と合して)。こうやって (By this means) 駝は食物も無くして (without food) 長い間 (for a long time) やつて行けます (can go) そして飲み食ひするので (to eat or drink) 立止まる事なく長途を旅行する (travel long distances) ことが出来る[前の can にかゝる]。

dē's'ert (デザート) 『沙漠』 [名]

dātes (デイツ) 『ナツメシユロの實』 [名] 複

bār'ley (バーリ) 『大麥』 [名]

dēal (デール) 『量』 [名]

lāst (ラスト) 『耐える』、『持続す』 [動]

【註】 While.....desert の while traveling との間に it is の二字を入れて讀めば意味明瞭となるべし。

it is fed upon..... 「それが.....で養はれる = その食物は.....」

練習：—83. 下の文を Passive Voice にて譯せ。
 君の家の犬には何を食はして置くか。

is able to..... = can.....

a great deal of..... 「.....を澤山」 「.....をしたたか」

at a time 「一時に」

例：—*One can not attend to two things at a time.*

(人は一時に二つの事は出来ない)。

to last 「耐へる」、『持続する』、『支へる』

例：—*The provisions lasted only one month.*

(食糧は僅かに一ヶ月を支へたばかりだ)。

means 「方便」 『手段』。複數にあらざ、單數にして常に複數形をとり、複數となりても其變化なきものなり。

注意 此字は常に單數に取扱ふ、即ち、*This means is suitable.* の如し。it can go.....without food は *do without.....* 「.....なしに済ます」の意にして「食物なしに長い間凌げる」となり。

travel long distances 「長距離を旅行する = 長途の旅をする」

to eat or drink 邦語にては飲食と云へども英語にては食すを前にし飲むを後にす、口調なり。

注意 「止まって.....する」と云ふ云ひ方を英語にては “stopped and.....” と云ふよりも多くは “stop to.....” と infinitive を用ふ、

Here and there we stopped ^{to enjoy} and enjoyed the view.

(こゝかしこに停つては、景色を賞した)。

The camel has a curious lump of fat on the top of

eū'ri-ōūs (キューリアス) 『珍らしき』

fāt (ファット) 『脂肪』 [名]

【形】

its back called a "hump." One kind of camel has two humps. One purpose of these humps, is to supply the camel with strength, when it has neither food nor water, and would otherwise die from want.

【譯】駱駝には背の頂上に (on the top of its back) 「隆肉」 (a "hump") といふ (called) 奇妙な (curious) 脂肪の塊 (a lump of fat) がある (has) 或種の駱駝 (One kind of camel) には二個の隆肉あり。此隆肉の用は一つには (One purpose of) 食物も水も無い時に力を駱駝につける (supply the camel with strength) ためなのです (is to...) で若し此隆肉が無いならば (otherwise) 駱駝は營養不足で (from want) 死んでしまふのでせう (would die)。

【註】 One purpose 「一つの目的」としたるは、他にも多くの所用がある中の「一つ」の意。

supply—with..... 「—に.....を供給する」

例:—I will supply you with the fund.

(私はお前に資本を出して上げやう)。

has neither—nor..... 「—もなければ.....もない」

would otherwise die = would die, if the camel had no hump 「若し駱駝が脂肪瘤がなかったならば死ぬのであらうに」。即ち、otherwise に条件あり、would が之に應じたる形なるを見るてし。

die from want 「.....で死ぬ」を言ひ表はすに病氣には die of を用ひ。

例:—He died of diphtheria. (彼はデフテリアで死んだ) と云ひ。

「.....が原因もとになつて死ぬ」には本文の如く、die from.....の形を用ふ。

hump (ハムプ) 『瘤』、『隆肉』。〔名〕

strength (ストレンクス) 『力』。〔名〕

want (ウオント) 『缺乏』。〔名〕

foot (フット) 『足』。〔名〕

The foot of the camel is a wonderful thing, and of great use in crossing the soft, sandy deserts. It is broad, and has a soft pad at the bottom, which keeps it from sinking into the sand.

【譯】駱駝の足 (The foot) は驚くべきもの (a wonderful thing) で、柔かい (soft) 砂の多い (sandy) 沙漠を横ぎるのに (in crossing) 大層役に立ちます (is ...of great use) 駱駝の足 (It) は幅廣く (broad) 蹠には (at the bottom) 柔かい蒲團 (a soft pad) がありますが、この蒲團 (which) があるので砂の中へ (into the sand) 足 (it) が潜り込まない (keeps—from sinking) のです。

【註】 of great use = very useful 前の is へかゝる。

in crossing..... 「.....を横ぎるに際して」

keep—from..... 「—を.....から保つ=—が.....しない様にする」

練習:—84. 下の文を keep を用ゐて譯せ。
此塗料が金属の錆を防ぐ。

The camel with two humps on its back is much larger and stronger than the camel with one hump.

【譯】背に (on its back) 二峰ある (with two humps) 駱駝は一峰ある駱駝よりもズット大きく (much larger) 又強くも (and stronger) あります (is)。

won'dér-lūl (ウァンダフル) 『驚くべき』。〔形〕

sānd'y (サンディ) 『砂の』。〔形〕

brôad (ブロード) 『廣き』。〔形〕

pād (パド) 『フツクリした肉』。〔名〕

sīnkīng (サインキング) 『沈む』、『入り込むこと』。〔動〕 sink, gerund 前置詞 from の目的となり名詞の働きをなす

strōng'ēr (ストロング) 『より強き』。〔形〕 strong 比較級

【註】 with two humps=*which has two humps* の如く、has と with との用法の共通なるを學ぶべし、

- {拙—He has a kite *which has* a long tail.
 - {巧—He has a kite *with* a long tail.
- (尻尾の長い紙鳶を持つてる)。

The one-humped camel is known as the Arabian camel or dromedary. Asia is the home of the camel, but numbers of them are used in Africa and other parts of the world.

【譯】 隆肉が一つある (one humped) 駱駝は亞刺比亞駱駝又は單峰駱駝 (dromedary) として知られて居ます (is known as) 亞細亞は駱駝の産地 (the home) ですが、多数の駱駝 (numbers of them) は亞弗利加及び他の國々 (other part of the world) で使はれます (are used)。

【註】 is known as... .. [.....として知られて居る]、「.....で通つてる」。

例 His name is Terajima but *is known as* Kikugoro.
(名前は寺島だが菊五郎で通つて居る)。

the home 「故郷」、「故國」、「産地」。
numbers of them = *very many camels*.

例:—Nambu is the home of horses. 此の如き形を不定「数」と稱して、大多數の意を示す。

比
較 { *Numbers of students come up to town yearly.*
(多數の學生年々上京す)。
A number of students become degenerated.
(若干の學生は墮落す)。

other parts of the world 「世界の他の部分」。

drom'ē-dā-rŷ (ドラミダリ) 『 』	world (wɜ:ld うアールド) 『世界』
[名]	[名]

The camel is trained to kneel down to receive its load, and to let its master get on its back.

【譯】 駱駝は跪いて (kneel down) 荷物を背に受け (receive its load) そして主人を背に乗らせる (let its master get its back) やうに仕込まれる (is trained to...).

【註】 kneel down 「跪く」。

let its master..... 「主人に.....させておとなしくして居る」ことなり。

練習:—85. 下の文の相違を説明せよ。

- (イ) *Let* him come in.
- (ロ) *Make* him come in.
- (ハ) *Have* him come in.
- (ニ) *Bid* him come in.

The camel can smell water at a great distance. When its rider is nearly dead from thirst, and water is near, he can tell it by the greater speed at which the camel begins to travel.

【譯】 駱駝は遠方から (at a great distance) 水を嗅ぎつける (smell) ことが出来るので、騎者 (its rider) が今にも (nearly) 渴死 (is dead from thirst) せんとして、しかも (and) 水が近所にある (is near) 時はに駱駝が前よりも早く歩き出します (by the greater speed.....travel) 騎者 (he) には近くに水あること (it) が分る (can tell)。

trained (ドレィンド) 『馴らされる』
『訓練さる』 [動] train ...過去分
詞 is と合して passive を形成す
load (ロード) 『荷』 [名]
rē-cēive (リースーヴ) 『受取る』 [名]

māst'ēr (マスタ) 『主人』 [名]
rīd'ēr (ライダ) 『大なる人』 [名]
thīrst (ス〜スト) 『渴』 [名]
trāv'el (ドフヴル) 『旅行す』 『行
く』 [名]

【註】 at a great distance 「遠方から」、「ズツト離れて」。at a distance は「離れたる一地點に」の意にして、之れ丈けにては遠近の意含まれず、故に at a great distance; at a short distance の如く形容詞を用ゆるか、又、at a distance of ten miles の如く定まれる距離の詞を付するかして、どの位の距離なるやを示すなり。然るに in the distance は「遠方の地域に」の意にして in the neighborhood に對して用ふ、廣き場所を見渡して「遠方に煙が見える」と云ふ如き時は「遠方の地域」を意味する故、之を用ふるなり。少しく説明の煩瑣なる嫌あれど學生の惑ふ所なれば序に説明し置く。

is nearly dead from thirst 「渴死しかけて居る」。

注意 「彼は餓死した」と云ふ場合に

He is dead from hunger. と云ふべからず、

He died from hunger. なるべし。

其故如何? dead は形容詞にして「死んで居る」意味なれば、「生きて居る = He is living.」に對して「死んで居る (ト日本語ニテハ云ハザレドモ) = He is dead.」と云ふなり。

He is dead from hunger. と云はゞ、「腹が減つて死んで居る」となり、ナングカ死人に「腹の減った」者と「腹の張った」者とあるやうになる。

要するに

(a) 死と云ふ状態にあるを示すには形容詞 *dead* を用ひ。

(b) 死の原因、死の時日を示すには動詞 *die* を用ふるなり。

(a) Is Prince Ito still living?—No, he is dead.

(b) When did he die?—He died in the year before last.

然らば、本文にて is dead from.....を用ゐし理由は如何、渴の爲め渴死の状態にある故なり。

tell—by..... 「.....に由て——なることが分る (又は知らる)」。

類例:—I knew that he was a French man by his intonation

(私は彼の人の音調で佛蘭西人だといふことが分つた)。

the greater speed at which..... 「一層早き速度 (the greater speed) その速度で (at which) 駱駝が旅を初めるところのその一層早き速度で分る」となり。

注意 速度には at を用ふ、—The train ran at a speed of 50 miles an hour. (汽車は一時間五十哩の速度で走つた)。

練習:—86. 上の文を解し易きよう書き改めよ。

The camel is often called the “ship of the desert.” As the desert is¹ like a sea, and the green spots upon it like islands, so is² the camel like a ship, that can carry the traveler from one point to another, quickly and safely.

【遠】 駱駝は屢々 (often) 「沙漠の船」 (the “ship of the desert”) と申されます (is called) 沙漠は海の如く (is like a sea) 沙漠中の (upon it) 青々した場所 (the green spots) は島の如くてす (is like island) が、丁度其通り (As.....so) 駱駝は舟の如く (like a ship) てあります (is²) 其舟は (that) 旅人を一の地點から (from one point) 他の地點へ (to another) 輸送する事が出来る (can carry) 迅速に (quickly) 且 (and) 安全に (safely)。[そう云ふ船のやうです]。

【註】 the “ship of the desert” 「沙漠の舟」。譬喩なり。

例:—Japan is often called the “England of the East.”

(日本は屢々「東洋の英國」と稱せらる)。

As—is like.....¹, so is—like.....² 「——が.....¹の如くなる如くに又——は.....²の如くである」。

類例:—As London is to England, so is Tokio to Japan.

(東京の日本に於けるはロンドンの英國に於けるが如し)。

= What London is to England, that is Tokyo to Japan.

= Tokyo is to Japan what London is to England.

quickly and safely 二語共、carry に屬する副詞。

sea (シー) 『海』

islands (アイランド) 『島』 [名] 複

carry (キャリ) 『運ぶ』 [動]

point (ポイント) 『點』 [名]

But even with his faithful camel, the traveler does not care to cross the desert alone. The difficulties of keeping in the right track, and the fear of wild Arabs, make it much safer for a number of travelers to cross the desert together.

【譯】 然るに旅人は 旅人に忠實な駱駝 (his faithful camel) と 一所でも (even with.....) 單獨で (alone) 沙漠を横切 (cross) ることを好みませぬ (does not care to) 正しき路 (the right track) を辿り行くこと (keeping in) が 困難なこと (the difficulties) 且兇猛なアラビヤ人 (wild Arabs) を怖れる念 (the fear) と て旅人が多勢一所に (a number of...together) 沙漠を越えた方が (it.....to—) 遙かに安全 (much safer) であるのです (make)。

【註】 even with..... 「.....と一所でも」
does not care to..... = does not like to.....

練習:—87. 下の文は正しきか。
Do you care to go abroad?
Yes, I care very much to go abroad.

make it much safer make の主格は difficulties (困難) と fear (恐怖) との二つなり、此の二つの事あるがために.....した方が安全である(=此二つの事が安全になす) となり。

for—to..... 「—が.....する」と譯する方よろし。

track (トラック) 『足跡』 『通路』	Ar'abs (アラブズ) 『アラビヤ人』
〔名〕	〔名〕 複
fear (フィーア) 『恐れ』 『氣遣』	sa'fer (セィファ) 『更に安全な』
〔名〕	〔形〕 safe の比較級
wild (ワイルド) 『野蠻なる』	
〔形〕	

例:—It may be easy for you to study English.

(君が英語を研究するは易しいことだらう)。

注意 本文の場合にて、make it.....の it を脱すべからず、此 it は to cross... の noun infinitive を代表する formal subject で、to cross..... の一句に代つて make の目的格に立てるなり。

{ To learn a foreign tongue is difficult.
= It is difficult to learn a foreign tongue.

上の文にては「外國語を學ぶこと人困難なり」と一般的に云ひたるなり、今若し、お前にはと人を制限すれば
It is difficult for you to learn a foreign tongue.

Travelers take with them camel-drivers and men who know the way, to look after the beasts when they stop for the night.

【譯】 旅人は 駱駝遣 (camel-drivers) と 道案内の人々 (men who know the way) と を連れて行く (take with them)、夜になつて止まる (stop for the night) 時 (when) 駱駝 (the beasts) の世話 (look after) をさせんが爲めに。

【註】 take with them..... 「.....と一緒に連れて行く」

例:—I will take you with me to Hakone.

(私はお前を私と一緒に箱根へ連れ(行きませう)。

to look after..... 「.....を世話する」「.....を監督する」此句は drivers にも men にしかゝる。

例:—Children must be looked after.

(子供には世話を見てやらなければ可かぬ)。

the beasts 「獸」駱駝をいふ。

light (ライト) 『ともす』 [動]

skin/-bōt/les (スキンボドルズ) 『皮

cook (ック) 『料理する』 [動]

革』 [名] 複

stop for the night 「夜を過ごすために止まる」なり。

例：—May I stay here *for the night*. (今夜此處へ泊まつて可いかね)。

類例：—*A guest for the night?* 「泊り客」。

These men light the fires, cook the food, and fill the large skin-bottles with water when they come to a spring.

【譯】 此人々 (these men) は火を焚き (light the fires) 食物を調理し (cook the food) そして一行 (they) が泉の處に來た (come to a spring) 時は大きな革製の水筒 (the large skin-botted) に水を (with water) 一杯注ぐ (fill) やうなことをいたします。

【註】 light the fires light は動詞なり、「燭す」「明るくす」など。「火を起す」は *make a fire* といふ。

fill—with…… 「……でもつて——を満たす」、「——に……を一杯入れる」。

例：—*fill the sack with rice!* この袋に米を一杯に入れる。

The travelers, camels, and camel-drivers, together, form what is called a caravan.

【譯】 旅人と、駱駝と、駱駝追ひとが、合して (together) 所謂 (what is called) 隊商 (a caravan) なるものを組織します (form)。

【註】 a caravan 「隊商」。商人等旅行安全を期する爲めに一隊を成すものをいふ。

練習：—88. traveler と綴る人もあり、誤なりや。

eär'ä-vän (キアラヴァン) 『隊商』 【名】

LESSON

XXXIX.

NOVEMBER.

十一月

The leaves are fading and falling,
The winds are rough and wild,
The birds have ceased their calling,
But let me tell you, my child,

【譯】 木の葉 (The leaves) は凋み (fading) 散り落つる (falling)、
風 (The winds) は烈しく暴れ狂ひ (rough and wild)、
鳥 (The birds) は其の音 (their calling) を止めけり (have ceased)、
されど (But) 我子よ (my child) よく聞きね (let me tell you)、

LESSON XXXIX-

leave (リーヴ) 『葉』 【名 leaf の複】

fād'ing (フエイディング) 『褪色する』、

『凋む』 【動 fade の現在分詞に

して形容詞の働】

fāl'ing (フォーザング) 『落つる』。

【動 fall の現在分詞】

rougħ (rūf ろフ) 『荒き』 【形】

wild (ワイルド) 『烈しき』 【形】

【註】 are fading and falling 「凋落しつゝあり」 f の頭韻を注意。
 ceased (てィースド)=stopped.
 calling 「呼ぶこと」、「囀ること」
 let me tell you=hear me 「余をして告げしめよ=我言を聴け」
 my child 讀者に對して作者が云ふなり。親愛の意を含ましめ且つ
 wild と韻を合せしめんが爲めに my child と云ひしなり。

Though day by day, as it closes,
 Doth darker and colder grow,
 The roots of the bright red roses
 Will keep alive in the snow.

【譯】 たとへ (Though) 暮れ行く一、日毎に (day by day as it closes),

暗さ寒けさ増し來 (darker and colder grow) とも (前の
 Though にかゝる

色も冴えたる (bright) 紅薔薇 (red roses) の根 (The
 roots) は、

生きてぞ潜む (Will keep alive) 雪の中 (in the snow)。

【註】 day day 「毎日」「日々」など。
 as it closes 「その日々の終るにつれて」=「夕刻になるに連れて」
 Doth=does の古文體。詩なれば古雅の詞遣を用ふ。
 Doth darker and colder grow = grows darker and colder. 「次第に暗
 く寒くなりまゐる」

練習:—89. 上文を散文に改めよ。

And when the winter is over,
 The boughs will get new leaves ;

rēd (レド) 『赤き』 [形]

rōs'es (ロッセズ) 『薔薇』 [名]

bōug's (ボウズ) 『枝』 [名]

The quail come back to the clover,
 And the swallow back to the eaves.

【譯】 かくて (And) 冬過ぎ (the winter is over) ぬれば
 (when),

小枝 (The boughs) は吹くなり (will get) 若葉をば
 (new leaves),

鶉 (The quail) はつめぐさ (the clover) に歸り來む
 (come back to),

燕 (the swallow) は軒 (the eaves) [の古き巢]に。

【註】 And the swallow come back to the eaves として come を
 入れて見れば意味が明瞭になる。

The robin will wear on his bosom
 A vest that is bright and new,
 And the loveliest way-side blossom
 Will shine with the sun and dew.

【譯】 駒鳥 (The robin) は胸に (on his bosom) 著くべ
 し (will wear),

華美嶄新の (that is bright and new) 胴衣 (a vest) をば、
いと可愛らしき (the loveliest) 路傍の (way-side) 花
 (blossom) は

輝かん (will shine) 太陽と露 (the sun and dew) とにて
 (with)。

quail (クワイール) 『鶉』 [名]

elō'vēr (エロヴヱア) 『オランダゲン
 ゲ』 [名]

swal'ōw (スワロウ) 『燕』 [名]

eaves (イヴズ) 『檐(ノキ)』 [名]

vest (ヴェスト) 『チョッキ』 [名]

love'li-est (ロヴリエスト) 『最も可愛
 らしき』 [形 lovely の最上級]

wāy'-sīde (ウェイサイド) 『路傍の』
 [形]

blos'som (ブロッサム) 『花』 [名]

dew (ドュー) 『露』 [名]

【註】 the loveliest..... 「最も愛すべき」 lovely「愛らしき」の最上級なり、lovely; lovelier; loveliest. yがiに變ずるに注意せよ。

with the sun and dew 花の上に露が下りて居る其處に太陽が當れば花が如何にも美しく輝くところをいつたのである。

The leaves, to-day, are whirling,
The brooks are all dry and dumb;
But let me tell you, my darling,
The Spring will be sure to come.

【譯】 今日 (to-day) 木々の葉 (The leaves) は渦を捲き (are whirling),

小河 (The brooks) は涸れ (dry) て音も無し (dumb) されど (But) 我子よ (my darling) 我れ告げん (let me tell you),

春 (The Spring) は必らず來るべし (will be sure to come)。

【註】 dumb 「哑の」、「沈黙して」

my darling = my dear child.

The Spring 「春」を擬人したので大字で書けり。

will be sure to come be sure to = surely 「確かに」「屹度」「間違なく」

例:—He will be sure to succeed. (彼は屹度成功する)。

There must be rough, cold weather,
And winds and rains so wild;
Not all good things together
Come to us here, my child.

whirling (ワールィング) 『廻る』 〔動 whirl の現在分詞〕	darling (ダーリィング) 『寵愛するもの』〔名〕
brooks (ブックス) 『小河』〔名〕	rains (レインズ) 『雨』〔名、数〕
pumb (だむ) 『哑の』『黙せる』〔形〕	

【譯】 來れ (There must be) 酷寒の (rough and cold) 季候 (weather),

暴るゝ (wild) 風 (winds) 暴るゝ雨 (wild rains) も 好き事のみ (all good things) 舉りて (together)

現世 (here) には來じ (前段の Not と come to us) 我子よ。

【註】 There must be..... 「.....がなくてはならぬ=さアしろしい來るべし」となり。

weather は「天氣」の外「季節」、「季候」の意に用ふ。

And winds and rains so wild = And such wild winds and rains.

here in this world 「現世」、「此世」

練習:—90. 上の一節を散文に改めよ。

So, when some dear joy loses
Its beauteous summer glow,
Think how the roots of the roses
Are kept alive in the snow.

【譯】 されば (So) 或る樂しき喜び (some dear joy) の 美しき (beauteous) 光り (glow) 消え (前行の loses) もせば (前行の when)

思へ (Think) ばらの根如何にして (how) 雪の中に生ける (Are kept alive) かを (前段の how)。

【註】 beauteous = beautiful 詩歌に用ふる文字なり。

are kept alive 「生きたまゝに保存されてある」

dear (デアア) 『愛する』『大切な』〔形〕	beau'ti-ous (ビューティアス) 『美はしき』〔形〕
joy (ジョイ) 『悦しき』〔名〕	glow (グロウ) 『光彩』〔名〕
lose's (ロース) 『失ふ』〔動〕	sum'mer (サマ) 『夏』〔名〕

LESSON XL.

SPONGE-FISHING.

海綿採取

“Where do sponges come from, I wonder,” said Roy, as he sat by the window, cleaning his slate with a bit of fine sponge. “What are they made of?”

【譯】「海綿 (sponges) は何處から取れるの (Where do—come from) かしら (I wonder)」とロイが申しました。窓の側に (by the window) 坐つて (as he sat) 美しい (fine) 海綿きれの片 (a bit) で (with) 自分の石盤 (his slate) を拭きながら (cleaning)。「海綿 (they) は何て出来てるのでせう? (What are—made of?)」。

【註】 Where do sponges come from 「海綿の出るのは何處か」 come from…… は其物の出處を示すに用ふ。

練習：—91. 下文を英譯せよ。
東京の蜜柑は大抵紀州です。

LESSON XL.

sponges' (スポンヂズ) 『海綿』。〔名〕
fish'ing (ふいしんぐ) 『漁獵』。〔名〕
wond'er (うあんだ) 『怪しむ』。〔動〕
clean'ing (クリーニンク) 『清くする』 『拭く』。〔動 clean の現在分

詞】

Roy (ロイ) 『人名』。〔固名〕
slate (スレート) 『石盤』。〔名〕
win'dow (ラインドウ) 『窓』。〔名〕
bit (ビット) 『切れ端』 『片』。〔名〕
fine (ファイン) 『宜き』。〔形〕

I wonder 「私は怪しむ」と譯さず *I wonder* を以て邦語の「……かしら」、「……かなア」などの意に解すべし。

例：—

How far has the ship sailed by this time, *I wonder*. (船は今頃どの邊迄行つたらう)。

練習：—92. 下文を英譯せよ。
ハテナ、僕は及第したかしらん

cleaning 「拭きながら」。日本語の「掃除する、拭ふ、ふく、清潔にする」は孰れも “clean” にて示さる。

Clean the room. (部屋を掃除しろ)。

Clean the blackboard. (黒板をふけ)。

練習：—93. 次の文は誤なりや、誤ならば如何に訂正するや。
「テーブルに着いて居る墨を拭き取りなさい」—“Clean the ink on the table.”

What are they made of? 「何て出来てるのですか」。材料の原質を全く變ぜしめて造る場合は *made from* を用ふ。

“Made of?” said Aunt Mary. “Why, they are the bones of animals.”

【譯】「出来てるって (Made of?)」とメリー伯母さんが申しました。「それやお前 (why) 海綿は (they) ね、動物の骨 (the bones) ぢゃないか (前の why 此意含む)。

【註】 “Made of?” 前に Roy が *What are they made of?* と云つたのを伯母さんは直ぐその言葉後を捕へて聊か驚いた體にて *Made of?* と言ひしなり。

Why 「無論……だらうぢやないか」と云ふ意外の意味を表はす反問の形。

例：—Who is that noble-looking person?—*Why*, he is no less than Prince

Aunt Märy (あーんとめいり) 『メイ | bone (ボーン) 『骨』。〔名〕
リお叔母さん』。〔固名〕

Fushimi. (あの貴い御様子の方は誰方?)—(アレはお前勿體なくも伏見の宮で在しやるよ)。

“Why, what do you mean, Aunt Mary? I never saw any animals that looked like sponges.”

【譯】「マア (Why) 伯母さんは何と仰るの? (what do you mean, Aunt Mary?) 私はこれまで海綿のやうな風體ふうたいをしてゐる (that looked like sponges) 動物はチツトモ (any animals) 見たことがありませぬ (never saw)。

【註】 What do you mean 「何のことを云ふつもりですか=何のこと云つてるの」先方の詞の意味が疑はしい故反問する形。

I never saw = I have never seen 「今迄に見たことはない」 have never seen の形よりも、never saw の形の方多く用ゐらる。

“I suppose not,” said Aunt Mary; “because they all grow on the bottom of the sea and do not look then as they do when you see them.”

【譯】「そりやありますまいよ (I suppose not)」とズリ—伯母さんが申しました、「だつて (because) 海綿 (they) は皆んな (all) 海の底に (on the bottom of the sea) 出来る (grow) もので (and) 海の底にある時は (then) ロイちゃんが見る時に (when you see them) して居る姿 (as they do) をしては居りません (do not look) もの (前の because にかゝる)」。

【註】 I suppose not = I suppose you never saw them. as they do when you see them お前が平生海綿を (them) 見る時海

mēan (みあん) 『意味する』動] ば』接]
bē-cause (ビコーズ) 『何故と云へ

綿が見える (do=look) やうな鹽梅に (as) [海底に在る時は見えぬ] となり。今 and 以下を書き改むれば and when they grow on the bottom of the sea, they look quite different from the shapes you are accustomed to see.

“How do they look then?” said Roy.

“Well, they grow in many beautiful forms, of different sizes and shapes—like a cup, a top, a ball, and sometimes like branches of small trees.

【譯】「ては海の底にある時は (then) どんな風なのですか (How do they look?)」とロイが申しました。

「さようさ (Well)、海綿 (they) は色々な美しい容かたち (many beautiful forms) をして (in) 出来ます (grow)、大きさ (sizes) も色々 (different) あれば形状 (shapes) も千差萬別 (前の different) です—コップのやうな (like a cup) もの、獨樂 (a top) のやうなもの、鞠 (a ball) のやうなもの、小さい木の枝 (branches) のやうなものも時には (sometimes like) あります。

【註】 grow in..... 「.....の形態を成して生成す」 in は形態を示すに用ふ。

練習:—94. 上文の different sizes の前に of のある理由如何。

forms は「外廓全體上の形」。

size は「大きさ」。

shape は「様子、恰好」。

“They have a soft flesh, like jelly, which covers a

sīz/ez (さいゼズ) 『大きさ』名]

flesh (フレシ) 『肉』名]

jəl/zj (ジェル) 『果物又肉類を砂糖に

て煮詰めたもの』名]

bony frame-work of horny fibers. Some are red, some green, and others yellow.”

【譯】「海綿 (They) には糖煮果汁 (jelly) のやうな、軟かい肉 (flesh) があつて、その肉 (which) は角質の纖維 (horny fibers) で成立って居る骨格 (a bony frame-work) を包んで居ります (covers)。赤いのもあれば (Some are red)、青いのもあるし (some green)、又黄いのもあります (others yellow) ます」。

【註】 flesh 骨に対して云ふ「肉」なり。 meat は「食用の肉」を云ふ。 bony 「骨のような」。 bony 「骨」の形容詞。 framework 家ならば、柱、梁等、(壁や天井ならぬ) 人の身體なば、骨(筋肉ならず)、總て、物の骨子となるもの。 horny 「角質の」。 horn 「角」の形容詞。 some green = some are green. others yellow = others are yellow.

“ Then they must look like plants ?” said Roy.

【譯】「それぢや (Then) まるで植物 (plants) のやうでせうね (must look like—?)」とロイが云ふ。

【註】 must look like.....? 「.....のやうに見えるに相違ない=吃度さう見えるでせうね」の意なり。

“ Yes, but they are not plants. For a long time they were thought to be plants ; but now, those who

bōn'y (ぼん) 『骨の』。 [形] | fi'bers (ふぁイバズ) 『纖維』。 [名、複]
hōrn'y (ほん) 『角質の』。 [形] |
frāme'-wōrk (フレィムウァーク) 『組織』。 [名] | yēl'ōw (えロウ) 『黄色の』。 [形]

have watched them longest and with the greatest care, say that they are animals.”

【譯】「えい (Yes)、[植物のやうで居て]それで (but) 植物ではないのです。 久しい間 (For a long time) 海綿 (they) は植物だと (to be plants) 思はれて居ましたが、今では (now)、一番長く (longest) しかも (and) 一番念入りに (with the greatest care) 海綿を (them) 調べた (have watched) 人達 (those) が、それは (they) 動物だと云つて居ます (say that)」。

【註】 they were thought to be.....=people thought them to be 「.....であると思はれた=世間の人々の方では.....であると思つた」なり。 those who have watched = those men who have watched. watch = observe 「観察する」。

“ How do they catch them ?” said Roy, who began to think about the way fish are caught.

【譯】「如何して (How) 人が (they) 海綿を (them) 捕る (catch) のですか」とロイが云ひました。 ロイは (who) 魚 (fish) を捕る方法 (the way) を思ひ出した (began to think about) のです。

【註】 the way fish are caught = the way in which fish are caught = the way in which people catch fish 「魚が捕へらるゝ法=魚を捕る法」。 fish fish は fishes となること極めて稀れなり、大抵の場合單數、複數、共に fish として用ふ。

lōng'est (ロングエスト) 『最も長』。 [形] | の』。 great 最上級
long の最上級 | |
grēat'ēst (グレイテスト) 『最も多大 | | care (ケア) 『注意』。 [名]
| | | | cārch (キァチ) 『捕へる』。 [動]

"If the water is not too deep, men stand in a boat over the place where they are growing and tear them off the rocks below with long spears."

【譯】「若し水が餘り深く (too deep) なければ、人々は海綿 (they) の生へて居る (are growing) 處の上に (over the place where) 舟を浮べて、上から長い槍で (with long spears) 下方の (below) 岩石から (off the rock) 海綿を (them) 斷り取る (tear) のです」。

【註】 is not too deep (for the purpose) 「(さうするのに) 深過ぎない」
stand in a boat over..... 「小舟を.....の真上に浮べてその中に起つて」。

off を rocks の方へ着けて讀むべし。

比較 { Sea-weeds grew on the sides of the ship. (船の兩側に海草が生えた)。
Tear the sea-weeds off the sides. (其海草を船側から切りとれ)。

"But if the water is very deep?"

"Ah, that is the most interesting part of all. Then, men have to dive down to the bottom and cut them off the rocks with sharp knives."

【譯】「ても (But) 若し水が大變に深かつたら [どうします]?」。

「サア (Ah)、さう來れば (that) 何よりも一番面白い (the most interesting part of all) んです。其時には (Then)

dēep (でいーぷ) 『深き』。〔形〕

rōck (ろく) 『岩』。〔名〕

lē-lōw' (でろ) 『下に』。〔前〕

in'tēr-ēst-ing (いんたレステイナク) 『興味ある』。〔形〕

dive (だいが) 『潜る(水に)』。〔動〕

knives (なイヴズ) 『小刀』。〔名 knife の複〕

人々が海の底へ (to the bottom) 潜つて行 (dive down) つて鋭利なナイフで (with sharp knives) 岩から海綿を (them) 截り取 (cut off) らなければなりません (have to)。

【註】 But if the water is very deep? = But if the water is very deep, what will they do?

the most interesting part 「最も面白き部分」。

of all 「總ての中で」と the most interesting を強めたのである。

have to..... = must.....

sharp 「鋭利なる」。

例:—Is this knife sharp?—No, it is dull. (此ナイフは切れるか—イヤ、ナマクラだ)。

knives 「ナイフ」の複數、單數は a knife なり、k は黙音。

"Why, how can they do that?"

"They are trained to the work, and can easily dive down to the bottom—a distance of sixty feet or more."

【譯】「まア (Why) そんな事を (that) 如何して (how) やれるてせうか (can they do?)」。

「其れを行る人 (They) はその仕事 (the work) を仕込まれて居ます (are trained to) から (and) 雜作もなく (easily) 海底へ潜つて行けます—六十尺以上も (sixty feet or more) あるところ (a distance) を。」

【註】 are trained to..... 「.....を仕込まれて居る」「.....に馴れて居る」。

例:—Japanese sailors are well trained to marine services. (日本の水兵は海上勤務に熟練して居る)。

sixty feet or more 「六十呎又はそれ以上も」。

"When the boat is right over the place where the

trained (ドレインド) 「(前の are

と合して) 鍛えられて居る」。

過分

ea'si-lī (いーズイヴ) 『容易く』。〔副〕

“ He searches about among the rocks and cliffs and cuts off, with great care, the nicest sponges he can find, and puts them under his arms, or into a sack.

【譯】潜水者(He)は岩石や崖(cliffs)の間を(among) 彼方此方と捜し廻り(searches about) 飛切美麗な(the nicest) 海綿を丁寧に(with great care) 切り取(cut off) つて小脇に(under his arms) 抱へるか(or)、囊(a sack) に入れます(puts into)。

【註】 searches about..... 「.....彼方此方と探し廻る」
among..... 「.....の間」を。前の about [here and there の意で副詞、此 among は前置詞なり。
with great care=very carefully.
the nicest—he can find 「看出し能ふ極美なもの=掘り抜きもの」
例:—You can not have a better teacher than he=He is the best teacher you can ever have.
puts them(=the nicest sponges) under his arms 「小脇に抱える」
or [puts them] into a sack.

“ When he has gathered as many as he can, he pulls the rope, and the men in the boat haul him and his load of sponges up to the surface as quickly as possible.”

【譯】潜水者(he)が出来るだけ澤山(as many as he

sēarches (さーチズ) 『捜がす』
[動]
clif/s (クリフス) 『崖』 [名]
cūts (カツ) 『切る』 [動]
ārms (あームズ) 『腕』 [名、複]
sāck (サク) 『袋』 [名]
pul/es (プルズ) 『引く』 [動]
haul (ほール) 『タゲル』 [動]

can) 採集する (has gathered) と (When) 彼は例の綱 (the rope) を引きます (pulls)、すると (and) 小舟に居る人々 (the men in the boat) が潜水者 (him) と海綿の荷 (his load of sponges) とを出来るだけ手早く (as quickly as possible) 水面へ (to the surface) 引揚げます (haul up)。

【註】 as quickly as possible=as quickly as they (=the men in the boat) can.

haul は重きものを「曳く」意。

“ How do they get the flesh off?” said Roy.

【譯】「肉 (the flesh) は如何して (How) 除る (get off) のてすか」とロイが申しました。

【註】 they 「人々」の意、邦語には斯くの如き場合「人々」と云ふ必要なし。
get—off 「—を取り除く」

“ They bury them in the sand till the flesh decays and then they wash them in acid and water, till they are clean and fit to sell.”

【譯】「肉が腐る (decays)迄 (till) 砂の中に (in the sand) 海綿を (them) 埋め (bury) て置いて肉が腐つたら (and then) 酸水 (acid and water) の中に入れて洗ひ (wash) 流せば、終ひには清潔な (clean) ものになつて賣れるやう (are fit to sell)」。

bur/y (běry べり) 『埋める』 [動]
dē-cāys' (ディケイズ) 『朽ちる』 [動]
wash (ウオシ) 『洗ふ』 [動]
acid (アシド) 『酸』 [名]

【註】 They bury them in..... 「人々が海綿を.....の中に埋めて置く」

decays 「腐敗する」「腐蝕する」

参考:—a decayed tooth (虫歯)

acid and water=acid mixed with water 「水を混和した酸」=「鹽酸水」

[are] fit to sell. 「賣るに適す」、此場合 fit to be sold と云はざるが常例なり。例:—A house to let. (貸家)。[A house to be let. とする人もあれども前に示したる—Water to drink. と同じ構造にして受身にせずともよし。]

Roy sat still for a long time, looking at the piece of sponge he had in his hand.

【譯】 ロイは長い間 (for a long time) 黙つて居りました (sat still)。手に持つてる (he had in his hand) 海綿の片 (the piece) を見ながら (looking at)。

【註】 sat still 「静かに黙まつて坐つた」と正直に譯す必要なし、sat=was の意に解く方邦語に一層好く當る。

At last he said softly, to himself, "Sponges, animals? No eyes, no ears, no hands? What funny things!"

【譯】 遂々終ひに (At last) ロイは詞静かに (softly)、獨言を言つた (said to himself)、「海綿が、動物だつて? 目もなく、耳もなく、手もないの、ナンテ (What) 變な (funny) もの things) だらう!」

【註】 said to himself 「獨り言を云つた」

例:—He said to himself, "This is very nice, indeed." (「これは實にうまい」と彼は獨言を云つた)。

animals? =are they animals?

[Have they] no eyes, no ears, no hands?

still (ステイル) 『静に』 [副]

an'i-māls (アニマルズ) 『動物』 [名]

LESSON XLI.

TABLE MANNERS.

食事の作法

"George, I am going to eat my supper by myself, after this," said little Harry.

【譯】 「ジョージ[兄]さん、私はもうこれからは (after this) 獨りて (by myself) 御飯を食べ (eat my supper) る積りてす (am going to)」と[弟の]ハリーさんが云つた。

【註】 George 英米では兄弟間でお互に呼び合ふ時に直ちに名を呼んでしまふ、本文に於て George は Harry の兄なり。

am going to..... 「.....する積り」

練習:—96. 下文を英譯せよ。

君は何になるつもりか。—飛行家になるつもりだ。

supper 「夕飯」「晚餐」七時頃食する家多し。

注意 食事の名稱は家によりて異なる。朝飯を breakfast と云ふことは皆然れども、晝飯は、之を正餐(一日中最も御馳走のある正式の食事)とする家にては dinner にして然らざる家庭にては lunch なり。而して夕飯は正餐とする家にては dinner にして然らざれば supper なり。朝飯は八時、晝飯は一時、夕飯は七時頃を普通とす。

by myself 「獨りて」。他人と一所でなく、一人別になつての意。

例:—They were talking by themselves. (彼は別になつて話して居た)。

LESSON XLI.

tā'ble (テーブル) 『食卓』 [名]

mān'nērs (マナーズ) 『行儀』 [名]

sup'pers (さばズ) 『夕食』 [名]

Har'rī (ハリ) 『人名』 [固、名]

āf'tēr (アフタ) 『後』 [前]

after this = after this time = hereafter 「今後」、「以後」

例:—I will be more careful after this. (私はこれからはモット注意を致します)。

“I don't believe you will,” replied his brother.

【譯】 「[さう云つても] お前が獨りて御飯を食べる (you will) といふことは出来ませぬよ (I don't believe) とハリーの兄さん (his brother) が答へました (replied)。

【註】 I don't believe you will = I don't believe that you will eat your supper by yourself.

英語にては打消の意味を含む時、例へば「……しないと思ふ」と云ふ時、think の前へ打消を附して「……すると思はぬ」と云ふ言ひ方が普通なり。

例:—I don't think he can pass. (私はあの人は及第しまいと思ふ)。

Replied answer は問に對する答辯にして、reply は必ずしも問はずとも、人の言葉に應ずる意。

“Then I wish every one would stop scolding me at table.”

【譯】 「それぢや (Then) 御飯の時に (at table) みんなが (every one) 私にお小言いふ (scolding) のを止め (would stop) て欲しいんです (I wish) 」。

【註】 I wish—would…… 「—が……して載きたい」など願望を表はすに極めて丁寧なる言ひ方なり、I wish you to……は「……して貰いたい」位のところで極めて簡略の言ひ方なれば普通用ゐず、I beg you will…として願望の意を言ひ表はす方、目上の人などに對する時は必要なり。

scolding 「小言いふこと」

bē-līēv' (ドリーヴ) 『信ずる』。[動]

scōld'ing (スコールドイング) 『叱ること』。[動、scold の gerund 動詞]

stop の目的となりて名詞の働をなす

stōp (ストップ) 『止める』。[動]

注意 stop の如き中止の意の詞の後には gerund 即ち、ing の形を用ふ。at table 「食卓について食する時」の意なり。

Harry seemed to be unhappy and anxious to have his elder brother help him bear his trials.

【譯】 ハリーは情無さそう (seemed to be unhappy) てまた (and) 兄さん (his elder brother) に自分の難儀 (his trials) を堪へるのに同情を寄せて貰いたい (anxious to have……help him bear) らしかつた (seemed to be)。

【註】 anxious to…… 「どうかして……したい」切なる望を言ひ表はす。「案じる」、「心配する」には anxious about……を用ふべし。

比較 I am anxious to know the result. (私は結果が知りたいものだ)。
I am anxious about his welfare. (私は彼の安否が氣遣はれます)。

have—help him 「—に彼を助けさせる」=「—に彼を助けて貰ふ」意。ハリーの立場より言ひなせば「兄さんに自分を助けて貰ふ」となり。

注意 help と云ふ動詞の後には infinitive の to を省くこと多し。

例:—I'll help you put your room to rights. (手傳つて部屋を片付けてやらう)。

him bear his trials him も his も共にハリーのことである、故に his を譯さず「難儀を忍ぶ (bear) 自分を (him)」となる、されば to have……trials までにて「難儀を忍ぶ自分を兄さんに助けて貰ふ」即ち、譯文に示すが如く「同情を寄せて貰ふ」意となるなり。

“Why don't you try to get along at table, and do as you are told?” inquired George, although he was

ānx'ioŭs (ānk'shŭs) 『あンクシアス』

『切望する』。[形]

el'dēr (エルダ) 『上位なる』。[形]

bēâr (ベア) 『堪へる』。[動]

trī'alz (ドリアルズ) 『苦しさ』

[名]

al-thōugh (オルゾウ) 『假令とは云

へ』。[接]

somewhat moved by Harry's sorrowful looks.

【譯】「何故 (Why) お前は御飯の時にチャン々々として (to get along) そして云はれた通りに (as you are told) しないのですか」とヂョーヂは尋ねました (inquired)、が (although) ヂョーヂは (he) 少しく (somewhat) ハリーの憫然な (sorrowful) 様子 (looks) が氣の毒になりました (was moved by)。

【註】 get along = proceed duly 「順序よくする」, 「行儀よくする」
do as you are told to do 「[しると] 云はれた通りにする」
前の don't you につづく
, although although = though. , の次の though は but の意に解してよるし。

練習: -97. 下文を英譯せよ。
聴衆は彼の演説に深く感動せり。

“But I am told so many things! Last night, father scolded because I was too far away from the table. Then to-night, he scolded because I was too close.”

【譯】「だって (But) あんなに色々な事 (so many things)

some'what (さむらうオット) 『幾分か』
[副]
moved (むーヴド) 『心を動かさる』
[動、move の過去分詞 was に合して passive となる]
sōr'fū-ful (そらふル) 『悲しそうな』
[形]
ōok: (おックス) 『顔付』
[名]
elōse (えろっす) 『接近して』
[形]

を云はれるんだもの、昨夕 (Last night)、お父さんは私が食卓から離れ過ぎて (too far away from) 居るつて (because I was) お小言を云ひました (scolded)。 また (Then) 今夜 (to-night) は、私が餘んまり接近過ぎて (too close) 居るつて (because I was) お父さん (he) はお小言を云ひました。

【註】 father 「私のお父さん」と特に云ふ場合を除き、普通に「お父さんが……」などいふ場合には “Father……” と云ひ出して、The father とか My father とか云ふの要なし。

例: -Father wants you. (お父さんがあなたを呼んでゐらつしやる)。

because I was…… 「私が……でありし故 = 私が……であるからとて」
too close = too close to the table.

“That's all right, Harry; last night you took your supper in your lap, and to-night you jogged the table so that you spilled water from the glasses.”

【譯】「其れは尤もな事です (That's all right) ハリー、昨日の晩お前は膝の上で (in your lap) 御飯を食べた (took your supper)、そして今夜は食卓をガタ々々揺ぶった (jogged) ものだから (so that) お前は洋盃の水を零しました (spilled water from the glasses)。

【註】 That's (=That is) all right 「それは一向差支ない = 當然だ」
lap 食事に用ゆふ膝掛の類をいふ。

jogged' (じョグド) 『軽く動かす』
[動、jog の過去]
spilled' (スピルド) 『溢れたる』
[動、spill の過去]
spill の過去
gläss'ez (グラスエズ) 『ガラスのコップ』
[名]

water 西洋にては食事の際各自に洋盃に水を備へて之を飲む。

“Yes, George, that's so, but you know I didn't mean to do it.”

“Why did you laugh, then?”

【譯】「エ、兄さん、其れやそうです (that's so)、けれども私しや「故意と」さうする積りはなかつた (didn't mean to do it) の ですもの (you know)。」

「それでは (then) 何故笑つたのです?

練習:—98. 下文を英譯せよ。
母辨し賜へ、僕はワザとしたんぢやないんだ。

“I could not help laughing at first. I tell you, though, I didn't like the scolding I got afterwards,” said Harry.

【譯】「私しや (I) 初めは (at first) 如何しても笑はずに居られなかつた (could not help laughing) の です。ナル程 (though) 後て (afterwards) 叱られて (the scolding I got) ほんとは (I tell you) 詰らなかつた (I didn't like) けども (前の *though* に含む)」とハリーが申しました。

【註】 could not help laughing = could not but laugh 「笑はずには居られなかつた」、「笑はざるを得なかつた」。

例:—I could not help crying. (泣かざるを得ざりき)。

at first 「最初は」 後に「然し後には」といふ意味の語来るが常なり。
I tell you I can tell you などと同じく「實に」の意なり。

ˌɑ:ftər-ˈwɔ:rdz (アフターワーズ) 『後に』 【副】

the scolding I got 「叱られる」といふことを get scolded といふ、其の get をとりてこゝに用ひ「受けたお叱言」。

練習:—99. 下文を get を用ひて譯せ。
僕は飛行器を造へるので手を怪我した。そして父さんにウンと叱られた。

“You had better sit close to the table after this; but not so near as to touch it,” said George.

“I'll try to, George.”

【譯】「お前これから (after this) 食卓に近寄つて居 (sit close to) た方が可い (had better)、ても (but) 食卓に觸る程近寄 (so near as to touch it) つては可けません (not) とヂューヂが云つた。「さうしませう (I'll try to) 兄さん」。

【註】 You had better..... 「君は.....した方がいゝ」 勧告の詞なり。

例:—You had better give up drinking. (君は禁酒した方がいゝ)。

but not..... = but [do] not [sit].....。

so near as to..... 「.....する程に近く」。

touch 「觸れる」。

参考:—Visitors are requested not to touch the articles.

(物品に手を觸るべからず)。

I'll try to = I will try to do so.

“I say, Harry, while I think of it, I want to ask a favor of you?”

“What is it?”

【譯】「オイ (I say) ハリー、次手に (while I think of it) 何かの好意を (ask a favor) お願いしたい (I want to ask) んだけど (I say) 何だ (What is it) か」。

ˌtʌʃ (タッチ) 『觸る』 【動】

fəˈvər (ファヴァー) 『好意』 【名】

of it) 云って置くが、お前に一つお頼みしたい事がある (I want to ask a favor of you) のだが如何だらう?」。

「何ですか」。

【註】 I say 「モン」「オイ」「チヨイト」
while I think of it 「忘れぬ中に」「此次手に」云ふ意なり。

I want to ask a favour of you 「私はあなたにお頼みがある」

注意 ask you a favor となれば「あなたに施しを乞ふ」意となる。誤用せぬ様に注意すべきなり。

“ Try not to make such a noise when you eat your soup, or bread and milk.”

“ Why?” inquired Harry.

【譯】「お前が ソップ を吸つたり (eat your soup, or) ミルクとパン (bread and milk) をの食事する時などあんなに音をさせない様に (not to make such a noise) おしよ (Try)」。

「何故?」とハリーが尋ねました。

【註】 Try not to..... 「.....しない様にせよ」「.....する様にせよ」といふ時は “Try to.....” と云ひ、「.....せぬ様にせよ」といふ時は打消の not が Try の次ぎ to の前に常に入ること注意すべし。

bread and milk 「ミルクとパンにて一食を済ますことあり、フランクリンの朝飯は常に bread and milk なりき。

“ Because it makes me think of pigs when I hear you, and I don't like to have my little brother make me think of pigs.”

soup (スープ) 『ソップ』。〔名〕

『牛乳に浸したパン』。〔名〕

bread and milk (ブレッドンミルク)

pigs (ピグス) 『豚』。〔名、複〕

【譯】「だって (Because) お前が音をさせるのを (you) 聞くと (when I hear) 兄さんは豚のことを思ひ出す (it makes me think of pigs) もの (前々 because へ) そして私の弟 (my little brother) が豚かなんて思はせられ (make me think of pigs) るのは (to have) 可厭だ (I don't like) もの。

【註】 it この it は前の noise を受くるものとも見られ、又た下の when I hear you を受けて「お前の食べる音を聞けばその音が」とも見らるべし。
makes me think of..... 「私をして.....を思ひ出させる＝私はお前に... ..を思ひ出させられる＝お前が豚を連想させる」

練習：—100. 下文を英譯せよ。

此寫眞を見ると中學時代を思ひ出すねい。

I hear you = I hear the noise you make.

“ I won't do it any more, George.”

【譯】「もうこれからは (any more) そんな事 (it) をしません (I won't do)、兄さん」。

【註】 I won't do = I will not do.

“ Is there anything else that you ought not to do at table?”

【譯】「食事の時 (at table) してはならない (that you ought not to do) 事が何か (any thing) まだ他に (else) ありますか (Is there)」。

【註】 you ought not to do 食事の作法上「してはならぬ」「なすべからず」

“ O yes, a great many things!” said Harry.

ought (at をート) 『.....すべき筈で | ある』。〔動〕

【譯】「ありますとも (O yes), 澤山ありますよ (a great many things!)」とハリーが申しました。

【註】 a great many things = very many things.

“ Well, Harry, let me hear about them. You tell me what you ought not to do, and I will try to tell you why not.”

【譯】「ては、ハリー、兄さんにそれを聞かしてお呉れ (let me hear about them)。お前がしてならない事を (what you ought not to do) 私に話せば (tell me, and) 兄さんは (I) 何故いけないかといふことを (why not) お前に話して見やう (will try to tell you)」。

【註】 about them の them は前にハリーが「澤山有ります」と云ひしより其澤山の事々を受けたるなり。

—, and I will..... 「—[のこをせよ] さうすれば私が.....します」。

例:—Work hard, and you shall be well paid. (うんと働けば相當の報酬はして上げます)。

Work hard, and you will succeed. (君勉強すれば成功する)。
why not = why [you ought] not [to do them.]

“ That will be real fun !” said Harry.

“ Father says, ‘ Harry, do keep your elbows off the table. ’ ”

【譯】「其れは眞實に (real) 面白いこと (fun) でせう！」

real (リアル) 『眞の』 [形]

fun (ファン) 『滑稽』『戯』 [名]

elbow (エルボウ) 『肘』 [名]

off (オフ) 『離れて』 [前]

とハリーが申しました。「お父さんが云ひますにや (says) 『ハリー、食卓に肘をついては可けないよ』 (take off your elbow off the table) ツて」。

【註】 real fun 此の場合 real は邦語の助辭の意に譯して「眞に」「實に」等とすべし。fun 「面白きこと」は單數にて、a fun とすることなし。

Father says 「お父さんが申されました」と過去の意にしてよるし。

例:—The doctor says, “ His life is despaired of.”

(醫者は申しました、「彼の方は助かりませぬ」ツて)。

do keep 只 keep とするよりも do keep とする方其意味強きなり。

keep your elbows off the table 「兩肘を食卓から離しておけ」。「食卓に兩肘をつくな」。「クツ着けて居る」は keep.....on——なり。

‘ Harry,.....table ’ 父の言をハリーが取次で云ふものなれば、“ ” にて示さるゝハリーの言の中に更に ‘ ’ の符號を以て父の言を明らかに區別するものなり。

“ It looks so lazy to see a boy with his arms resting on the table. You went to sleep one time and upset your plate,” said George.

【譯】「少年が (a boy) 食卓に (on the table) 腕を載せてゐるのを (with his arms resting) 見るとまことに無情たらしく見えます (looks so lazy)。お前はいつぞや (one time) 眠つちまつて (went to sleep and) 自分のお皿 (your plate) を轉倒した (up set) ことがある」とジョージは云つた。

【註】 so lazy = very lazy.

to see.....table 「テーブルの上に兩腕を載せて居る少年を見る」。

rest.....on—— 「——へ.....を載せて居る」。

Take.....off—— 「——から.....を取れ」。

upset = overturned 「顛倒した」。

“So I did! Then Aunt Mary says, Harry, do stop putting your knife in your mouth.’”

【譯】「さうでした^け (So I did!) それからまたメリー伯母さんは、『ハリー、口の中へ (in your mouth) ナイフを入れるのはお止しなさいよ (do stop putting)』って云ひました」。

【註】 So I did! 「ナル程そんなこと私はしましたよね」。

“Well, Harry, you have your fork to carry your food to your mouth with, and no one likes to see a knife used as a shovel—it is meant to cut with.”

【譯】「さうさ (Well)、ハリー、食物を (your food) 口に (to your mouth) 運ぶために (to carry with) ^{フォーク}肉叉がある (you have your fork)、のですから (and) ナイフを杓子のやうに (as a shovel) 使はれる (used) のを見ちや (to see) 誰れだつていい心持はしない (no one likes)。—ナイフ (it) は物を切る爲めのものです (is meant to cut with)」。

【註】 —it is meant to cut with—the knife is a utensil with which to cut things 「つまりナイフはそれをもって (with which) 物を切るためのものです」となり。—は説明を以下に述ぶる記號。

例:—A pencil is meant to write with. (鉛筆は書くためのものなり)。

“I suppose you know, George,” said Harry; “I

mouth (まウス) 『口』。〔名〕

fork (ふォーク) 『匙』。〔名〕

shov'el (shüv'el) 『シャベル、

匕フノウ』。〔名〕

don't like to see any one put a knife into his mouth, either.”

【譯】「兄さんにも分り (you know) さうなものだ (I suppose) 私だつても (I と either) 他の人 (any one) が口の中までナイフを突込む (put a knife into his mouth) のを見るのは (to see) いやだ (I don't like) 位のことは」とハリーが申しました。

【註】 You know 「貴君だつて知つてゐるでせう=まさかね」。

I....., either 「私だつても」「私も亦」。

not.....either=neither.

例:—(甲) I will not go there. (私は其處へ行きませぬ)。

(乙) Neither will I. (私も行かないよ)。

“Then stop doing it yourself, Harry.”

【譯】「そんなら (Then) 自分から (yourself) さうするのをお止めなさい (stop doing it) ハリー」。

【註】 yourself 「さういふお前自身が」の意。

“I'll try. Mother always says, ‘You must not eat so fast, Harry.’”

【譯】「止めませう (I'll try)。お母さんは何時でも (always) 云ひます、『そんなに早く (so fast) 食べては可^いけませぬ (You must not eat)。ハリー』つて」。

【註】 I'll try=I will try to stop doing it.

“It is bad for your stomach, and will make you sorry when you are older,” said George.

stom'äek (スタマク) 『胃』。〔名〕

sör'ry (ソリ) 『悲しき』。〔形〕

【譯】「早く食べるのは (It) 胃に悪い (is bad for your stomach)、て大きくなつて (when you are older) 後悔します (will make you sorry)」とジョージが云つた。

練習:—101. 下文を二つの云ひ方に譯せ。
君は君の身體に害をするよ。

make you sorry=make you repent 「汝をして悔ましむ=汝は悔恨せん」

when you are older 「老年になつた時に」の意に限らず、今より、older になつた時だから、唯、「將來」の意。

“Then Uncle John says, ‘Harry, you eat too much.’”

【譯】「それからまたジョン伯父さんが云ひました、『ハリーヤ、お前は食べ過ぎるよ (eat too much)』つて」。

【註】 eat too much = overeat yourself 「余り多く食す=食べ過ぎる」

“Same reason as I just gave you, and it may make you sick, right afterwards.”

【譯】「たつた今 (just) 私がお前に云つて聞かした (I gave you) と同じ理由 (Same reason as) で食べ過ぎると (it) すぐ後で (right afterwards) 病氣になります (may make you sick)」。

【註】 sick は米國にては「病氣」。英國にては「氣持悪く」、「胸わるく」なり。「病氣」は ill なり。

right afterwards を強め、「すぐと後で」

sick (シック) 『病氣』。[名]

right (ライト) 『すぐ』。[副]

“I know that,” said Harry; “I was sick last week when we had that good pudding—I mean bad pudding.”

【譯】「そりや知つてます」とハリーは申しました、「私は此の前の週に (last week) 皆んなで (we) あの美味い餡餅 (that good pudding) を食べた (had) 時に (when) 病氣になりました (was sick) —イヤ、悪い餡餅でしたね (—I mean bad pudding)」。

【註】 pudding 臘腸(チャウヅメ)といひて動物の腸に肉などを填めて作るもあれど茲にては耶蘇降誕祭日の御馳走には必ず出づる牛乳、雞蛋、パン粉にて造れる菓子様の物、重に plum を入れ之を plum-pudding と稱す。

—I mean..... 前に美味いといつたが考へて見れば、其お蔭で病氣になつたのだから更に云ひ直して、「ナアニ、ほんとうは、悪い……さ」と云ひしなり。英語にては旨いを good (善い) と云ふ故、good ではなかつた、bad……だと云ひ直したるなり。日本語にては其詞のイヤ旨くうつらず。

“Anything else?” inquired George.

【譯】「まだ他に (else) 何か (Any thing) あるかえ」とジョージが尋ねました。

【註】 Any thing else? = [Is there] anything else? 會話は簡潔を好むを以てかくは云ふ。else を用ふるは、anything, something, nothing, anybody, somebody, nobody などと結合する場合なり。

比較 { Have you some other books?
No, I have nothing else.

week (ウィーク) 『週』。[名]

pudding (プディング) 牛乳、玉子、

パン粉にて造りたる一種の菓子。 [名]

“Yes. You told me to take my knife and fork off my plate when I passed it,” said Harry.

【譯】「エ、まだあります (Yes)。兄さん (You) は私がお皿 (it) を下げる (passed) 時に、ナイフと肉又をお皿から (off my plate) 取つてお置き (take) して私に云ひました (told me to)」とハリーが申しました。

【註】 passed it 其れ(お皿)を渡す、廻す。西洋にては、一品を食了れば、其皿を下げるなり、之を pass と云ふ。

I don't like to have them fall off and then pick them up for you. They are not clean either, and may soil our clothes or the table-cloth.

【譯】「兄さん (I) はお前のナイフと肉又が (them) 落ち (have—fall off) てそれを (them) お前に拾つてやる (pick up for you) なんてことは厭やだ (I don't like)。して又 (either) ナイフや肉又 (They) は清潔 (clean) ない、だから著物 (our clothes) やテーブル掛 (the table-cloth) などを汚します (may spoil)。」

【註】 have.....fall 「.....を落ちしめる」意に非ず、「.....が墜ちる」なり。

例:—I had my father die=My father died. 「父が死んだ」

即ち、上文も—I don't like that they fall off.....として見よ。

“That rule is all right, I know,” said Harry; “but if I play with my knife and fork while my plate is away, every one scolds me.”

~~~~~  
passed (ばースト) 【渡した】。【動、  
過去】  
soil (ソイル) 【汚す】。  
~~~~~  
table-elöth (テーブルクロス) 【食卓
かけ】。【名】
~~~~~  
rule (ルール) 【規則】。【名】

【譯】「其の規則 (rule) は結構です (all right)」とハリーが申しました、「でも (but) お皿 (my plate) が持つて行かれて其處に無い時に (while—is away) 私がナイフと肉又を玩具にして居る (play with) と (if) 誰れでも皆んな (every one) 私を叱ります」。

【註】 play with..... 「.....と一緒に遊ぶ」といふ外に「.....をおもちゃにする」といふ意あり。

例:—Will you play with us? (君は僕等と一諸に遊ばないか)。

You must not play with your watch. (お前は時計をおもちゃにしてはなりません)。

is away 「彼方に持ち行かれて此處になし」との意。即ち、代りの御馳走の来るのを待つて居る間。

“It looks very childish to see a boy like you, play at table!” said George.

【譯】「お前のやうな大坊やが御飯食べながら (at table) 遊んでゐるのを見ると (to see) まことに子供らしく (very childish) 見えますよ」とジョージが云つた。

【註】 to see a boy like you..... 「.....汝の様な大僧が食卓にて戯るゝを見れば」。

“All right, George, I am going to call out, the next time you play with your napkin ring.”

【譯】「ようございますよ、兄さん、私は注意をして (call out) 上げますよ、今度 (the next time) 兄さん (you) 遊びますよ、  
~~~~~  
childfish (チャイルディッシュ) 【子供らしき】。【形】
~~~~~  
nap'kin-ring (ナプキンリング) 【ナプキンを挿む輪】。【名】



が兄さんのナプキンの輪 (your napkin-ring) をおもちゃにして居たら」。

【註】 call out 「注意する」, 「氣を注げる」。

the next time..... 「此の次ぎ..... いふことがあつたら」。

napkin ring 食事に臨み膝の上に敷く布を napkin といふ、食後之を細く疊みて金物製の環に通し置く其環を napkin ring といふなり。

“Will you?” said George, blushing; “so you may, my fine fellow; and I’ll stop, too, if you catch me.”

【譯】 「お前が注意して呉れる? (Will you?)」 とデューヂが云つた、顔を赤らめて (blushing)、「それはよからう (so you may)、えらいよお前は (my fine fellow)、して若しお前が兄さん [の落度] を見付けたら (if you catch me) 兄さんも止しますよ (I’ll stop, too)」。

【註】 my fine fellow は半ばは其抜目なきを賞め、半ばは、「此奴メ」と云ふ叱る心持あり。You rascal などもかゝる場合に用ふることあり。

catch me (playing with my napkin-ring) 「膝掛の輪を弄んで居るところを見付ける」。

Harry looked much pleased at his brother’s answer.

【譯】 ハリーは兄の答を聞いて (at his brother’s answer)

blushing (ブッシュンク) 『顔を赤める』 [動、blushの現在分詞]

fellow (フェロウ) 『奴め (親しみ或は蔑みて云ふ)』 [名]

catch (キアッチ) 『見付ける』 [動]

pleased (プリーズド) 『喜ばされた』 [動、過去分詞]

大層嬉しさうでした (looked much pleased)。

【註】 at his brother’s answer 「兄の答を聞いて」なり。

例:—She rejoiced at the news of her son’s coming home. (彼女は息子が歸郷すると聞いて喜んだ)。

“I tell you, George, you and I don’t try to talk with our mouths full, do we?”

【譯】 「ネー (I tell you)、兄さん、私共は口に一杯頬張つたまゝ (with our mouths full) 話しはしないことにしませうねえ (do we?)」。

【註】 with our mouths full = having our mouths full = our mouths being full = as our mouths are full.

do we? 邦語にて「.....れい」、「.....ではありませんか」。

注意 本文に打消あれば、反問の句には打消を附せず、打消なければ打消を附す。

比較 { He is a good boy, isn’t he?  
He is not a bad boy, is he?

“Who does, Harry?”

【譯】 「誰れがしますか (does)、ハリーや」。

【註】 Who does? = Who talks with his mouth full?

“Shall I tell them not to?” inquired Harry.

【譯】 「私は、しないやうに (not to) 皆んなに (them) 云ひませうか (Shall I tell?)」 とハリーが尋ねました。

【註】 Shall I..... 先方の意志を尋ねる時此の形を用ふ。

full (フル) 『一パイになりたる』 [形]



例:—*Shall I bring you pen and paper?* (ペンを持って参りませうか)。

them 口に一杯頬張つたまゝで談話する悪習ある人々に。  
not to = not talk with their mouths full.

“Yes, I think it would be fair,” replied George;  
“only tell whoever it is quietly, and ask him to please not do it—you will surprise every one, if you are pleasant about it.”

【譯】「左様、さう云つて上げるのは (it) 善い事だ (would be fair) と思ひます (I think)」と ジョージ は答へた。「たゞ (only) 先方の人 (it) が誰であつたにしても (whoever it is) 静かに (quietly) 云つてお上げなさい (tell)、そして 其人に (him) はさうなさないやうに願ひますと (to please not do it) お頼みなさい (ask)—若しお前が人にさう忠告して上げるのに (about it) 氣持よくして上げる (are pleasant) とならば、お前の心懸けには誰れしも感服してしまひましようよ (you will surprise every one)。

【註】 whoever it is = whoever it may be.  
you will surprise every one = every one will be surprised at it.

“I will do as you tell me, George,” said Harry;  
“we will try to have things done right, won't we?”

fāir (ふゐア) 『公平なる』 [形]  
rē-plied' (リアプリド) 『答へた』 [動  
reply の過去]  
who-ēv'ēr (フゑヴァー) 『誰にて  
も』 [代]  
qui'ēt-lj (クワイエトリ) 『静に』 [動]

【副】  
sūr-prīz' (サ〜プライズ) 『驚かす』 [動]  
pleas'ānt (プレザント) 『心地よ  
き』 [形]

【譯】「私は兄さんの仰しやる通り (as you tell me) しませう (will do)、ジョージ 兄さん」と ハリー が申しました、「私達は (we) 何事も (things) 正しくし (have—done right) やうではありませんか (will try to—, won't we?)」。

【註】 have things done right = do all things right.  
won't we? = will we not? 「しませんか = しませうねえ」

“We shall have to look out for ourselves, too,” replied George.

【譯】「私達は亦 (too)、各自自分で (for ourselves) 氣を注げなければなりません (shall have to look out)」と ジョージ は答へました。

【註】 shall have to..... have to = must 「.....せねばならぬ」 それに shall がついて居るから未来を示し「.....せねばなりません」の意となる。

look out 「注意する」「警戒する」

例:—We youth must look out for temptation.

(吾等青年たる者は誘惑を警戒せねばならぬ)。

### MAXIM FOR MEMORIZING.

#### 記憶すべき金言

“Attempt the end, and never stand to doubt!  
Nothing's so hard but search will find it out.

【譯】 目的 (the end) に向つて進め (Attempt)、而して (and) 決して躊躇すると勿れ (never stand to doubt!)。



探究 (search) して尙ほ看出し (find it out) 能はざるほど難し (so hard but) 物はあらず (Nothing's)。

【註】 stand to doubt 「決行にまどふこと」「ためらふこと」

-Nothing's=Nothing is.

so hard but..... =so hard that.....not.....

例:—Nobody is so wise *but* makes some mistakes=Nobody is so wise that he does not make mistakes.

Nothing's.....out=Nothing is so hard that search will not find it out. 英語にては一文中に打消の語二つ以上あるを嫌ふものなれば本文の如く *but* を用ひて *that not* の意を含ませしめたるなり。

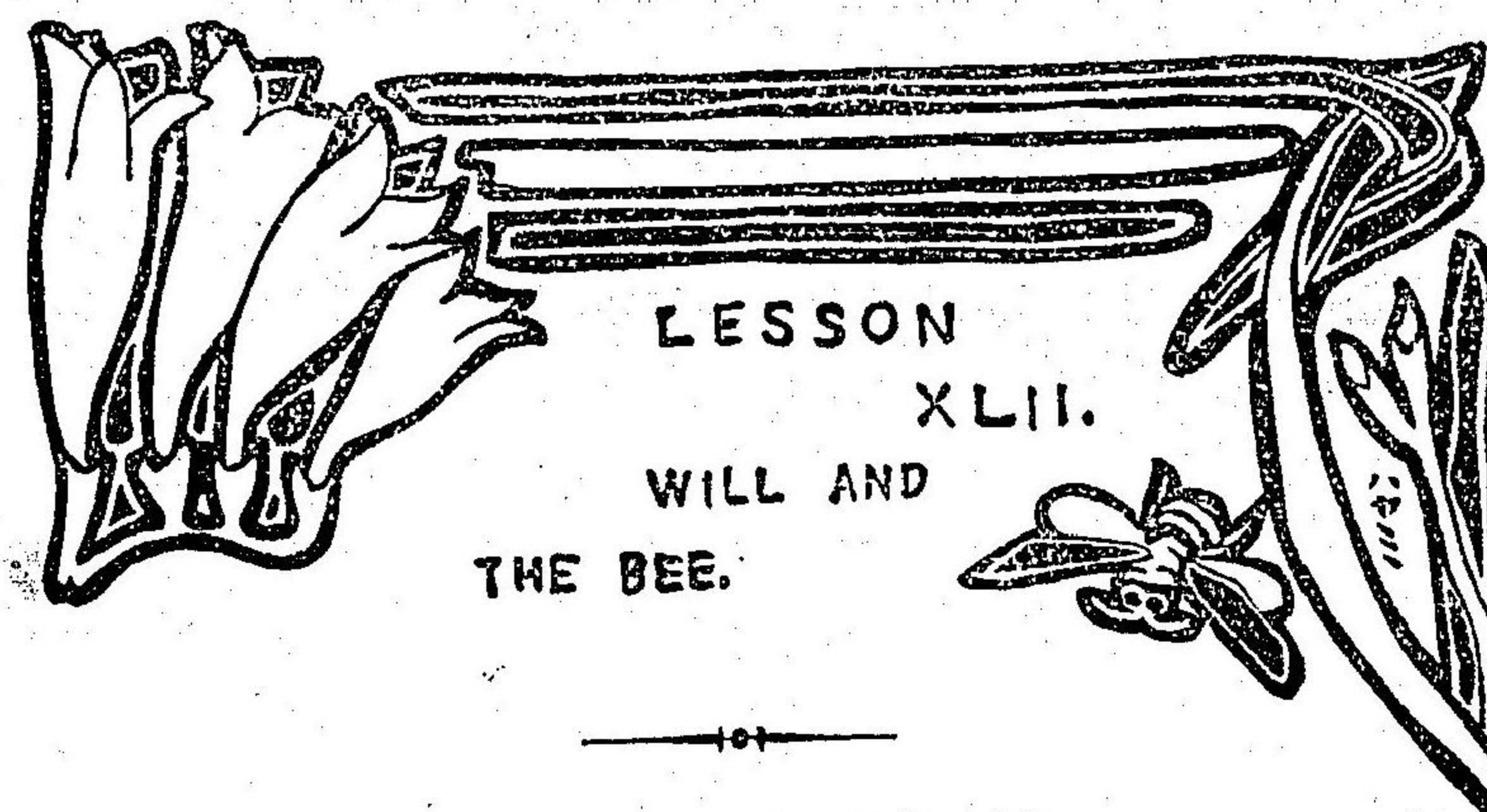
練習:—102. *have* を用ひて下文を英譯せよ。  
学校は来る四月に開かれます。(162頁参照)

練習:—103.  
162頁中央の *are not clean*, *either* の *either* は *too* と如何に相異なるか。

練習:—104. 下文を英譯すべし。  
御飯の時に話をするな。(163頁参照)

練習:—105. 下文を英譯すべし。  
僕は他處見をして居たら見附かつた。(163頁参照)

練習:—106.  
166頁の *ask him please not to do that* を直説法に改めよ。



### ウキルと蜜蜂

One morning, Will, a thoughtless boy,  
Who cared for naught but play,  
Went out into the pleasant fields  
To pass an idle day.

【譯】 或る朝 (One morning) 遊び一方の (Who.....but play) 愚な小供 (a thoughtless boy) のウキルさんが、  
楽しき野邊 (the pleasant fields) に出て行つた (Went out into) 無駄に一日 (an idle day) を暮さうと (To pass)。

【註】 Who.....but play = *Who cared only for play* 「其子は遊びの外には何も構はなかつた」即ち「遊び一方の怠け者」となり。

naught but = *nothing but* = *only*.

To pass an idle day = To pass a day *idly* to pass an idle day は怠けの日を暮すに非ず、無駄に一日を暮すの意なり。

thoughtless (ソートレス) 『思慮なき』。【形】

じ。【名】

idle (あいドル) 『怠けの』。【形】

naught (ノート) nothing と同



At work among the pretty flowers,  
There flew a busy bee.  
“O stay!” cried Will, “and sing your song,  
And play to-day with me!”

【譯】 美しい千草の花 (the pretty flowers) の中に  
(among) 働いて (At work),  
忙がしさうに蜂 (o busy bee) が飛んで居た  
(There flew),  
「オイ、待ち賜へ (O stay!) 歌ひ賜へ (sing your song)  
今日僕と一緒に遊ばうよ (play to-day with me)」  
とウキルは呼ぶ。

練習：—107.  
上の一節を散文に改めよ。

With solemn hum the bee sped on,  
As if the hours were few;  
To idle Will made this reply—  
“You see I’ve work to do.”

【譯】 面真目に唸つて (With solemn hum) 蜜蜂は、飛  
びめぐる sped on)

flew (fīū フリュー) 『飛んだ』。〔動、  
fly の過去〕  
bus’y (biz’y ビズイ) 『忙しき』。〔形〕  
bēe (びー) 『蜂』。〔名〕  
sōl’ēmz (ソレム) 『真面目くさつた』

『オモサカナル』。〔形〕  
hūm (はム) 『ブーン(蜂の聲)』。〔名〕  
spēd (スペッド) 『急いだ』。〔動 speed  
の過去〕

時間が足りないといつたやうに (As if.....few)  
怠け者のウキルに返事をした (made this reply)—  
「御覽の通り (You see) 私には仕事があるんです  
からね (I’ve work to do)」。

練習：—108.  
上の一節を散文に改めよ。

“And do you never wish,” said Will,  
“To rest the long day through?”  
“No day is long,” the bee replied,  
To those with work to do.”

【譯】 「して (And) 君はこの永の一日 (the long day  
through),  
休み度くはないのかね (do you never wish to  
rest)」とウキルが聞けば、  
「爲る仕事がある者 (those with work to do) には (To),  
長いと思ふ日はないよ (No day is long)」と蜂は  
答ふ。

【註】 those with work to do = those *who have* some work to do.

“If you, a bee, have much to do,”  
For Will thus thought it o’er,  
“Why, then, a boy, with hands to work,  
Should surely do much more.

sure’ly (shūr- シューアリ) 『絶対に』。〔副〕



【譯】「蜂だつて (you a bee) そんなに澤山仕事がある  
 (have much to do) ならば (If)、  
働く爲めの (to work) 手がある (with hand) 小供は、  
もつと働かなければならない。 (Should...more)。  
と (thus) ウキルは思ひめぐらしぬ (thought it over)。

【註】 (thus) ウキルは思ひめぐらしぬ (thought it over)。  
 Why, then,.....「それだもの、それぢや.....」といふ意なり。  
 Should surely.....「儘かに、より以上働かなければ濟まない」

練習：—109. 上の節を散文に改めよ。

“There must be work for me to do!”  
 And Will sprung to his feet;  
 “Work on, dear bee, an idler, me  
 You never more shall meet.”

【譯】「僕の爲る仕事 (work for me to do) があるに違  
ひない (There must be)」  
と斯ふ云つて (And) ウキルは跳び起つて  
 (sprung to his feet)、  
 「蜜蜂さん (dear bee) お働き (Work on) 僕も今日か  
らは  
勉強家になりますよ (an idler, me You never  
 meet)」と云つた。

【註】 sprung to his feet 「跳び起つた」「立ち上つた」等の意  
 an idler, me,.....meet = You shall never meet me an idler = I will be a  
 hard worker in the future. 「お前は「今後決して怠情漢たる私 (an idler, me)  
 に會ふことはない」、即ち、今日から以後は勉強家になりますよとの意なり。  
 sprüנג (スプらング) 『跳びはれた』 | idler (あいどら) 『怠け者』。『名』  
 [動、過去]



LESSON XLIII.  
 THE LITTLE  
 MATCH-GIRL.

燐寸賣りの娘

It was very cold; it snowed, and was beginning  
 to grow dark, and it was the last night of the year,  
 too—New Year's Eve.

【譯】 非常に寒い時のこと、雪が降つて、日も暮れか  
いつて (beginning to grow dark) をりました、して又  
 (and.....too) その夜は一年中の一番お終ひの夜 (the last  
 night of the year) 即ち大晦日の晩 (—New Year's Eve)  
 てありました。

【註】 It was very cold 天候、年月、時日等に *it* を主格として用ふ  
 ることは既に學ばれたる所なり。

例 { 天候—It was fine weather. (美しい天気でした)。  
 日—It is the ninth of February. (今日は二月の九日だ)。  
 月—It is October this month. (今月は十月です)。  
 時—What time is it now? (今は何時ですか)。

grow (グロウ) 『なる (次第に)』

【動】

New (nū) Yēar's Eve

(にゅーいーアズいーヴ) 『大晦日』  
 [名]



snowed 名詞の snow「雪」が動詞になれば「雪降る」となる。

grow dark 「段々に暗くなる」 grow = become.

New Year's Eve. 「大晦日の晩」なり。

参考:—New-Year's Day. 正月元旦。

Christmas Eve. クリスマスの前の晩(=廿四日)。

Christmas Day. クリスマス当日(廿五日)。

In the cold and darkness, a poor little girl was wandering about the streets with bare head and bare feet.

【譯】 寒くて暗いところを (in the cold and darkness) 一人の可憐な少女 (a poor little girl) が帽子も冠らず (with bare head) 靴も履かず、こ [前の with と bare feet と] 市街 (the streets) を彷徨つて (wandering about) 居りました。

【註】 In the cold and darkness = In the cold and dark place.

wandering about 「さまよふて」、「彷徨して」 in the.....の形は場所を示すこと多し、—I was left standing in the wet. (私は雨のふる處に立たせられた)。

the streets 「町々」、「市街」。

with bare head bare は「むきだしの」といふ意にて、即ち頭に帽なきの意なり。

[with] bare feet 前と同じ理にて譯文の如くなる。

参考:—The shoemaker's wife often goes barefoot.

(靴屋の妻君裸足で歩く = 紺屋の白袴)。

wan'dér-ing (ワンダーリング) 『さまよひつゝ』 wonder の現在分詞、前の was と合して進行形を成す。

streets (ストリート) 『市街』 [名、複]  
bare (ベア) 『裸の、むきだしの』 [形]

She had a pair of slippers on when she left home, but what was the good of them?

【譯】 少女は (She) 家を出た時には (when she left home) 上靴 (a pair of slippers) を履いて居りました (had on) が (but) その上靴は何の役に立ちましたらう? (what was the good of them?)。

【註】 had.....on 著物ならば「身に著けて居た」「着用」の意となり、履物の類なれば「履いて居た」の意となるべし。

區別:—

(イ) 「着る(働)」は To put on.....—I will put on three shirts.

(ロ) 「着て居る(現状)」は To have.....on,—I have three shirts on.

a pair of slippers 「上靴一足」なり。

例:—A pair of trousers (ツボノ一着)。

誤—I have bought five pairs of shoes.

正—I have bought five pair of shoes.

注意 pair と云ふ字を此の如く用ふる際は二足にても三足にても pairs と云はず。

what was the good of them? the good 「効益」。

「其上靴は何の益をなせしや—何の益もなきよりき」の意。

They were very large, old slippers of her mother's—so large that they fell off the little girls' feet, as she ran across the street to get out of the way of two carriages, which came rushing along at a great rate.

pâir (ペア) 『對』 [名]

slip/pêrs (スリッパズ) 『スリッパ』 [名、複]

rûsh'ing (ラッシング) 『突き進む』 [動]

rush —過去分詞]

râte (レート) 『度』 [名]



【譯】 其上靴 (They) は大層大きな、古いお母さんの上靴でした—大變に大きいものだから (so large that) 上靴 (they) が少女の足から脱げてしまひました (fell off) 少女 (she) が二輛の馬車を避けようとして (to get out of the way of) 道の向ふ側に (across the street) 馳けて行つた時に (as she run)。その馬車は (which) 非常な速力で (at a great rate) 疾走して來た (came rushing along) のです。

【註】 slippers of the mother's slippers of her mother でもいゝ様に思はれるが mother's とするのが慣習になつてゐる。

across the street 「道を横切つて向ふ側に」。道に沿ふて行くは go along the street.

to get out of the way of..... 「.....を避ける」

Keep out of the way of the tram cars. (電車道をよけて歩け)。

Make way for the drunkard. (泥酔漢をよけて通せ)。

Keep off my chilblained feet. (霜焼の足をよけて通れ)。

at a great rate 「大なる速度で」 at は其の度合を示す。

例:—The train was running at the rate of twenty miles an hour.

(汽車は一時間廿哩の割合=の速度で進行して居た)。

One slipper was not to be found, and a boy ran off with the other.

【譯】 上靴の片つ方 (One slipper) がどうしても見付かりません (was not to be found) それに (and) 一人の男兒が來て、も一片つ方の上靴 (the other) を搔擽つて行きました (ran off with)。

【註】 was not to be found=could not be found.

ran off with..... 「.....を奪ひ去つた」。

例:—The highwayman ran off with his money.

(道割が彼の金を持つて逃げ失せた)。

Thus the little girl wandered about barefooted, with some matches in an old apron, whilst she held a bundle of them in her hand.

【譯】 それで (Thus) 少女は 跣足の儘 (barefooted) 彷徨ひました (wandered about)、古ぼけた前垂の申に (in an old apron) マッチを少し入れ (with some matches) 又 (whilst) 一束のマッチ (a bundle of them) を手に (in her hand) 持て (held)。

【註】 whilst=while=at the same time that 「それと同時に又」の意。

Have は所有—I have ten yen. (十圓有る) 手に持って居なくともよし。  
區別 hold は手に持つ—Please hold this bundle for me. (どうか此包を持つて下さい)。

練習:—110. 此章の初めに was wandering about with bare head and bare feet. とありしに何故此節には bare footed とあるや。

No one had bought any matches of her through the whole day—no one had given her a single penny.

bare-footed (ベアフット) 『跣足の過去』

の』[形]

matches (マッチ) 『マッチ』

[名、複]

apron (アプロン) 『前掛』

[名]

whilst (フワイラスト) (while と同じ)。

[接]

held (ヘルド) 『持つた』 [動 hold

の過去]

bundle (バンドル) 『束 (タバ)』

[名]

bought (ボート) 『買った』 [動

buy の過去]

single (シングル) 『一個の、唯一の』 [形]

の』 [形]

penny (ペニ) 『英國の錢』 [名、

複数は pence]



【譯】 此の日朝から (through the whole day) 一人も (No one) 少女のマッチ (any matches of her) を買つて (had bought) やるものは無かつた [前の No one についで] 一錢の金 (a single penny) も呉れてやる (had given her) 者はなかつた (no one)。

練習:—III. 次の文を英譯せよ。

- (い) 此本を三省堂で買った。
- (ろ) 此本を加藤君から買った。
- (は) 此本は英國から取り寄せた。

【註】 Through the whole day 「終日」「朝から晩まで」  
 a single penny 只一枚のペニニー penny は英國の貨幣にして、舊時は銅貨なりしも現在は青銅にて製し、凡そ我四錢に當る。此語は最小の金額を表はすに用ゐて、邦語の一文に當ること多し。

- (イ) I have not a penny with me. (一文も持合せがない)。
- (ロ) I have spent my last penny. (一文残らず使ひ果した)。
- 俚諺:—Penny-wise and pound-foolish. (一文惜みの百知らず)。

Hungry, and blue with cold, the poor little girl crept along, the large flakes of snow covering her yellow hair, which curled round her face; but it gave her no comfort to think of that.

【譯】 お腹はひもじいし (Hungry) 寒くて (with cold) 血色もなく (blue) 哀れや少女はトボ々とやって行つた (crept along) 綿の様な大きな雪 (the large flakes of snow)

|                                   |                                     |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| hūn'grī (はんぐり) 『飢えたる』<br>【形】      | た』【動、creep の過去】                     |
| blū (ブルー) 『藍色の(紫色になれ<br>るを云ふ)』【形】 | flākes (フレイクス) 『片』【名、複】             |
| pōor (プーア) 『可憐な』【形】               | eūrlēd (カールド) 『縮める』、『カ<br>メル』【動、過去】 |
| crēpt (クレプト) 『ソロソロ行つ              | cōm'fort (カムフォート) 『慰藉』<br>【名】       |

が少女の顔の周りに (round her face) ちどれかゝる (curled) 金髪 (her yellow hair) に降りつもつて (covering) ゐた、が少女はその事を思ふ (think of that) てもサッパリ嬉しくはなかつた (it gave her no comfort) のである。

【註】 blue with cold 「寒氣のために血色もなき」 with は原因を示す、

例:—He was white with anger. (彼は怒って蒼くなった)。

My hands were benumbed with cold.

(私の手は寒氣の爲めに感じが失くなりました)。

which curled の which は her yellow hairs を受けたり。

it gave her no comfort..... 毛髪を環をなして顔に垂るゝところへ白雪のちらちらと舞ひかゝれるはいと美しきものなるが、今や此少女は飢餓に迫り且つ凍死せんとする場合なるを以て其己が髪を環はしきを思ふても何等樂しき事もなしとの意なり。

In a corner between two houses, she found shelter. Curling herself up, she drew her poor little feet, which were red and blue with cold, under her as well as she could; but she was colder than ever, and dared not go home, for, as she had sold no matches, her cruel father would beat her.

【譯】 二軒の家の間の (between two houses) 片隅に (In a corner) 入つて雪を凌いだ (she found shelter)。少女は自分の身體を縮めて (Curling herself up) 寒氣の爲に

|                                   |                            |
|-----------------------------------|----------------------------|
| eōr'nēr (コーナ) 『隅』                 | crū'el (クルール) 『残酷な』<br>【形】 |
| shēl'tēr (シェルタ) 『避難所、隠れ<br>場所』【名】 | bēat (ビート) 『打つ』【動】         |



赤と青の斑ぶちになつてゐる (which were red and blue)  
 ミヂメな足を出來る丈け (as well as she could) 身體の下  
 に (under her) 引き込めた (drew) が、少女は益々寒氣を  
 覺えた (was colder than ever) 而かも (and) 家に歸らうと  
 はしない (dared not go home)、それといふも (for) 少女  
 が一本もマツチを賣らなかつた (had sold no matches)  
 のて (as) 家に歸れば邪慳なお父さん (her cruel father) に  
 擲られるからなのです [前の for に此意含む]。

【訂】 found shelter 「(風雨寒暑、本文にては雪) を凌ぐ場所を見附けた」

例:—Caught in a shower, I took shelter under a large tree.

(驟雨に會つて大木の下に雨宿りをした)。

Curling herself up 「身體をぢぢめた」 curl は身體を「丸く小さく縮める」ことなり。

drew 「引いた」不規則動詞、draw, drew, drawn 次の under her へかゝる。

as well as she could 「出來る丈け」此句には「出來ないながらも」と云ふ意を含む。

colder than ever 「益々寒く」「前よりも一層寒く」

例:—He works harder than ever. (彼は倍々勉強して居る)。

her cruel father would..... 「若し家に歸れば邪慳なお父さんが..... するだらら」と條件を含む。

beat her 「少女を打擲する = 少女は擲られる」

dared not go home 「家へよう歸られない」 dare は「憚らずする」意にして not と合すれば「憚つてなし得ない」畏縮の態度を示す。

Besides, it was cold at home, for they lived just

under the roof, and the wind blew in, though straw and old rags had been stuffed into the large cracks.

【譯】 加之しよかに (Besides) 家に居ても (at home) 寒い (it was cold) 何故ならば (for) 少女の一家は (they) 家根裏にチカの部屋に住んで (lived just under the roof) 風 (the wind) がヒューヒュー吹き込む (blew in) 有様であるから [前の for に意含む]、そのくせ (though) 藁 (straw) や襤褸ぼろ切片きれ (old rags) が大穴 (the large cracks) には填め込まれてある (had been stuffed into) が [前の though につづく]。

【註】 lived just under the roof lived in an attic 西洋には貧乏人は二三十階の大建築の一番上、即ち家根のスク下に住む。五六階位の處が中流の住居で最下層は商人などの店舗等なり。just は「スク」「チカ」。

blew 「吹いた」 in が合して blew in 「吹き込んだ」となる。

stuffed into..... 「.....へ詰め込んだ」

cracks 「隙間」「破れ穴」

His little hands were quite benumbed with cold.  
 O how much good one match would do, if she dared but take it out of the bundle, draw it across the wall, and warm her fingers in the flame!

blew (blū ブリュウ) 『吹いた』 [動]

blow の過去

straw (ストロー) 『藁』 [名]

rags (ラグズ) 『ボロ』 [名、複]

stuffed (スタッフ) 『押し詰めた』

[動]

cracks (クラクス) 『割目』『ヒビ』

[名、複]

bē-sides' (ベサイドズ) 『其上に』『のみならず』 [副]

bē-nūmbed' (ベナムド) 『痺れたる』 [動、過去分詞]

warm (ウオーム) 『温める』 [動]

fin'gərs (フィンガズ) 『指』 [名、複]

flame (フレイム) 『燐』 [名]



【譯】 少女の小さい手は寒氣の爲めに全く麻痺して感じがなかつた (were quite benumbed) 此場合若し少女がマツチの束から (out of the bundle) 一本取出して、壁に摺り付け (draw it across the wall)、そして其の燃ゆる火燭で (in the flame) 指を温めようとしさへしたならば (if she dared but warm her fingers) 唯一本のマツチ (one match) でも其効用は實に大したものでありませう (O how much good—would do!).

【註】 how much good.....would do 「マツチ一本の効用如何許ならん=マツチ一本の効用實に偉大なものであらう」

if she dared but=if she only ventured to.....「若し彼女が.....いふ奮發をさへしたならば」

注意 此邊の意味は大に異論の存する處にして、或人は how much good を反語に見て「何程の効力かあらんや=何の効果もなし」と取り、if she の if を *though* と見ると正しと主張すれども譯者の解釋にては *dared but* .....の but が only の意で「.....さへしたならば」と譯する以上は此説に不服なり。

She took one out and drew it across the wall. How it sputtered and burned! It burned with a warm, bright flame, like a candle, and she bent her hand round it: it was a wonderful light!

【譯】 少女は一本取出し (took one out) て壁に摺り付けた (drew it across) すると其マツチはバチバチと音して (sputtered) 實によく燃えさせたよ (burned!) マツチ (It)

|                                     |                              |
|-------------------------------------|------------------------------|
| spüt/ëred (スプタド) 『バツと火花が散つた』 [動、過去] | bënt (ベント) 『曲げた』 [動、bend 過去] |
| cän'dle (キャンドル) 『蠟燭』 [名]            |                              |

は蠟燭の様に (like a candle) 温かな (warm) 鮮明な (bright) 燭を發して燃えた (burned with) そして少女は手を燭の周りに (round it) 翳した (bent) 其燭 (it) は驚くべき光 (a wonderful light) てありましたのです。

【註】 How it sputtered.....! 「あゝ實に其のマツチはバチバチといつてよく燃えたものです」

類例:—How wise he is. (彼は實に賢い)。

bent 「曲げた」不規則、規則共用の動詞にして其變化は bend; bent; bent, bended; bended.

It seemed to the little girl as if she were sitting before a large stove, in which the fire burned brightly, and gave out such comfort and such warmth!

【譯】 少女には (to the little girl) [其燭が大きな暖爐であつて] 自分は (she) その大暖爐の前に (before a large stove) 坐つて居るやうな (as if she were sitting) 氣がした (It seemed)、その暖爐には (in which) 火が熾んに (brightly) 燃えて、其の四邊はポカ々々として實に氣持好くありました。

【註】 It seemed to the little girl = The little girl thought, gave out..... 「.....を放つた」主格は前の stove なり。

comfort 「心地好きこと」殊に身體に就いて云ふ。

such = very much 「如何にも」「實に」。

warmth 「温氣」「温熱」。區別:—warm 「温かき」[形]。

She stretched out her feet to warm them, too,—

|                          |                                         |
|--------------------------|-----------------------------------------|
| stöve (ストウヴ) 『暖爐』 [名]    | strëched (ストレチド) 『伸ばした』 [動、stretch の過去] |
| warmth (ウォームズ) 『温かさ』 [名] |                                         |



but the flame went out, the stove disappeared, and there she sat with a little bit of the burnt match in her hand.

【譯】 少女は又自分の足 (her feet) を延べて (stretched out) 濡めやら (to warm them) とした—が燐 (the flame) が消えて (went out) 暖爐が見えなくなつた (disappeared) そして其處には少女が手に (in her hand) 小さな燃えさしのマツチ (a little bit of the burn match) を持つて居りました (there she sat with)。

【註】 went out 「消えた」燈火の消ゆるを go out といふ。  
例:—The light went out of itself. (燈火が獨り手に消えた)。  
the burnt match 「一旦燃やされたるマツチ」

Another was lighted; it burned, and, where the light fell upon the wall, she could see through it and into a large room.

【譯】 もう一本 (Another) マツチを點けた、マツチ (it) が燃えた、すると燈火が壁に映した部分 (where.....fell upon the wall) 其壁を見透して (through it to) とある大廣間 (a large room) の内部を見る (see into) ことが出来た。

【註】 Another was lighted = Another match was lighted 「他の一本のマツチが點火された = 他の一本のマツチを點火した」  
fell upon the wall 「壁に映した」なり。

類例:—The first rays of the next morning sun shone upon our national dis'ap-peared! (ディズアピニアド) | burnt (ばーント) 『焼けたる』 [形] 『消えた』 [動、disappear の過去]

flag flying at the top of the castle. (翌日未明城頭我國旗の揚るを見る)。

see through it 其の壁を通して見る = 見通す。

[see] into a large room 大きな室の中を [見る]。

There the table was covered with a cloth of dazzling white, and with fine china; and a roast goose was smoking upon it.

【譯】 見ると其處には (There) 食卓が眩ゆき許り純白の (of dazzling white) 卓布 (a cloth) で蔽はれ (covered) て美しい陶器 (fine china) が載つて居た (with) そして、食卓上 (upon it) の焼いた鶩鳥 (a roast goose) からは煙が立つてゐた (was smoking)。

【註】 of dazzling white 「眼もキラキラするような白い色の」 white が名詞なる故 of を要す。

with fine china (upon it) 「その上には立派な陶器が載つて」

china 「陶器」集合名詞なり。

a roast goose 「焼いた鶩鳥」クリスマスにお極りの御馳走なり。

was smoking 今焼きたてのところなれば其の鶩鳥より「煙氣が立ち居り」しなり。

But what was still more delightful, the goose sprung down from the table, and, with a knife and

dā'z'zling (だ'ズ'ズ'リング) 『マバユ

キ』 [形]

chinā (ち'イ'ナ) 『陶器』 [名]

rōast (ろ'ウ'スト) 『燐きたる』 『焼

りたる』 [形]

goose (ぐ'ース) 『鶩鳥』 [名、複

geese]

smōk'ing (ス'モ'ウ'キング) 『煙の立つ』 [形]

dē-light'ful (デ'ライ'ト'フル) 『喜ばしき』 『見て心地よき』 [形]